

取扱説明書

BS・110 度 CS・地上デジタルチューナー内蔵
USB ハードディスク録画対応
ハイビジョン液晶テレビ

HJ43N3000(43V型)

HJ50N3000(50V型)

HJ55N3000(55V型)

はじめに

機器の準備を
する

設定をする

番組の録画、再
生、予約をする

接続した機器
を使う

その他の情報

Hisense



HDMI™
HIGH DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

お買い上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

特に「安全上のご注意(2～7ページ)」は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになった後は、保証書とともにいつでも見ることができる場所に保管してください。

ES-A170801



目次

目次.....	1
安全上のご注意.....	2
商標について.....	8
はじめに	9
使用上のご注意・お手入れについて.....	10
各部の名前	12
機器の準備をする.....	17
付属品を確認する	18
リモコン.....	19
デジタル放送について.....	20
設置のしかた.....	22
アンテナの接続	25
LAN への接続(双方向通信用).....	27
電源コードの接続.....	29
他の機器との接続.....	30
設定をする	37
一般設定をする.....	38
テレビを見る.....	39
設定メニューについて.....	40
設定メニューから設定をする	41
電子番組表 (EPG).....	49
バージョンアップについて.....	50
番組の録画、再生、予約をする	51
番組の視聴予約をする.....	52
番組の録画・録画予約をする.....	54
録画した番組を見る、編集する	59
接続した機器を使う	61
接続した機器の映像を見る.....	62
写真、動画や音楽を再生する	63
その他の情報	67
故障かな?と思ったら.....	68
用語の解説	72
主な仕様.....	74
無線の周波数について.....	79
保証とアフターサービス.....	80

● 安全上のご注意

ご使用の前に本書、特に「安全上のご注意」をよくお読みいただき、正しく安全に使用してください。
この取扱説明書及び製品では、次のような表示をしています。これらは、あなたや他の人々への危害や、財産の損害を未然に防ぐための表示です。危害や損害の内容や程度に応じて、表示を以下のように区分しています。
内容をよく理解していただいてから本文をお読みいただき、記載事項をお守りください。



警告

この内容をお守りいただかないと、大けがに至るような、重大な事故が起こる可能性があります。



注意

この内容をお守りいただかないと、人のけがや財産の損害を招くことがあります。

図記号の意味(例)



気をつけていただきたいという記号です。 してはいけないという記号です。 していただきたいという記号です。



警告(移動、設置)



正しい方法で運搬 / 移動する

誤った方法で運搬したり移動したりすると、本機が落下し、打撲や骨折をしたり、大けがをすることがあります。運ぶときは、衝撃を与えないようにしてください。落下や破損などにより、大けがの原因となります。テレビの底面を持つときは、後ろ側から手を回してしっかりと持ってください。

修理や引っ越しなどで本機を運ぶ場合は、お買い上げ時に本機が入っていた箱と、クッション材を使ってください。

[HJ50N3000/HJ55N3000]は 12kg を超える重量物ですので、必ず 2 人で運搬 / 移動 / 設置をしてください。



運搬 / 移動するときは接続されている線などをすべて外す

本機を運ぶときは、本機に接続されている電源プラグやケーブルなどを全てはずしてください。電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



使用・設置場所について

電源コンセントに手が届く場所に設置し、何か異常が起こったときは、すぐに電源プラグを抜くようにしてください。暗すぎる部屋は目を疲れさせるのでよくありません。適度の明るさの中でご覧ください。また、連続して長い時間、画面を見ていることも目を疲れさせます。



通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- ・ あお向けや横倒し、逆さまにしない。
- ・ 棚や押入の中に置かない。
- ・ ホットカーペットの上に置かない。
- ・ 布をかけない。

安全上のご注意



警告(移動、設置)(つづき)



周囲に間隔を空ける

周囲に間隔を空けずに設置すると、通気孔がふさがって内部に熱がこもり、火災や故障の原因となります。下記以上の間隔を空けて、熱がこもらないように設置してください。

- ・ 上部: 30 cm
- ・ 左右: 10 cm
- ・ 下部: 10 cm (壁掛けの場合)
- ・ 背面: 6 cm



壁に取り付ける場合は、必ず専門の業者に取り付けてもらう。



設置時は設置関係者以外近づかない

専門業者以外の方が取り付けたら、取り付けが不適切だと、本機が落下するなどして、打撲や骨折など大けがの原因となることがあります。



スタンドを正しく取り付け、転倒防止の処置を必ず行う

スタンドは本書にしたがって正しく取り付けてください。また、スタンドや床、壁などの間に、適切な転倒防止の処置を行ってください。転倒防止の処置をしないと、本機が倒れてけがの原因となることがあります。



不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、本機が落ちたり倒れたりしてけがの原因となります。平らで十分に強度があり、落下しない所に置いてください。



乗り物の中や船舶の中などで使用しない

移動中の振動により、本機が転倒したりして、けがの原因となることがあります。塩水をかぶると、発火や故障の原因となることがあります。



ほこり、油煙、湿気の多い場所や、虫の入りやすい場所、直射日光が当たる場所、熱器具の近くに置かない。

火災や感電の原因となることがあります。銭湯や温泉の脱衣場などに設置すると、温泉に含まれる硫黄などにより、硫化したり、高い湿度で本機が故障したりすることがあります。



本機を医療機器の近くに設置しない

医療機器の誤動作の原因となることがあります。



屋外や窓際で使用しない

雨水などにさらされ、火災や感電の原因となることがあります。また、直射日光を受けると、本機が熱を持ち、故障することがあります。海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることがあります。



水のある場所に置かない

水が入ったり、ぬれたり、風呂場で使うと、火災や感電の原因となります。雨天や降雪中の窓際でのご使用は特にご注意ください。



本機の表面が割れたときは、電源プラグをコンセントから抜くまで本機に触れない

電源プラグをコンセントから抜かず本機に触れると、感電の原因となることがあります。



目や口に液晶を入れない / ガラスの破片に触れない

液晶パネルが破損すると、破損した部分から液晶(液状)が漏れたり、ガラスの破片が飛び散ることがあります。この液晶やガラスの破片に素手で触れたり、口に入れたりしないでください。ガラスの破片に触れるとけがをすおそれがあります。

また、漏れた液晶に素手で触れると中毒やかぶれの原因となります。臭いをかぐこともやめてください。誤って目や口に入ったときは、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

安全上のご注意



警告(電源コード・プラグ)



コンセントや配線機器の定格を超える使いかたや、交流 100V(50/60Hz) 以外では使用しない

たこ足配線などで定格を超えると、発熱により火災の原因となります。海外などや異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。



電源コードを傷つけたり、加工したり、ねじったり、引っ張ったり、無理に曲げたり、加熱したりしない

電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線)交換をご依頼ください。そのまま使用すると、コードが破損して、火災・感電の原因となります。



電源コードに重いものを載せたり、本機の下敷きにしたりしない

火災・感電の原因となります。



ゆるいコンセントに接続しない

電源プラグは、根本までしっかりと差し込んでください。根本まで差し込んでゆるみがあるコンセントには差し込まないでください。発熱して火災の原因となることがあります。電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。



電源プラグを差し込むのは、他機器との接続が終わってから

コンセントに差したまま他機器と接続すると、感電の原因になることがあります。他機器との接続が終わった後に、電源コードを本機に差し込んでから電源プラグを壁のコンセントに差してください。



電源プラグは定期的にお手入れを

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを取ってください。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れすると、感電の原因となることがあります。



ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因になることがあります。



電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードに傷が付き、火災や感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



本電源ケーブルは本機のみを使用します。本機以外で他の電源ケーブルを使用しないでください、また付属の電源ケーブルを他の製品への使用もおやめください。

火災・感電・ショートの原因となります。

安全上のご注意

警告(使用)

本機にぶらさがらない

本機が壁からはずれたり、倒れたりして、本機の下敷きになり、大けがの原因となることがあります。

煙やにおい、音などの異常が発生したら、本機の電源を切り、電源プラグを抜く

異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。修理をお買い上げ店に依頼してください。お客様自身による修理は絶対におやめください。

内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやロウソクを置かない

内部に水や異物が入ると火災の原因となります。万一、水や異物が入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、修理をお買い上げ店に依頼してください。

分解や改造をしない

内部には電圧の高い部分があり、裏ぶたを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の点検や修理はお買い上げ店にご依頼ください。

警告(電池)

電池を火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱、充電しない

電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池はプラスとマイナスの向きに注意し、機器の表示どおり正しく入れる

間違えると電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池を使い切ったときや、長時間使わないときは、電池を取り出す

電池を長時間入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、故障・火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない。新しい電池と古い電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

安全上のご注意



注意



お手入れのときや、旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグを抜く

お手入れのときや、本機を長期間使用しないときは、安全のため、必ず電源プラグを抜いてください。本機は電源スイッチを切っただけでは、完全に電源からは切り離されておらず、常に微弱な電流が流れています。完全に電源から切り離すためには電源プラグをコンセントから抜く必要があります。コンセントは製品の設置場所に一番近く、抜き差しがしやすい場所を選んでください。



電源コードを熱器具に近づけない

電源コードの被覆が溶けて火災・感電の原因となることがあります。



人が通行するような場所に置かない。
コード類は正しく配置する

電源コードや信号ケーブルは、足に引っかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。人が踏んだり、引っかけたりするような恐れのある場所を避け、充分注意して接続・配置してください。



風通しの悪いところに入れない・密閉した箱に入れない・じゅうたんや布団の上に置かない・布などをかけない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



たこ足配線をしない

火災・感電の原因となることがあります。



重いものを置いたり、上に乗ったりしない

倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。特にお子様やペットにはご注意ください。



電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全だと発熱したり、ほこりが付着して火災・感電の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。



液晶画面に物をぶつけない

ガラスが割れ、飛び散ったガラスにより、けがの原因となります。



内部の掃除をお買い上げ店に依頼する

内部にほこりがたまると火災・故障の原因となることがあります。3年に1度は内部の掃除をお買い上げ店にご依頼することをお勧めします。



音量について

周囲の人の迷惑とならないよう適度の音量でお楽しみください。特に、夜間での音量は小さい音でも通じやすいので、窓を閉めたりヘッドホンを使用したりして、隣近所への配慮を充分にし、生活環境を守りましょう。ヘッドホンを使用されるときは、耳を必要以上に刺激しないよう、適度な音量でお楽しみください。耳を強く刺激するような大きな音で長時間続けて聞くと、聴覚に悪い影響を及ぼすことがあります。耳鳴りがするような場合は、音量を下げるか、使用を中止してください。また、ヘッドホンをつけたまま眠ってしまうと、災害時などに避難が遅れてしまうなどの危険があります。呼びかけられたら返事ができるくらいの音量でお聞きください。



アンテナの工事は電気店に依頼する

アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、必ず電気店にご依頼ください。

安全上のご注意

⚠ 注意 (電池)

! 指定された種類の電池を使用する

間違えると電池の破損・液もれにより、火災や周囲を汚損する原因となることがあります。

⊘ 電池は幼児の手の届くところに置かない

電池は飲み込むと、窒息の原因となったり、胃などに止まったりして大変危険です。飲み込んだ恐れがあるときは、ただちに医師に相談してください。

⊘ 電池の液がもれたときは素手でさわらない

- ・電池の液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- ・皮膚や衣類に付着した場合は皮膚に傷害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚の炎症など傷害の症状があるときは、医師に相談してください。

⚠ 廃棄するときは

廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

⚠ 注意 (廃棄)

⊘ 一般の廃棄物と一緒にしない

一般の廃棄物と一緒にしないでください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に本機を捨てないでください。

! 家電リサイクル法に従って廃棄する

家電リサイクル法の規定により、お客様がご使用済みのテレビを廃棄される場合は、収集・運搬と再商品化等の料金をお支払いいただき、対象品を販売店や市町村などの自治体に適正に引き渡すことが求められています。

詳細に関するお問い合わせは、家電製品協会家電リサイクルセンターまでお願いいたします。

電話: (フリーダイヤル) 0120-319640

ホームページ (URL):

http://www.rkc.aeha.or.jp/text/p_procedure_s.html

● 商標について



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



HDMI、High-Definition Multimedia Interface および HDMI ロゴは、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における商標または登録商標です。



デジタル音声技術は、高品位な画面に合わせた高品質の音声を転送します。



- ・本製品は、株式会社 ACCESS の NetFront Browser を搭載しています。
- ・ACCESS、ACCESS ロゴ、NetFront は、株式会社 ACCESS の日本国、米国その他の国・地域における商標または登録商標です。

アイコンについて

⚠️ ご注意

説明文中で、とくにご注意ください点を説明する際に使用しています。重要な内容を含みますので、必ずお読みください。

お知らせ

本機を快適にお使いいただく上で、知っておいていただきたい内容を説明する際に使用しています。できるだけお読みください。

はじめに

この章では、本機をご利用いただく上での注意事項や各部の名前など、最初に知っておいていただきたい内容を記載しています。

使用上のご注意・お手入れについて	10
各部の名前	12

使用上のご注意・お手入れについて

液晶画面について

- ・液晶画面を太陽に向けたままにすると、液晶画面を傷めてしまいます。屋外や窓際には置かないでください。
- ・液晶画面を強く押したり、ひっかいたり、上に物を置いたりしないでください。画面にムラが出たり、液晶パネルの故障の原因になります。
- ・寒いところでご使用になると、画像が尾を引いて見えたり、画面が暗く見えたりすることがありますが、故障ではありません。温度が上がると元に戻ります。
- ・静止画を継続的に表示した場合、残像を生じることがありますが、時間の経過とともに元に戻ります。
- ・使用中に画面やキャビネットがあたたかくなることがあります。故障ではありません。

輝点・滅点について

- ・画面上に赤や青、緑の点(輝点)が消えなかったり、黒い点(滅点)が表れたりしますが、故障ではありません。液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

メモリーに保存されるデータに関するご注意

- ・本機のメモリーには、各種の機能設定データや放送局からのメール・番組購入履歴などが記録されます。
- ・本機のメモリーには、放送事業者の要求によりお客様が入力した個人情報や、データ放送のポイントなどが記録される場合があります。
- ・本機を廃棄・譲渡などする場合には、上記のメモリーに記録されているデータを消去することを強くおすすめします。
- ・本機の不具合・修理など、何らかの原因で、本機のメモリーに保存されたデータが破損・消滅した場合など、いかなる場合においても記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。また、いかなる場合においても、当社にて記録内容の修復は致しません。予めご了承ください。
- ・何らかの原因でコンテンツが外部録画機器で記録できなかった場合や、外部録画機器で記録されたコンテンツが破損あるいは消去された場合など、いかなる場合においてもコンテンツの補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。予めご了承ください。

スクリーン画面のお手入れについて

- ・お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・液晶の画面は特殊加工がされていますので、なるべく画面に触れないようにしてください。また画面の汚れをふきとるときは、乾いた柔らかい布でふきとってください。
- ・アルコール、シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- ・化学ぞうきんをご使用の際は、その販売会社にご確認ください。
- ・布にゴミが付着したまま強くふいた場合、傷が付くことがあります。
- ・殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり塗装がはげたりすることがあります。

外装のお手入れについて

- ・乾いた柔らかい布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布でふきとり、乾いた布でカラ拭きしてください。
- ・アルコールやベンジン、シンナー、殺虫剤をかけると、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、使用しないでください。
- ・布にゴミが付着したまま強くふいた場合、傷が付くことがあります。
- ・ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

アンテナについて

- ・妨害電波の影響を避けるため、交通の頻繁な自動車道路や電車の架線、送配電線、ネオンサインなどから離れた場所に立ててください。
- ・アンテナ線を不必要に長くしたり、束ねたりすると、映像が不安定になる原因となりますのでご注意ください。
- ・アンテナは風雨にさらされるため、定期的に点検、交換することを心がけてください。特にばい煙の多いところや潮風にさらされる場所では、アンテナが傷みやすくなります。映りが悪くなったときは、お買い上げ店にご相談ください。

● 使用上のご注意・お手入れについて

電磁波妨害に注意してください

- ・本機の近くで携帯電話などの電子機器を使うと、電磁波妨害などにより機器相互間での干渉が起こり、映像が乱れたり雑音が発生したりすることがあります。

長時間ご使用にならないとき

- ・長時間使用しないと機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて作動させてください。

国外では使用できません

- ・この製品が使用できるのは日本国内だけです。外国では放送方式、電源電圧が異なりますので使用できません。
This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

B-CAS カードは必要ときだけ抜き差ししてください

- ・必要以外に抜き差しすると、故障の原因となることがあります。
- ・B-CAS カードの中には IC が内蔵されています。折り曲げたり、大きな衝撃を加えたり、端子部に触れたりしないようにご注意ください。
- ・本機に差し込むときは「逆差し込み」や「裏差し込み」にならないように挿入してください。

取り扱い上のご注意

- ・液晶画面を強く押ししたり、ボールペンのような先の尖ったもので押さないでください。また、落としたり強い衝撃を与えないようにしてください。液晶画面のパネルが割れることがあります。
- ・振動の激しいところや不安定なところに置かないでください。また、絶対に落としたりしないでください。故障の原因となります。

使用環境について

- ・本機を冷えきった状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、動作部に露が生じ(結露)、本機の性能を十分に発揮できなくなるばかりでなく、故障の原因となることがあります。このような場合は、よく乾燥するまで放置するか徐々に室温を上げてからご使用ください。
- ・周辺温度は 0 ~ 35℃での範囲内でご使用ください。正しい使用温度を守らないと、故障の原因となります。

急激な温度差がある部屋(場所)でのご使用は避けてください

- ・急激な温度差がある部屋(場所)でのご使用は、画面の表示品位が低下する場合があります。

リモコンの取り扱いについて

- ・落としたり、踏みつけたり、液体をこぼしたりしないよう、ていねいに扱ってください。
- ・直射日光が当たるところ、暖房器具のそばや湿度が高いところには置かないでください。

映像や音声の遅れについて

- ・テレビ放送、外部入力のソースによっては、映像や音声に若干の遅れが生じる場合があります。映像、音声でリズムを取るテレビゲームやカラオケ機器によっては、違和感を感じる場合がありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。

USB ハードディスクについて

- ・USB ハードディスクを本機に正しく接続してください。正しく接続されていないと、本機では USB ハードディスクの登録ができません。またハードディスクを破損するおそれがあります。
- ・動作中は、テレビ本体、または本機に接続した USB ハードディスクの電源を切ったり、接続ケーブルを抜いたりしないでください。ハードディスクの故障の原因になります。

各部の名前

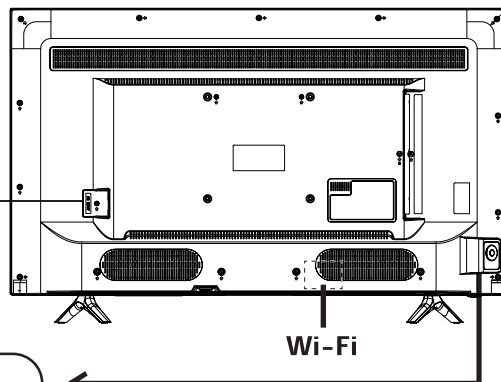
本体操作部

(正面)



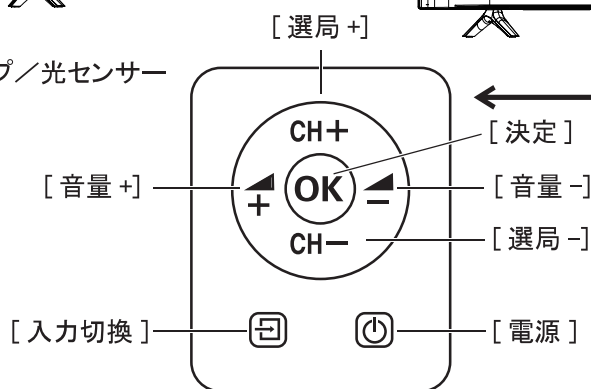
リモコン受光部／ランプ／光センサー

(背面)



AC 電源

Wi-Fi



お知らせ

- USB3.0 ハードディスクを使用する場合、できるだけ無線 LAN から離してください。

[決定]

電源が入った状態で押すと、入力切替、電源、終了等のメニューが表示されます。各項目で選択を決定します。

[入力切換]

接続している外部機器の映像に切り換えます。

[音量 +]/[音量 -]

スピーカー（またはヘッドホン）からの音量調整を行います。

[選局 +]/[選局 -]

チャンネルの順送りによる選局を行います。

お知らせ

- メニュー表示中に以下のボタンを押すと、メニューの操作ができます。

[選局 +]/[選局 -]: 上下の移動を行います。

[音量 +]/[音量 -]: 左右の移動を行います。

[電源]

スタンバイと電源オンの切り換えを行います。

⚠ ご注意

- スタンバイのときは、電源プラグを抜いた状態と比較して消費電力が高くなります。旅行など、本機を長時間使用しない場合で録画予約をしていないときは、電源プラグを外してください。

お知らせ

- 電源ランプは本機の状態により以下のように点灯します：

スタンバイ: 赤

電源オン(録画、予約等無し): 緑

スタンバイ、録画予約あり: 黄緑

電源オン・録画予約あり: 青

スタンバイ、録画実行中: 紫

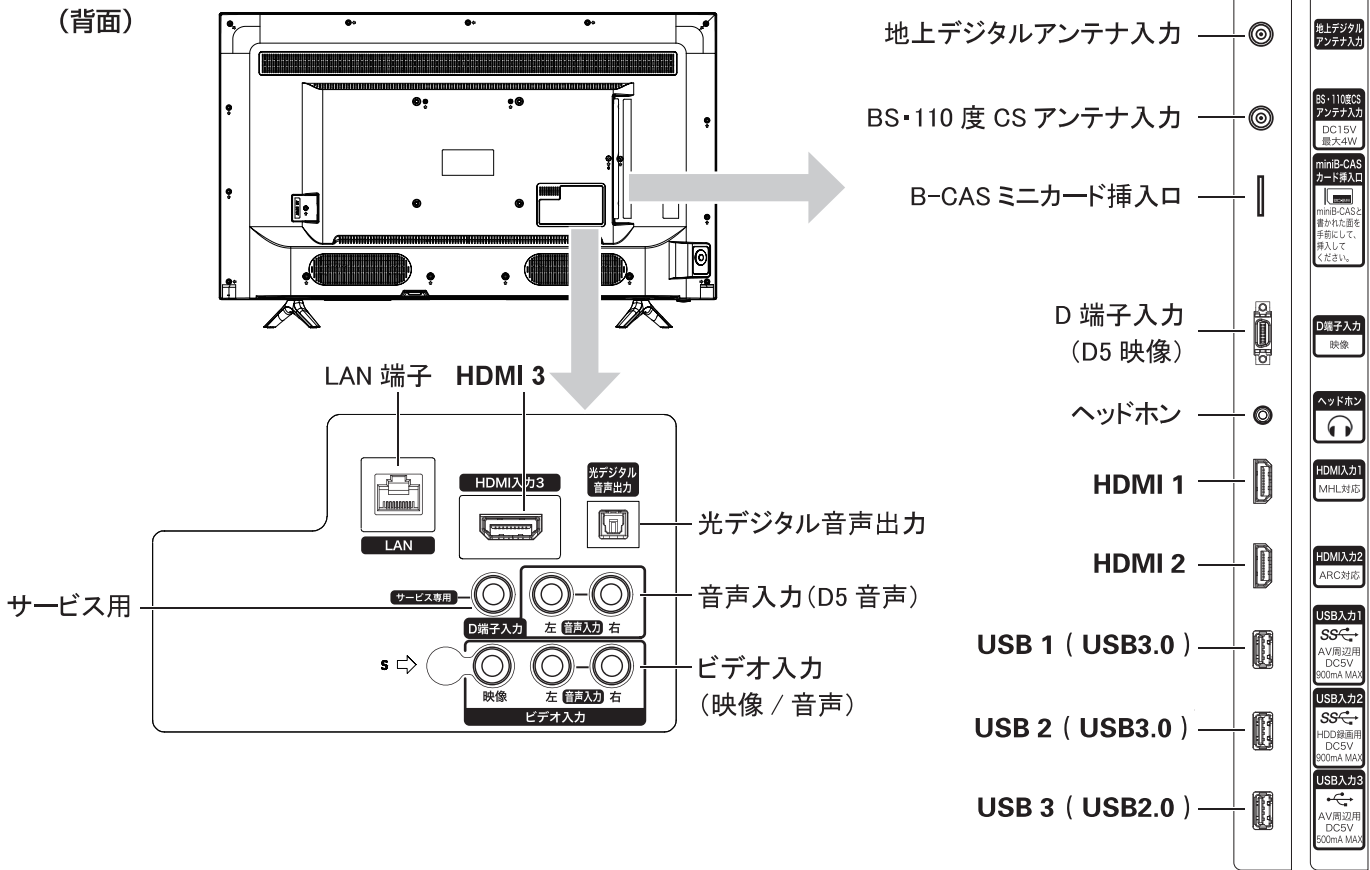
電源オン、録画実行中: 水色

・状態遷移中では、上記の仕様とは異なる色の変化をすることがありますが、故障ではありません。

・付属のリモコン以外で操作しても、LED ランプが点滅するときがあります。

各部の名前

本体接続部



地上デジタルアンテナ入力

アンテナケーブルを使用して地上デジタルアンテナを接続します。

BS・110度 CS アンテナ入力

アンテナケーブルを使用してBS・110度 CS アンテナを接続します。

ミニ B-CAS カード挿入口

ミニ B-CAS カードを挿入します。

USB 1/USB 2/USB 3

USB 規格の端子で、USB2.0、USB3.0 USB ハードディスクや USB メモリー等を接続します。

お知らせ

- USB 1、USB 2 入力のみ、USB3.0 機器に対応しています。
- 録画機能を使用する場合、USB 1、USB 2 入力のご使用をお勧めします。

ヘッドホン

ヘッドホンと接続します。

D 端子入力 (D5 映像)

市販のD端子ケーブル・音声ケーブルを使用して対応機器を接続します。

LAN 端子

データ放送や双方向通信にブロードバンドへ接続するためのモデムやルーターを接続します。

HDMI 1 入力 / HDMI 2 入力 / HDMI 3 入力

市販の HDMI ケーブルを使用して対応機器を接続します。

光デジタル音声出力

市販の光ケーブルを使用して対応機器を接続します。

音声入力 (D5 音声)

D 端子と音声端子を接続します。

ビデオ入力 (映像 / 音声)

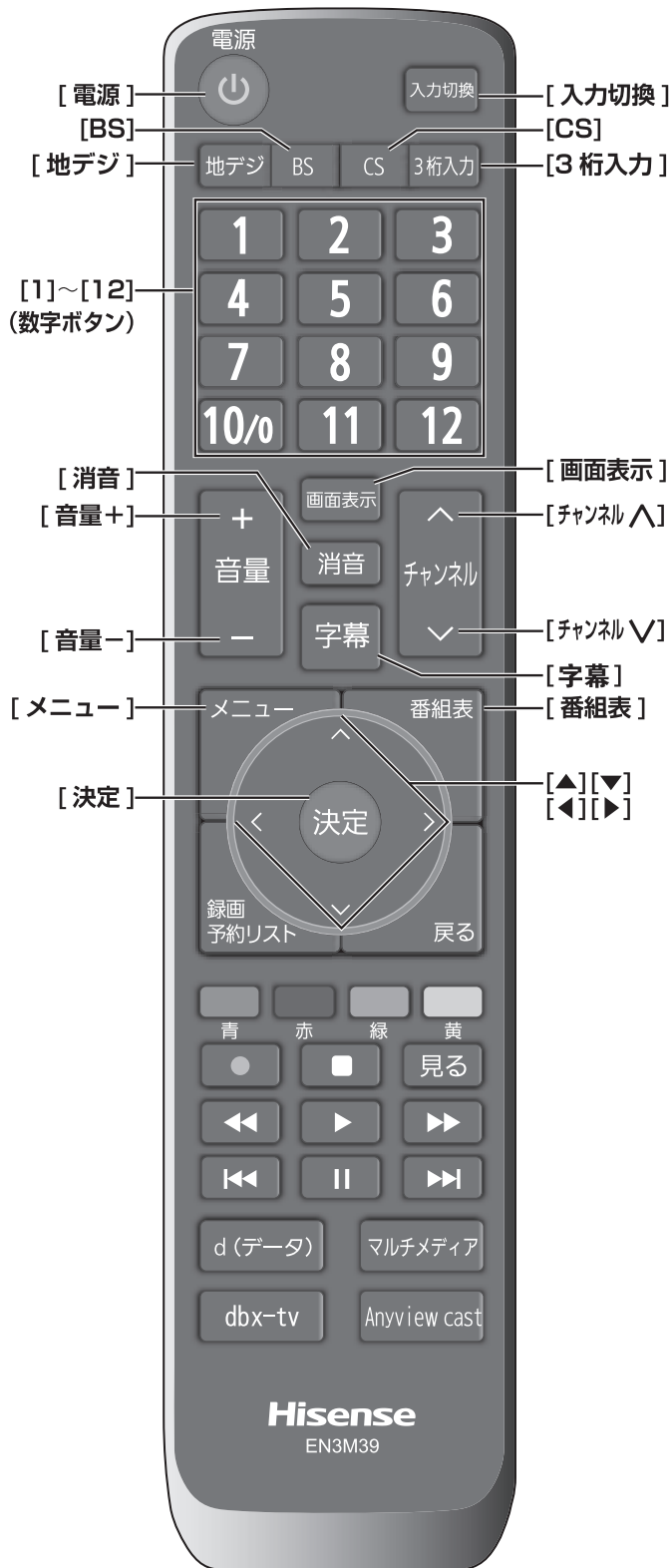
市販の AV ケーブルを使用して対応機器を接続します。

サービス用

サービス (修理) 専用の端子です。お客様は使用しないでください。

各部の名前

リモコン



[電源]

スタンバイと電源オンの切り換えを行います。

[入力切換]

接続している外部機器の映像に切り換えます。

[地デジ]

地上デジタル放送を受信します。

[BS]

BSデジタル放送を受信します。

[CS]

CSデジタル放送を受信します。押す毎にCS1、CS2を切り換えます。

[3桁入力]

デジタル放送またはCATVチャンネルのチャンネル番号を直接入力して選局するときに使用します。

[消音]

消音します。

[1]～[12] (数字ボタン)

チャンネルの直接選局などの数字入力に使用します。

[音量+]/[音量-]

スピーカー(またはヘッドホン)の音量を調節します。

[画面表示]

受信チャンネルなどの情報を表示します。

[チャンネル↑]/[チャンネル↓]

チャンネルの順送りによる選局を行います。

[字幕]

字幕を表示します。

[メニュー]

メニュー画面を表示します。

[決定]

[▲]/[▼]/[◀]/[▶]での選択を確定します。

[番組表]

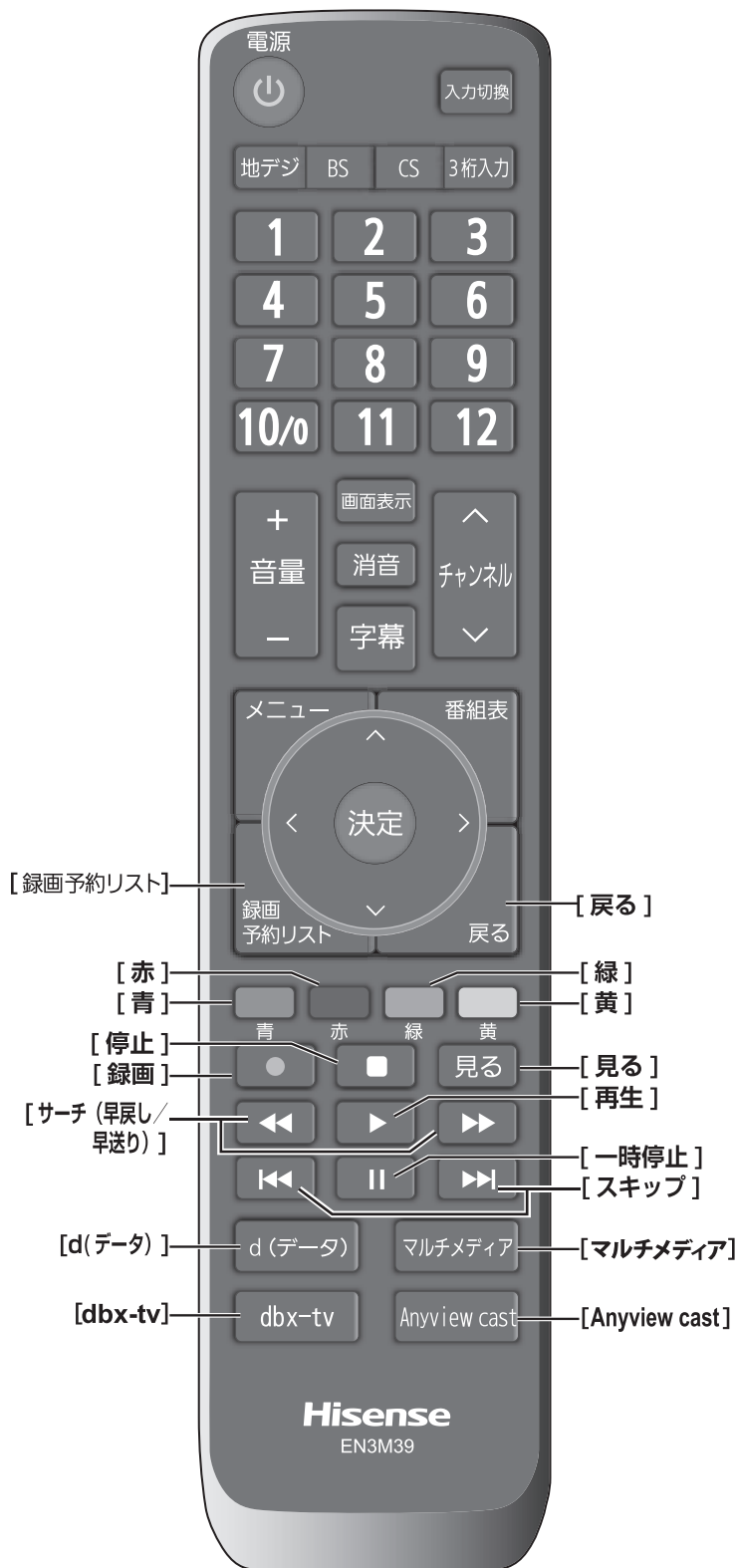
番組表の表示 / 非表示を行います。

[▲]/[▼]/[◀]/[▶]

メニュー操作中などに、項目を選択します。

各部の名前

リモコン



[戻る]

前の表示に戻ります。

[録画予約リスト]

録画予約リストを表示します。

[青]/[赤]/[緑]/[黄]

デジタル放送受信中の双方向サービスでの項目選択や、デジタルメニュー中の操作選択をします。

[d(データ)]

デジタル放送番組に連動したデータ放送画面に切り換えます。

[マルチメディア]

映像、写真、音楽などを再生します。

[dbx-tv]

dbx-tv設定に入ります。

[Anyview Cast]

Anyview Cast機能を起動します。

以下のボタンは USB ハードディスク(別売)接続時に使用します。

[再生]

録画番組を再生します。

[サーチ(早戻し/早送り)]

早戻しや早送りの操作をします。

[一時停止]

再生中の映像を一時停止します。

[停止]

録画や再生中の映像を停止します。

[録画]

現在見ている番組の録画をします。

[見る]

録画した番組の一覧を表示します。

[スキップ]

チャプターの先頭から再生します。

機器の準備をする

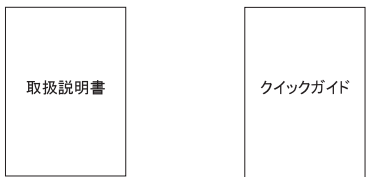
この章では、本機や本機に接続する機器の設置および設定方法などについてご説明いたします。

付属品を確認する.....	18
リモコン	19
デジタル放送について	20
設置のしかた.....	22
アンテナの接続.....	25
LAN(双方向通信)の接続	27
電源コードの接続.....	29
他の機器との接続	30

● 付属品を確認する

箱を開いたら、付属品がそろっているか確かめてください。

機器の準備をする



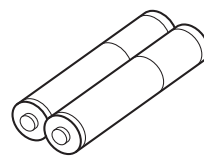
取扱説明書 × 1部 ・ クイックガイド × 1部



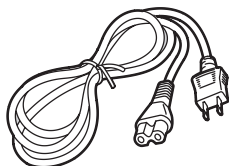
保証書 × 1部



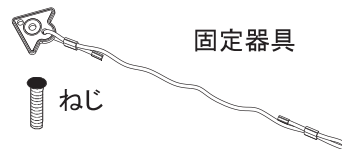
赤外線リモコン × 1台



リモコン用単四電池 × 2本



AC (電源) ケーブル (1.8 m) × 1本

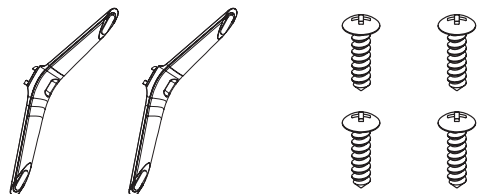


固定器具
ねじ
転倒防止用ひも × 1式



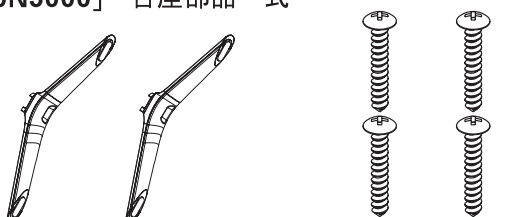
ミニ B-CAS カード (レッドカード) × 1枚

[HJ43N3000] 台座部品一式



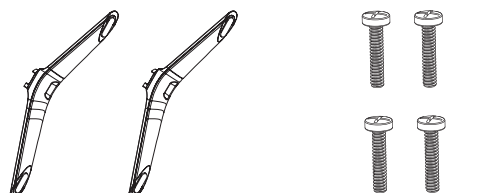
台座2個 ST4×20 ネジ4個

[HJ50N3000] 台座部品一式



台座2個 ST4×25 ネジ4個

[HJ55N3000] 台座部品一式



台座2個 M4×20 ネジ4個

リモコン

電池の入れ方

- ① 電池カバーを開ける
- ② + 極、- 極の向きを確認し、正しい方向で単四電池の 1 本目を入れる。
- ③ 続けて同様に 2 本目の電池を入れ、電池カバーがカチッというまで押しつけて閉める。

⚠️ ご注意

- 電池は誤った使い方をすると液漏れや破裂することがあります。特に以下の点に注意してお使いください。
- 違う種類の電池を混ぜて使用しない。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 使えなくなった電池はすぐに取り出す。
- 液漏れした電池は使用しない。
- 漏れた液に触れると肌が荒れることがあります。
- 万一、液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

お知らせ

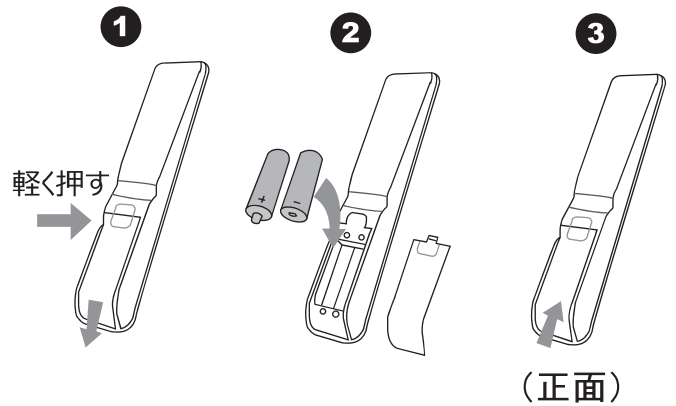
- 付属の電池は動作確認用です。早めに新しい電池と交換してください。
- リモコンを長く使わないときは電池を取り出しておいてください。
- 電池を廃棄するときはお住まいの自治体で定める廃棄方法に従ってください。

操作のしかた

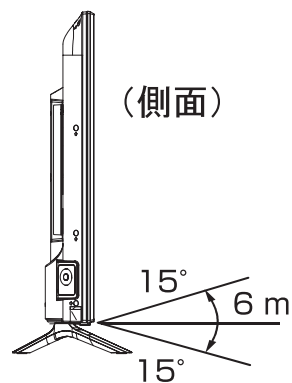
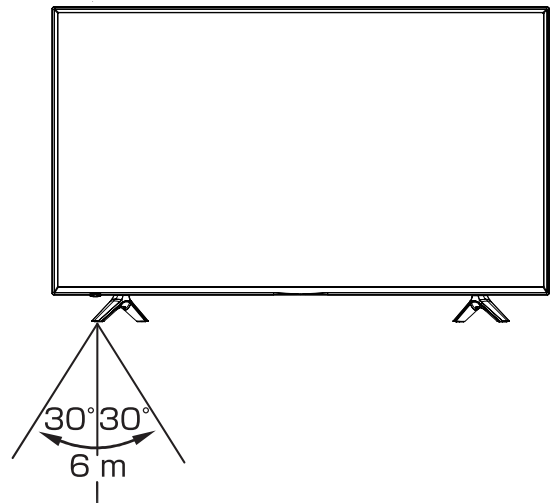
本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

⚠️ ご注意

- リモコンには衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり温度の高い所に置いたりしないでください。
- リモコンは直射日光の当たる場所に取り付けたり、放置したりしないでください。熱により変形することがあります。
- 本体のリモコン受光部に直射日光や強い照明が当たっているとリモコンが動作しにくくなる場合があります。その場合は照明または本体の向きを変えるか、リモコン受光部にリモコンを近づけて操作してください。
- リモコンを操作してもテレビが動作しない場合は、新しい乾電池と交換してください。



機器の準備をする



デジタル放送について

本機では地上デジタル、BS、110度CSデジタルの放送を視聴することができます。デジタル放送では、以下のようアナログ放送には無い機能を楽しむことができます。

デジタル放送の特徴

高画質・高品質

デジタル放送では、従来のアナログ放送で見られるようなゴースト(映像の二重化)やスノーノイズ(雪が舞っているようなちらつき)といった映像の乱れが起こりません。なかでもデジタルハイビジョン放送では、アナログの通常放送と比較して走査線数(ブラウン管方式のテレビの映像の細密度を示す指数)で約2倍、解像度にして約8倍の高精細映像を楽しむことができます。音声についても、音質が劣化しにくい方式で伝送しているため、高音質な音声を再現できます。

データ放送

テレビ番組と連動したデータ放送や、天気予報や地域情報などの独立したデータ放送の受信ができます。

電子番組表(EPG)

デジタル放送では、送られてくるデータの中に番組の情報が含まれています。これを利用して画面上に番組表を表示することができます。

したがって、最初にご使用になるとき、あるいは電源コードを長期間(一週間以上)外していた場合などには表示されません。電源スイッチがオフした場合(電源ランプ消灯)でも最新の番組表に更新されません。電源スタンバイ(電源ランプが赤)の状態であれば自動的に受信して最新の番組表に更新されます。

双方向サービス

テレビ上でのショッピングやリクエスト、クイズ番組の解答など、視聴者として番組に参加することができます。双方向通信をなさりたい場合はADSLなどのサービスを提供するプロバイダーとの契約が必要です。

マルチ(複数)チャンネル

デジタル放送では、一つのチャンネルあたり、6MHzの帯域が与えられています。この帯域はさらに13のセグメントとよばれる帯域に分割されています。この13のセグメントのうち、デジタルハイビジョン放送(HDTV)では、12セグメントを使って放送されます。標準画質放送(SDTV)の場合は一つの番組では4セグメントしか使わないので、一度に3つの番組を放送することができます。なお、本機は受信中の放送がHDかSDかを自動判別して映像を表示します。

デジタル音声放送(デジタルラジオ)

従来のアナログラジオ放送(AM、FM、短波)とは異なり、音楽CD並みに高音質な音声のみの放送を楽しむことができます。地上デジタル音声放送(デジタルラジオ)には、本機は対応しておりません。

臨時編成サービス

スポーツ中継が延長になった場合などに、別チャンネルで予定されていた番組を放送することができます。(イベントリレー)

字幕放送

デジタル放送の番組のセリフなどの音声を、文字にして画面に表示させることができます。

文字スーパー

地域情報や速報など、番組に連動しない文字情報(文字スーパー)を画面に表示することができます。

緊急警報放送

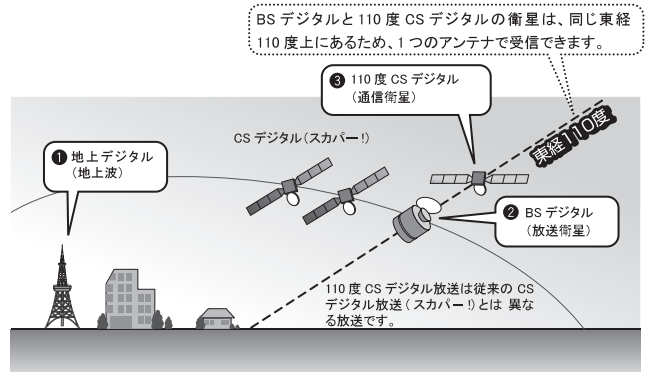
地震など大規模災害が発生した場合や、津波警報が発表された場合などに放送される警報放送です。災害の発生に伴う被害の予防や軽減に役立たせることを目的としています。同時刻他のチャンネルで放送されている場合、画面に緊急警報が放送されているが、切り換えますか」とのメッセージが表示されますが、現在のチャンネルで緊急警報が放送される場合、上記メッセージが画面に表示されません。

※上記のサービスや機能は、全てのデジタル放送の種類や放送局で行っているというものではありません。

デジタル放送について

本機で視聴可能なデジタル放送の種類

一般社団法人放送サービス高度化推進協会 (A-PAB)
<http://www.apab.or.jp>



機器の準備をする

デジタル放送を視聴するための準備をする

アンテナなどについて

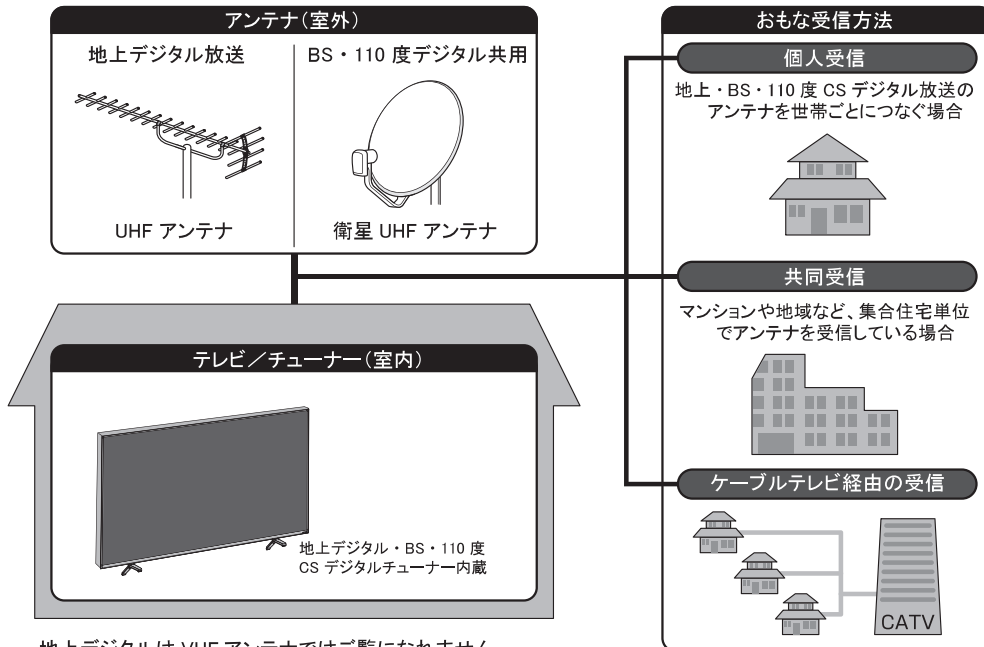
デジタル放送を視聴するためには、受信アンテナの用意する必要があります。また、BS・110 度 CS デジタル放送を受信するには、放送局や放送事業者を受信申し込みをする必要があります。これらの準備の仕方は、本機をご使用になる環境によって異なります。詳しくはお買い上げ店などでご確認ください。

ケーブルテレビをご利用の場合

本機はケーブルテレビのパススルー方式 (同一周波数 または UHF 帯域周波数変換) および帯域外周波数パススルーに対応しております。詳しくはご契約のケーブルテレビ事業者にお問い合わせください。

お知らせ

- 地上デジタル放送の受信には、UHF アンテナを使用します。現在お使いのアンテナが UHF 対応のものであれば、基本的にそのままご使用いただけますが、場合によっては調整やブースターの追加が必要になることもあります。詳しくは販売店などにお問い合わせください。
- 衛星放送用には BS・110 度 CS 共用アンテナをご使用ください。アンテナ線 / ブースター / 分配器などは、110 度 CS 帯域 (2,150MHz) まで対応しているものをご使用ください。その他のものを使用すると、映像が映らない場合があります。BS デジタル放送専用のアンテナでは 110 度 CS 放送は受信できません。



地上デジタルは VHF アンテナではご覧になれません。

お住まいの環境に合わせてアンテナをご用意ください。

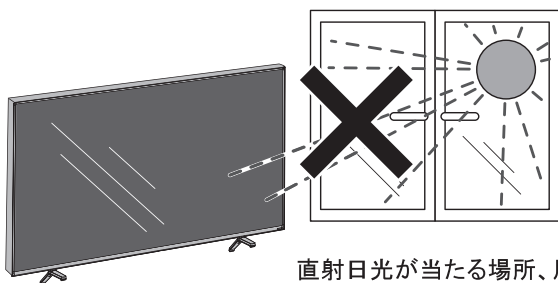
● 設置のしかた

本機は重量のある精密機器です。運搬や設置を行う際は、落下や転倒に十分注意してください。また、水平で安定した場所に設置するようにしてください。設置はできるだけ専門業者に依頼してください。

設置の手順

置く場所を決める

- ・直射日光が当たらず、気温が安定している場所を選んでください。
- ・グラつきなどがなく、きちんと固定できる場所を選んでください。



直射日光が当たる場所、風通しの悪い場所には置かない。

⚠️ ご注意

- 本機が転倒するとお客様のけがや本機の故障につながります。必ず転倒防止策を行ってください。
- 上記の方法で本機の固定ができない場合は、お買い上げ店などにご相談ください。

壁に掛けるとき

本機を市販の壁掛け用の金具を使用して壁に掛けることができます。テレビ本体背面の VESA 規格のねじ穴を使用します。

⚠️ ご注意

- 壁に掛ける際は、必ずお買い上げ店または工事業者にご依頼ください。

台座をつける

⚠️ ご注意

- 壁掛けの設置をする場合以外は、台座を外さないでください。
- 液晶パネル部に手を触れないようにご注意ください。

③ 配置する

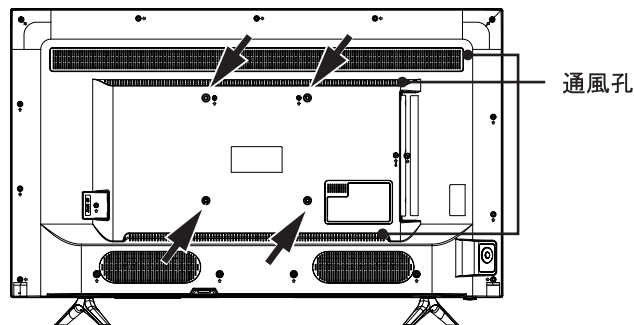
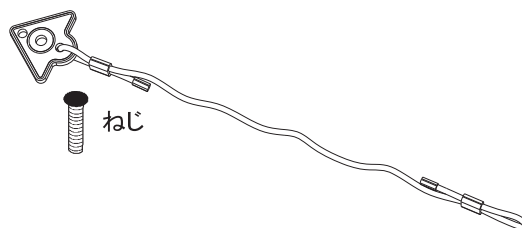
⚠️ ご注意

- 液晶パネル部に手を触れないようにご注意ください。

④ 転倒防止策を実施する

付属の転倒防止用ひもを使って転倒防止策を実施してください。

テレビ本体背面の VESA 規格のねじ穴の一つに、転倒防止用ひもの樹脂のアダプター部分を付属のねじで固定します。もう一方の輪の部分は壁などに引っかけて固定します。



お知らせ

- ご推奨の型式を購入してください。ハイセンスジャパンホームページで確認するか、サポートセンターに問い合わせください。

通風孔について

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となる ことがあります。

風通しの悪い場所（棚や押入れの中など）や、じゅうたんや布団の上に置かないでください。また布をかけたりしないでください。定期的に掃除機で通風孔にたまったごみを除去してください。

● 設置のしかた

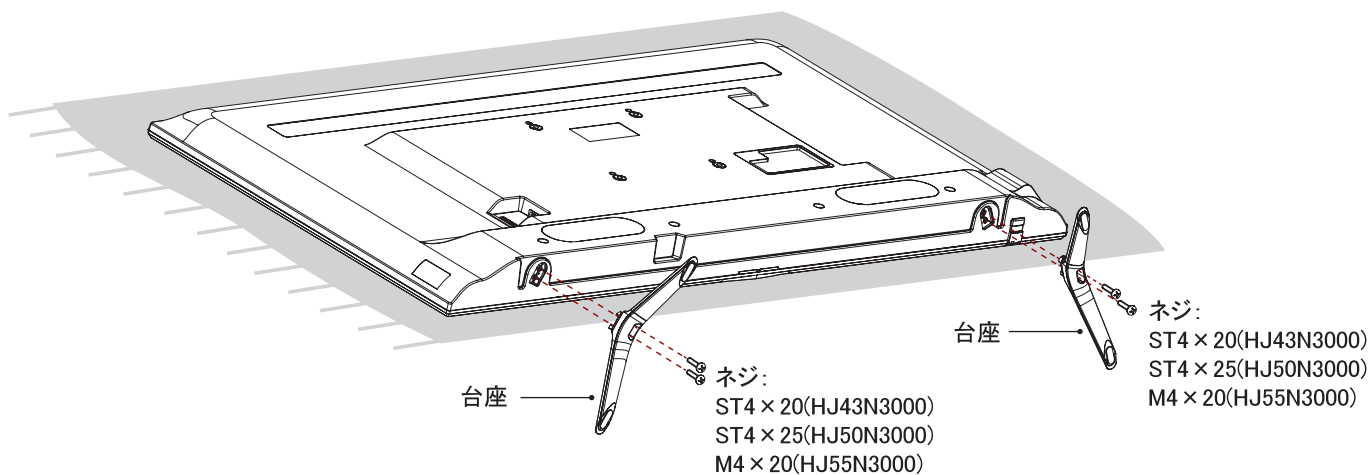
台座をつける

台座を本機にしっかり固定する

⚠️ ご注意

● 組み立てる際は、つなぎ目の端部などでけがをしないように、手袋を着用してください。

- ① 毛布や保護シートを敷き、本体や液晶画面を傷つけないように、画面を下にして置く。
- ② 台座とテレビの溝の形状を合わせて、付属のねじ2本で固定する。



● 設置のしかた

B-CAS カードを挿入する

B-CAS カードについて

- ・地上デジタル放送・BS デジタル放送・110度CS デジタル放送が視聴制限に使用しているのがB-CASカードです。
- ・デジタル放送をお楽しみいただくためには、B-CAS カードを本機に挿入していただく必要があります。

お知らせ

- スカパー！e2、WOWなどの有料サービスをご利用される場合は、別途契約が必要です。



B-CAS カードに関するお問い合わせ(故障交換や紛失した場合等)は、

(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズカスタマーセンターまでお願いいたします。

カスタマーセンター TEL 0570-000-250

B-CAS カードの入れかた

- 1 本機の電源を切る
- 2 同梱の「ビーキャス(B-CAS)カード使用許諾契約約款」の内容を読み、了解していただいた上で、台紙からB-CASカードをはがす
- 3 B-CASカードを挿入する

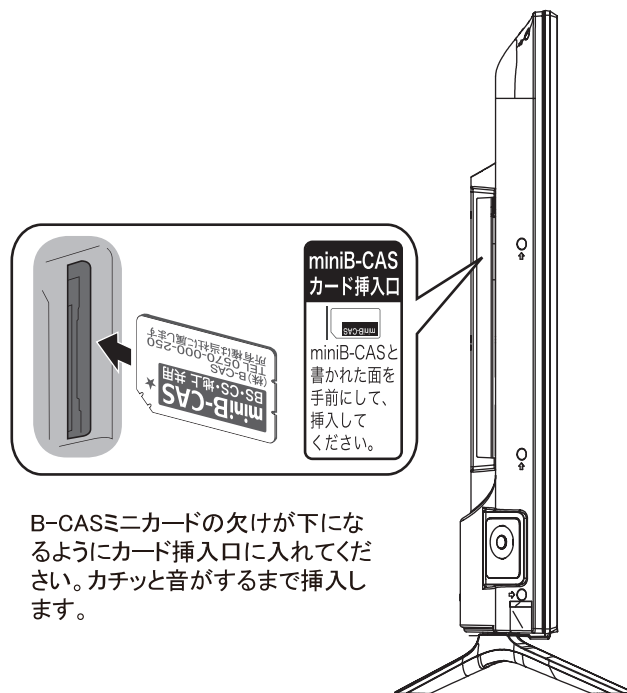
お知らせ

- B-CAS カードには視聴情報などが記憶されますので、本機に入れたままご使用ください。
- B-CAS カードの盗難などにご注意ください。他人がお客様のカードを使用して有料番組を視聴した場合も、視聴料はお客様の口座に請求されます。
- B-CAS カードは(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズから貸与されているものです。本機を廃棄なさる場合は同社にご返却ください。

取扱い上のご注意

- ・B-CAS カードを折り曲げたり、傷つけたりしないでください。破損などによるB-CASカードの再発行は有料です。
- ・B-CAS カードの金属部(集積回路)には触れないでください。
- ・B-CAS カードの抜き差しは、必要な場合を除いて行わないようにしてください。

左側面



● アンテナの接続

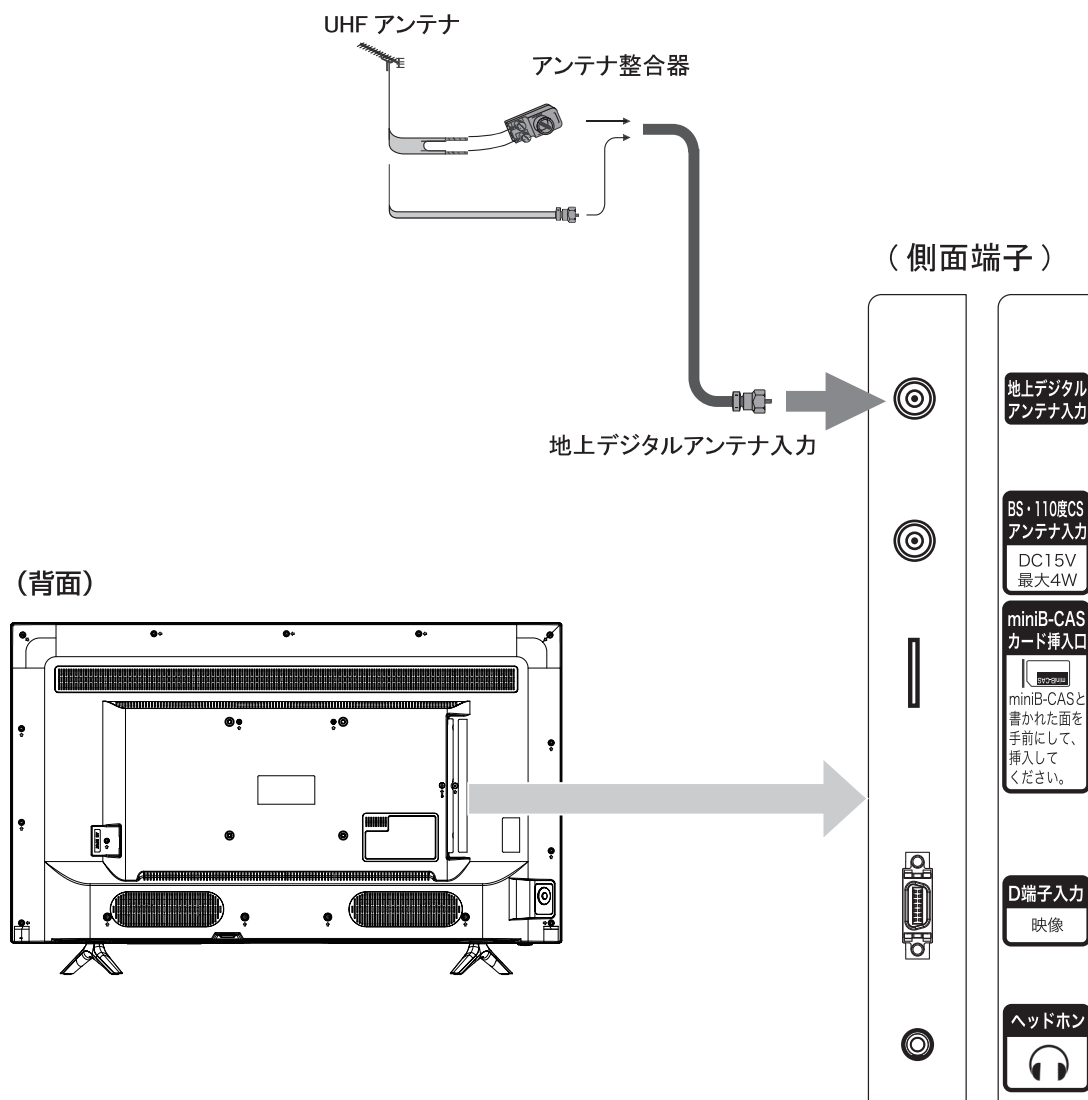
⚠️ ご注意

- アンテナの取り付け・配線は、専門業者にご依頼ください。
- ケーブルテレビをご利用の場合、ケーブルテレビ会社からの再送信の方式によって接続のしかたが異なります。詳しくは、ケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

UHF アンテナを接続する

市販のアンテナケーブルを、地上デジタルアンテナ入力端子とUHF アンテナに直接接続します。

- 地上デジタル放送の受信には、UHF アンテナを使用します。詳しくは販売店などにお問い合わせください。
- アンテナをアンテナ入力端子に接続するときは、同梱のアンテナケーブルを使用してください。
- ご自宅のアンテナ線がフィーダー線の場合は、円筒形の同軸ケーブルに変換する必要があります。



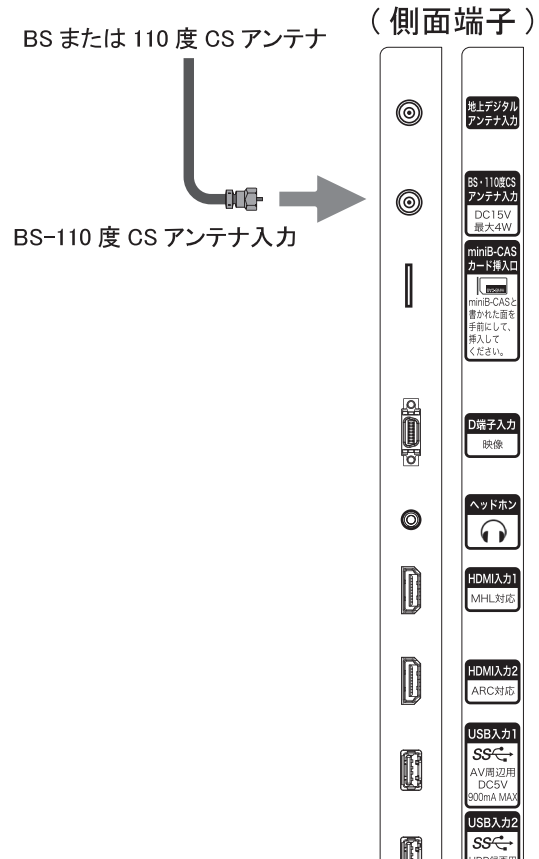
● アンテナの接続

BS・110度CS 共用アンテナを接続する

本機に付属のアンテナケーブル(または市販の同等品)を、BS・110度CS デジタルアンテナ入力端子とBS・110度CS アンテナに直接接続します。

- ・アンテナはBS・110度CS 共用アンテナをご使用ください。アンテナ線/ブースター/分配器などは、110度CS 帯域(2,150MHz)まで対応しているものをご使用ください。その他のものを使用すると、映像が映らない場合があります。これまでご使用になっていたBSアンテナでも、性能や方向調整が十分な場合はBSデジタル放送を受信できますが、110度CS デジタル放送の受信にはBS・110度CS 共用アンテナが必要です。
- ・スカパー！ e2を除くスカパー！用のアンテナでは110度CS デジタル放送は受信できません。
- ・BS・110度CS 共用アンテナの取り付けについては、アンテナの取扱説明書をご覧ください。
- ・BS・110度CS デジタルアンテナ入力端子にVHF/UHFのアンテナ線を接続しないでください。故障の原因となります。
- ・家庭用分配器を使って複数のBS機器をつなぐときは、どの端子からも電源を供給するタイプを必ずお使いください。この場合、本機か他のBS機器か、どちらかのアンテナ電源の供給を「オン」に設定してください。両方とも「オン」に設定すると故障の原因となります。

また、本機の電源をスタンバイ・オフ状態にしたときはアンテナに電源は供給されません。他のBS機器を本機がオフまたはスタンバイの時に使う場合は、当該機器より電源を供給してください。



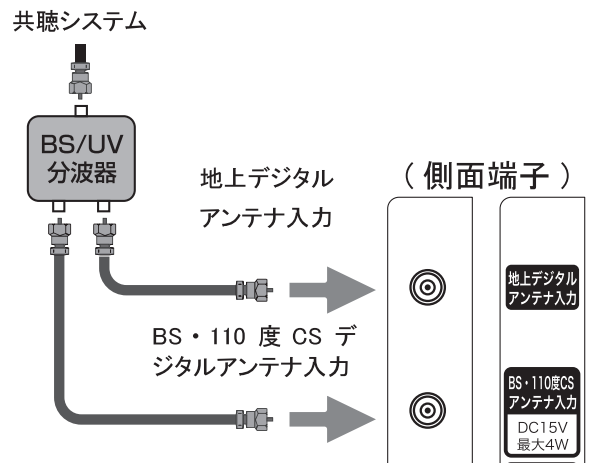
機器の準備をする

マンションなどの共聴システムで接続する

まずはお住まいのマンションなどが、地上デジタルやBS・110度CS デジタルにどのように対応しているかを、マンション管理会社などにご確認ください。

BS・110度CS とVHF/UHF が混在されている場合は、市販のBS/UV 分波器を使用して接続します。分波器は110度CS 帯域(2,150MHz)まで対応しているタイプをお選びください。

- ・[メニュー]を押して、設定→チャンネル設定→受信設定→衛星放送→アンテナ電源でアンテナ電源の設定をオフに設定してください。



LAN への接続(双方向通信用)

デジタル放送では、ADSL などのブロードバンド回線に接続してデータ放送の双方向サービスを利用することができます。双方向サービスを使用すると、ご家庭からテレビ局に向けてクイズ番組の回答やアンケートなどの情報を送ることができます。

LAN ケーブルで接続する

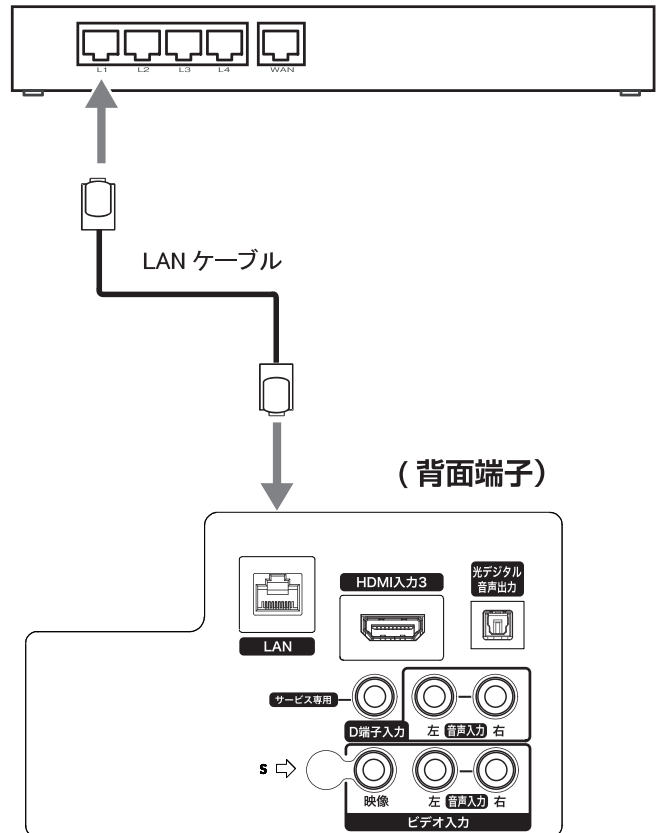
市販の LAN ケーブルを使い、ブロードバンドルーターなどの LAN ポートと本機の LAN 接続端子を接続します。

- ・お使いの FTTH 回線終端装置、ケーブルモデム、または ADSL モデムにルーター機能がある場合は、LAN ポートの一つと本機の LAN 端子を接続してください。LAN ポートに空きがない場合は回線業者やプロバイダー指定のハブを使用して接続してください。
- ・リモコンの【メニュー】を押して、設定→機器設定→ネットワーク→イーサネットから設定を行ってください。

お知らせ

- 双方向サービスを利用しない場合、LAN への接続は必要ありません。
- 双方向サービスを利用するには、ADSL などのサービスを提供する回線業者やプロバイダーへの加入契約が必要です。
- 本書では、すでにパソコンがインターネットに接続されているなどブロードバンド環境をお持ちであることを前提に説明しています。ブロードバンド環境をお持ちでなく、これから加入契約をされる場合は、サービスを提供する回線業者やプロバイダーにご相談ください。回線業者やプロバイダーとの契約内容によっては、複数台の接続ができない場合や、接続にあたって追加料金が必要な場合があります。回線業者やプロバイダーにご相談ください。
- 接続に必要なブロードバンドルーターなどの機器は、回線業者やプロバイダーの指定された製品をお使いください。
- 回線業者やプロバイダーから提供される説明書もよくお読みください。不明な点は回線業者やプロバイダーにお問い合わせください。
- USB 接続の ADSL モデムをお使いのときは、回線業者やプロバイダーにご相談ください。

ブロードバンドルーターなど



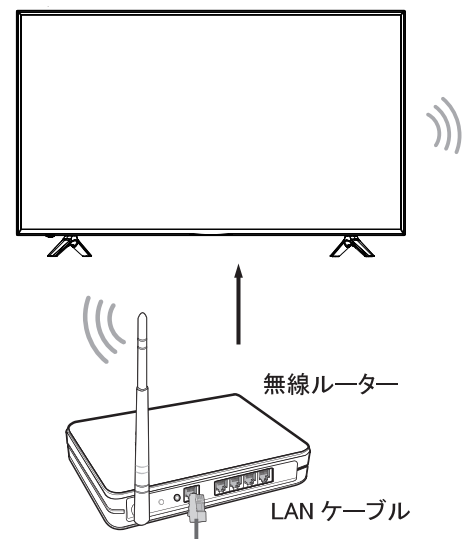
機器の準備をする

無線 LAN で接続する

本機に無線 LAN モジュールが内蔵されています。市販の無線ルーターを利用して本機と接続します。

- ・リモコンの【メニュー】を押して、設定→機器設定→ネットワーク→Wi-Fi 設定からネットワークを設定します。
- ・Wi-Fi 設定画面で、接続したい無線ネットワークを選び、【決定】で決定します。暗証番号入力画面が表示され、【決定】を押して画面キーボードが出てきます。暗証番号を入力し、キーボードの改行マークを選んで【←】を押して決定します。
- ・WPS 経由の接続: WPS で無線暗証認証を行います。
- ・新しいネットワークを追加: 現在表示されていなかった SSID のネットワークに対し、手動で追加することができます。「ネットワークを追加する」を押して、ネットワーク SSID 入力のメッセージが表示され、追加してください。手動で追加された無線ネットワークはスキャンされた無線ネットワーク一覧に表示されます。

本機に無線 LAN モジュール内蔵



LAN への接続(双方向通信用)

無線 LAN 使用上のお願い

・使用周波数

無線 LAN は 2.4GHz 帯と 5 GHz 帯の周波数を使用します。

他の無線機器も同じ周波数帯を使用している可能性があります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

・使用上の注意事項

本製品は次の場所で使用しないでください。

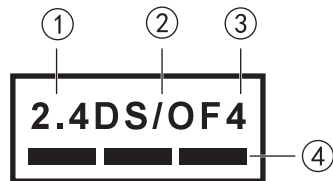
ノイズが出たり、送信 / 受信ができなくなる場合があります。

本機と同じ周波数帯(2.4GHz/5GHz)を利用する無線通信機器(本機と接続する機器を除く)である無線 LAN または電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波干渉が発生するところ。(環境により電波が届かない場合があります)

この機器の使用周波数帯域では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)、ならびにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていない事を確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害が電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに場所を変更するか、または電波の使用を停止したうえ、ハイセンスジャパンサポートセンターにご連絡いただき、混信回避のための処置についてご相談してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害が電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きた時は、ハイセンスジャパンサポートセンターへお問い合わせください。

・無線 LAN の周波数表示の見かた



① 使用周波数	2.4GHz
② 変調方式	DS-SS 方式 / OFDM 方式
③ 電波と干渉距離	40m 以下
④ 周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ構内無線機器と特定小電力機器の帯域を回避可能であることを意味する。

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n

W52

W53

W56

- ・ w52(5.2GHz 帯域 36,40,44,48ch) が利用できます。
- ・ w53(5.3GHz 帯域 52,56,60,64ch) が利用できます。
- ・ w56(5.6GHz 帯域 100,104,108,112,116,120,124,128,132,136,140 ch) が利用できます。

※ 本機の無線装置を屋外で使用することは禁止されています。

・機器認定

本機は、電波法に基づく工事設計認証を受けていますので、無線局の免許は不要です。ただし、本機に以下の行為を行うと法律で罰せられることがあります。

- ・ 分解 / 改造する
- ・ 本機に貼ってある証明ラベルをはがす

・使用制限

- ・ 日本国内でのみ使用できます。
- ・ 法令により本機の無線装置を屋外で使用することは禁止されています。
- ・ すべての使用環境で無線 LAN 接続、性能を保証するものではありません。
- ・ 無線通信時に発生したデータおよび情報の漏えいについて、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

発信モジュール(認証番号: 204-580011)を内蔵されています。

電源コードの接続

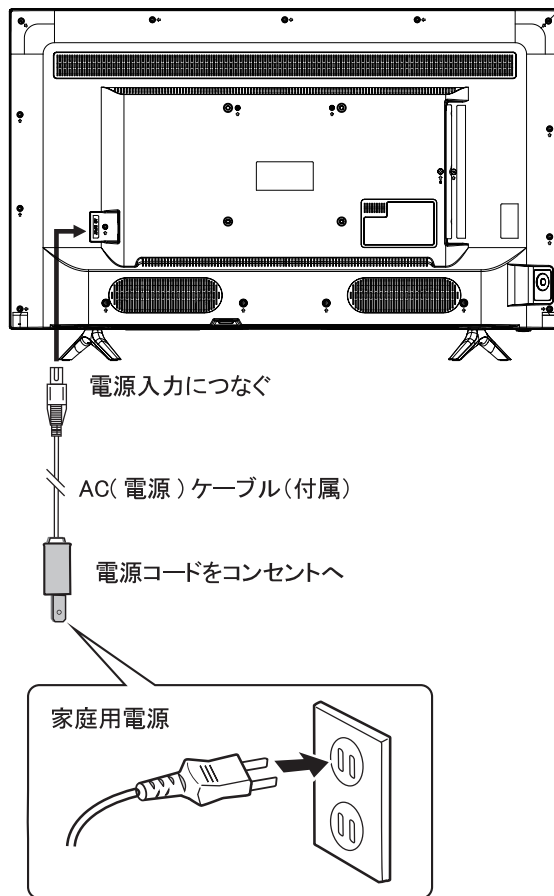
接続する

全ての接続が終わったら、最後に電源コードを接続してください。

- ① 本機の電源コードのプラグをコンセントに挿入して、電源が入ります。
- ② 本機またはリモコンの[電源]を押すと、本機がスタンバイ状態に入ります。再度本機またはリモコンの[電源]を押すと、再び視聴状態に戻ります。

お知らせ

- 消費電力を減らすために、短時間ご使用にならないときは、スタンバイにしてください。長時間ご使用にならないときは、電源プラグを抜いてください。



機器の準備をする

電源に関するご注意

- ・電源コードは必ず最後に接続してください。
- ・電源プラグは、抜き差しがしやすい位置の、壁のコンセントに直接差しすようにしてください。
- ・使用中に電源プラグを抜いたり、電源を突然遮断しなかったりしないようにしてください。設定などが無効になってしまうことがあります。またハードディスクが故障するおそれがあります。まず本機またはリモコンの[電源]を押して電源を切り、その後電源プラグを抜いてください。



他の機器との接続

本機では、他の機器を接続して映像や音楽を楽しんだり、本機で受信した番組を他の機器(別売)に録画することができます。

⚠️ ご注意

- 接続の前に、本機や接続する機器の電源をお切りください。
- 接続ケーブルの抜き差しは、ケーブルでなくプラグを持ってしっかりと行ってください。
- ノイズが出る場合は、機器間の距離が十分にとれるように配置してください。
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

機器の準備をする

USB ハードディスク

別売の USB ハードディスクを USB 端子に3台接続することができます。

お知らせ

- ご推奨のハードディスクを購入してください。ハイセンスジャパンのホームページで確認するかサポートセンターにお問い合わせください。

USB メモリーを接続する

別売の USB メモリーを USB 端子に3台接続することができます。

お知らせ

- USB 端子には USB ハードディスク、USB メモリー以外の USB 機器の使用は動作保証できません。
- USB ハードディスク、USB メモリーは本機との相性で使用できない場合があります。

ヘッドホンを接続する

- ・ 市販のヘッドホンのプラグを、本機のヘッドホンジャックに接続します。
- ・ ヘッドホン優先の設置をオフにした場合、本機のスピーカーから音も出します。リモコンの [音量+]、[音量-] で本機の音量しか調整できません。ヘッドホンの音量は音声設定→ヘッドホン→ヘッドホン音量から調整してください。
- ・ ヘッドホン優先の設置をオンにした場合、リモコンの [音量+]、[音量-] で、又は音声設定→ヘッドホン→ヘッドホン音量から音量調整ができます。

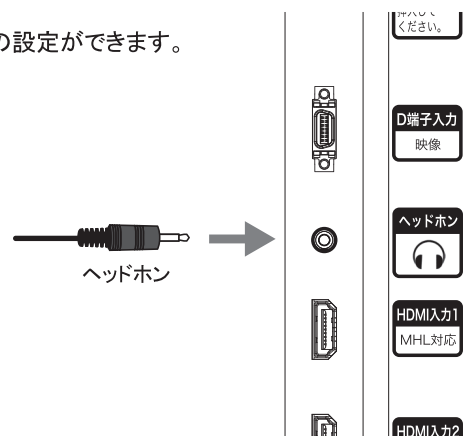
お知らせ

- ヘッドホンのを接続するとき、本機のスピーカーから音を出すか出さないかの設定ができます。

⚠️ ご注意

- 大きな音量設定でヘッドホンプラグを抜くと、スピーカーから大きな音が出ます。音量を下げてから、ヘッドホンプラグを抜くようにしてください。
- ヘッドホンを使用されるときは、耳を必要以上に刺激しないよう、適度な音量でお楽しみください。耳を強く刺激するような大きな音で長時間続けて聞くと、聴覚に悪い影響を及ぼすことがあります。耳鳴りがするような場合は、音量を下げるか、使用を中止してください。また、ヘッドホンをつけたまま眠ってしまうと、災害時などに避難が遅れてしまうなどの危険があります。呼びかけられたら返事ができるくらいの音量でお聞きください。

(側面端子)

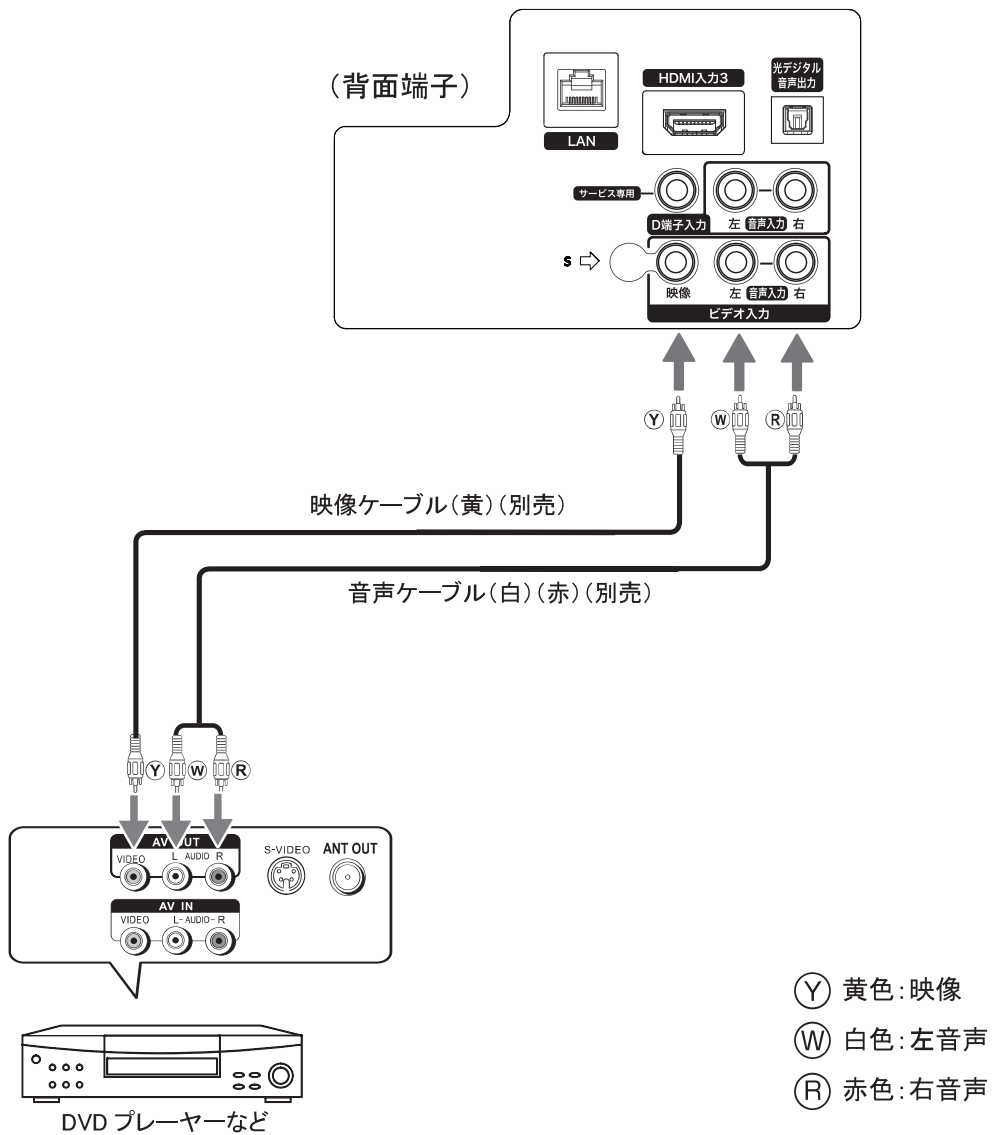


● 他の機器との接続

DVD プレーヤーなどを接続する

ビデオ入力端子 (映像・音声) に接続する

AV ケーブルで、DVD プレーヤーなどの AV 出力端子と本機のビデオ入力端子 / ビデオ入力 (音声) 端子を接続します。黄色のプラグをビデオ入力端子に、赤と白のプラグをビデオ入力 (音声) 端子に、プラグと端子の色をそれぞれ合わせるようにして接続してください。



他の機器との接続

D 端子入力に接続する

市販の D 端子ケーブルを使い、DVD プレーヤーなどの D 端子と本機の D 5 映像入力端子(背面)を接続します。

音声は市販の音声ケーブルで、それぞれの音声入力端子に接続します。

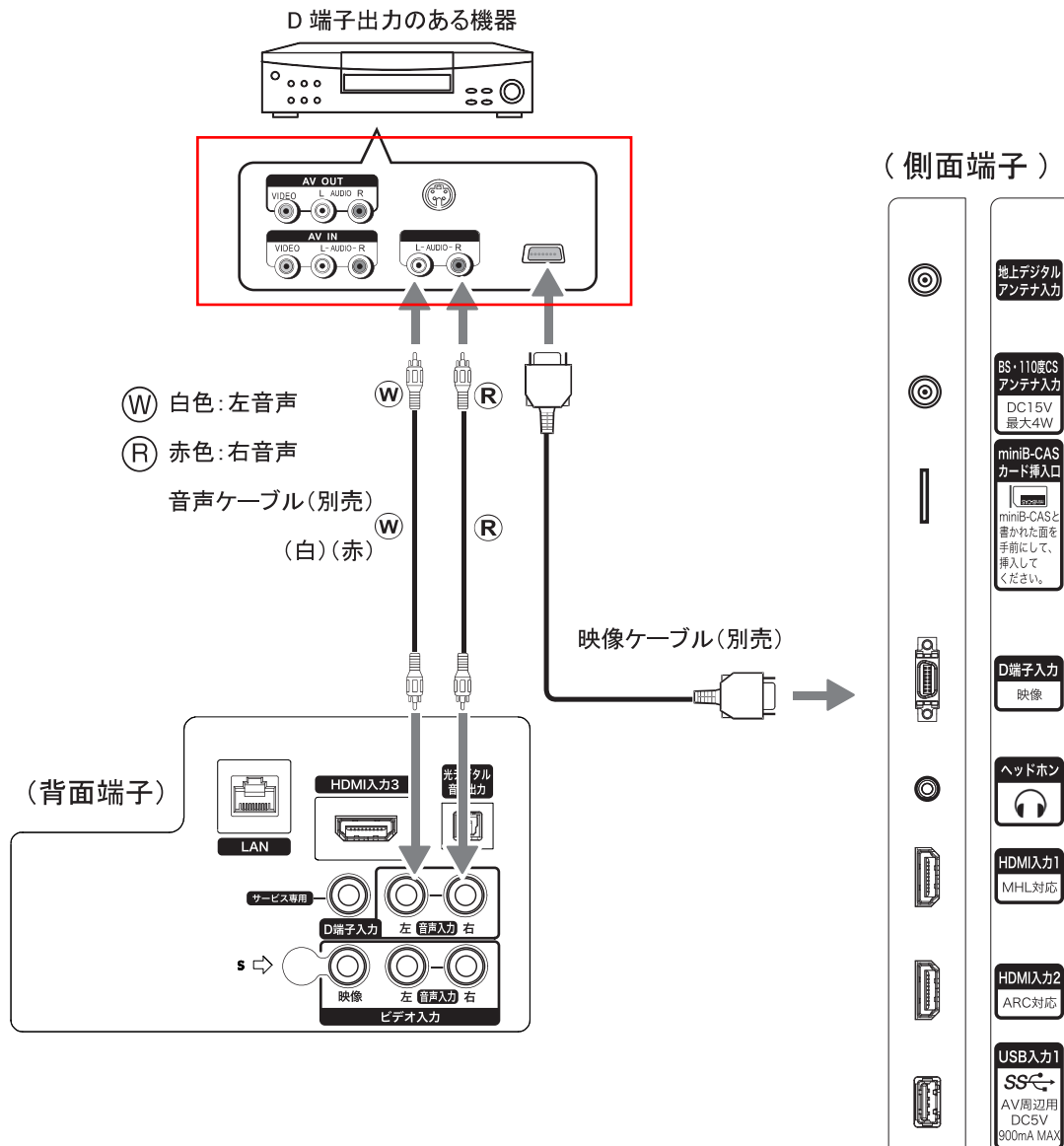
お知らせ

- 本機 D 端子は D 5 規格です。接続する機器からどのような信号が出力されているかは接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

D 端子の種類と対応信号フォーマット

	525i (480i)	525p (480p)	1125i (1080i)	750p (720p)	1125p (1080p)
D5	○	○	○	○	○

- カッコ内の数字は有効走査線数と呼ばれるものです。お使いの機器によってはこちらの数字を表示している場合があります。
- 接続機器によっては、出力を D 端子に設定しなければ信号を出力しないものがあります。映像が表示されない場合は、接続する機器の取扱説明書をご覧ください、設定してください。



● 他の機器との接続

HDMI 入力端子に接続する

市販の HDMI ケーブルを使い、ブルーレイレコーダー、HDD レコーダー、デジタルチューナーなどの HDMI 出力と本機の HDMI 入力 1 端子、HDMI 入力 2 端子、または HDMI 3 入力端子のいずれかをつないでください。HDMI ケーブルはデジタル信号で映像と音声を 1 本で接続します。

お知らせ

- パソコンなどの DVI 出力のある機器との接続は保証しておりません。
- 映像・音声が表示・出力されない場合は、接続する機器の取扱説明書などで出力機器の設定をご確認ください。
- **HDMI ケーブルで接続する**

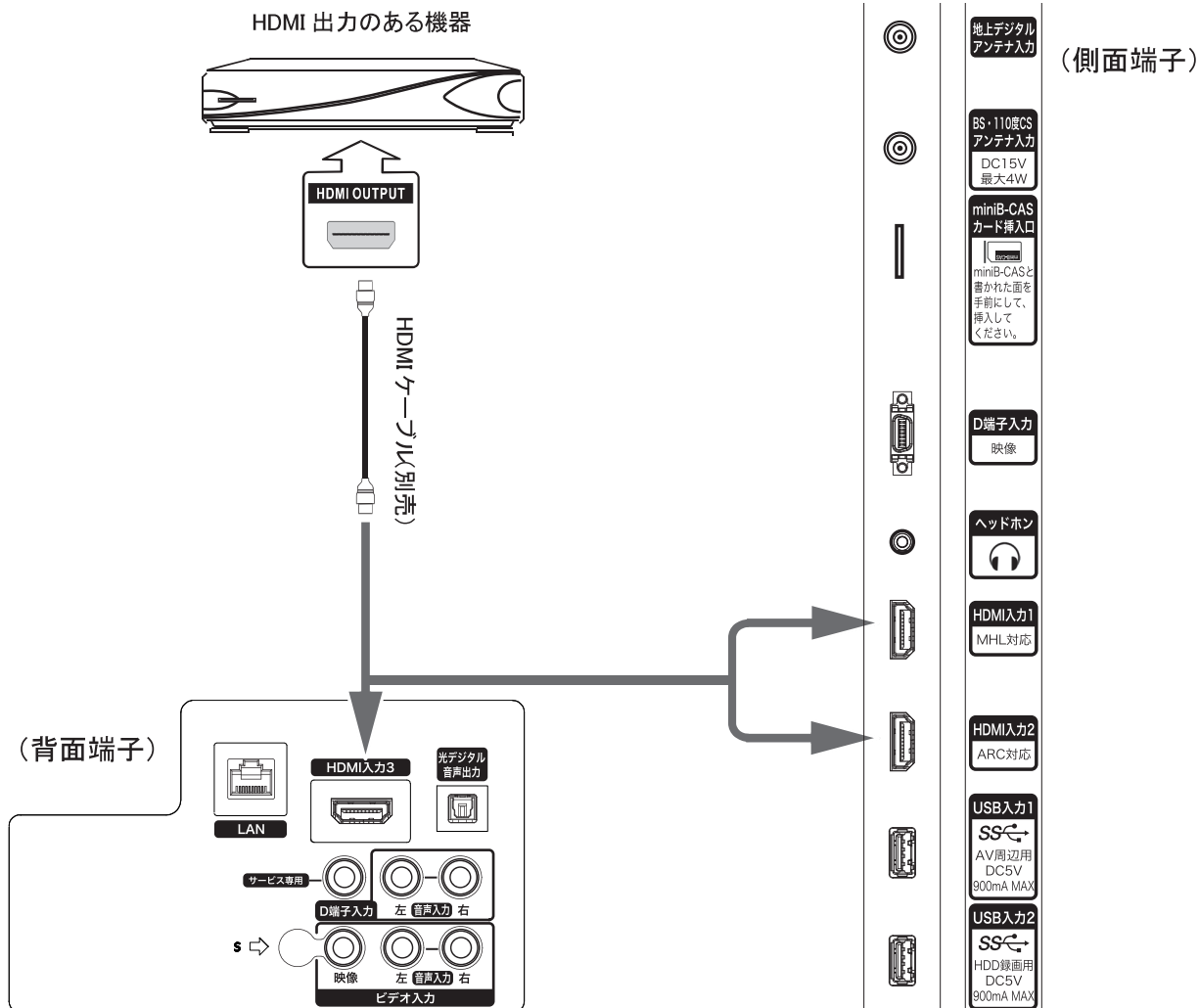
HDMI ケーブルでパソコンの HDMI 出力と、本機の HDMI 入力端子を接続します。対応フォーマットは下記の通りです。

解像度	信号名
640x480@60Hz	VGA
800x600@60Hz	SVGA
1024x768@60Hz	XGA
1280x768@60Hz	WXGA
1360x768@60Hz	WXGA
1366x768@60Hz	WXGA
1280x1024@60Hz	SXGA
1920x1080@60Hz	Full HD
3840x2160@24Hz 3840x2160@25Hz 3840x2160@30Hz 3840x2160@50Hz 3840x2160@60Hz	4K

パソコン側で外部出力の設定をしてください。詳しくはパソコンの取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

- 全てのパソコンでの動作検証は行っておりません。また、パソコンのビデオカードなどによっては、上記のフォーマットでも表示できない場合があります。



● 他の機器との接続

MHL で接続する

モバイル・ハイデフィション・リンク (MHL) は、携帯機器向けの高速映像伝送用のインターフェース規格である。

HDMI-MHL ケーブルで本機と携帯機器端子と接続します。

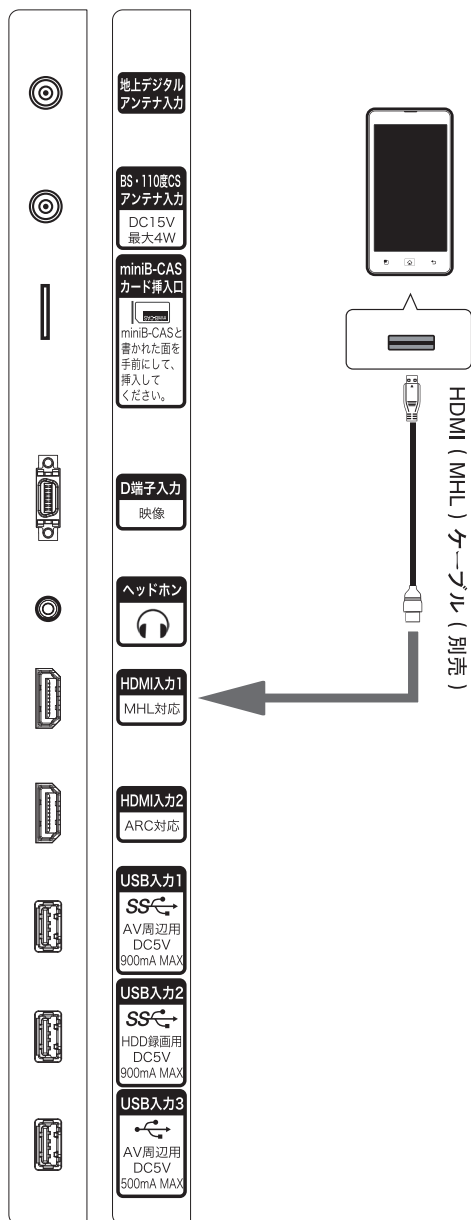
ARC で接続する

HDMI ケーブルをデジタルオーディオ機器と接続します。

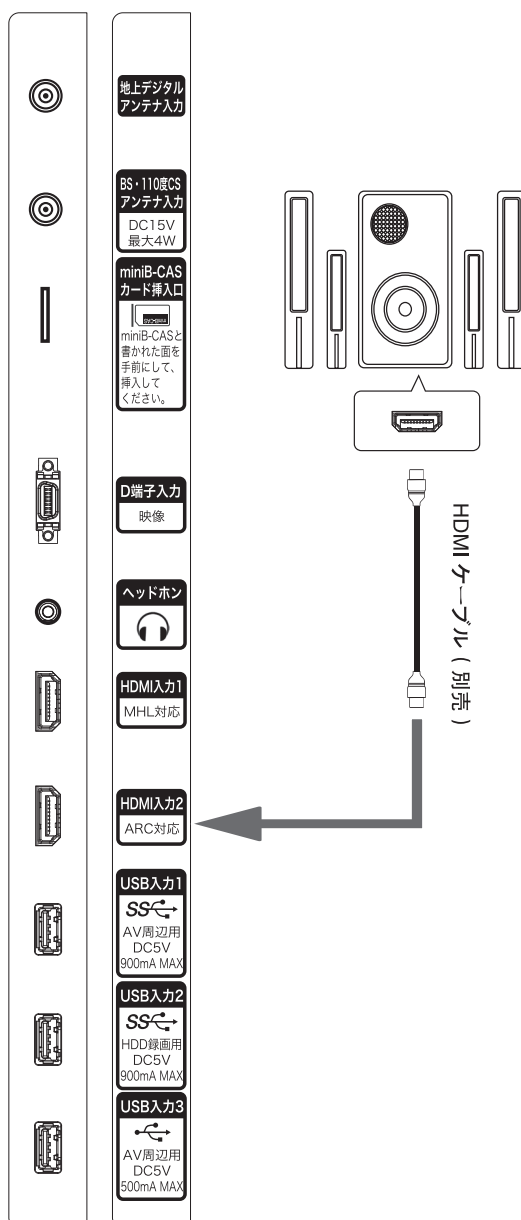
ARC は HDMI ケーブル経由でデジタル音声が出力できます。本機にオーディオ機器が接続されている場合のみ ARC 機能に対応していますのでご注意ください。

機器の準備をする

(側面端子)



(側面端子)



● 他の機器との接続

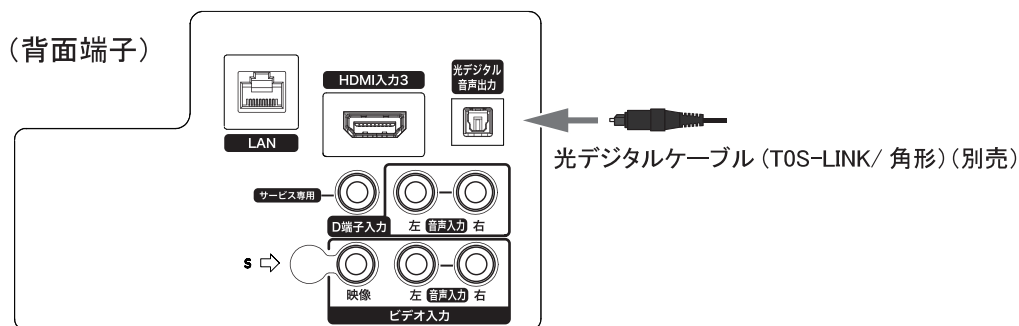
光デジタルケーブルで AV アンプ等を接続する

市販の光デジタルケーブルで AV アンプなどの光デジタル音声入力と、本機の光デジタル音声出力を接続します。光デジタル接続を使用することにより、AV アンプなどから音声を出力し、5.1ch の臨場感のある高音質な音声を楽しむことができます。本機では接続する機器に応じてデジタル音声出力の設定を以下の三つから選ぶことができます。

オフ: 光デジタル音声出力から音声を出力しません。

PCM: MPEG-2AAC またはドルビーデジタルに対応していないオーディオ機器に接続する場合に設定します。ただしサンプリングコンバータを内蔵している必要があります。

ビットストリーム: MPEG2 AAC またはドルビーデジタルの信号をそのまま出力します。



HDMI 連動(CEC)対応機器と接続する

市販の HDMI ケーブルを使い、HDMI 連動(CEC) 対応機器 (AV アンプ、DVD レコーダーなど) を接続することにより、本機のリモコンで操作することが可能です。

本機の HDMI2 入力端子は ARC (オーディオリターンチャンネル) に対応しています。ARC 対応の AV アンプと HDMI ケーブルで接続することにより、デジタル音声を AV アンプに出力することができます。

1. CEC 機能を選んで、HDMI-CEC 機能をオンにします。
2. CEC 機器一覧より、連動(CEC) 対応機器 (AV アンプ、DVD レコーダー等) の電源オン / オフを制御することができます。
3. 音声設定 - スピーカー - スピーカーコントローラー - オフにすると、本体からの音声出力をオフにします。このとき、ARC メニューが操作できるようになります。手動で ARC をオンにします。
4. 設定完了後、ARC 機器から音声出力ができます。本機のリモコンで ARC 機器を音量を調整します。

お知らせ

- HDMI 連動(CEC) に対応した、AV アンプと DVD レコーダーを同時に使用する場合は、本機とレコーダーの間に AV アンプを接続してください。また DVD レコーダー再生時に、映像より音声が進んで聞こえる場合は、AV アンプのリップシンク設定で調整してください。

設定をする

この章では設定メニューを使っての設定・操作方法についてご説明いたします。

一般設定をする.....	38
テレビを見る.....	39
設定メニューについて.....	40
設定メニューから設定をする.....	41
電子番組表 (EPG).....	49
バージョンアップについて.....	50

● 一般設定をする

- 1 すべての接続を行われたら、電源ケーブルをコンセントに差し込んでください。
- 2 本機の電源を初めて入れると、「一般設定」の画面が表示されます。言語、使用モードやネットワークの等の設定を行うことができます。
- 3 リモコンの[▲]/[▼]/[◀]/[▶]でメニューから設定をします。[決定]で決定します。



言語：表示言語を選択します。

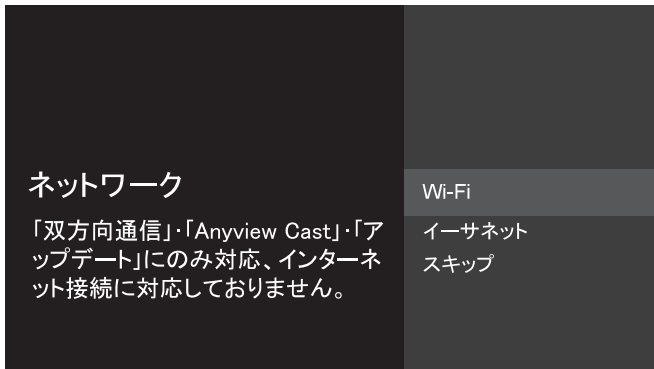


ユーザーモード：

標準モード：標準モードでお使いの時は、お部屋の明るさに応じて自動的に画面の明るさを調整します。

店頭モード：店頭モードでは、映像が店頭の環境に合わせて最適化されます。

ご注意：店頭モードに設定する場合、電源をオフにすると、設定された情報が保存できません。

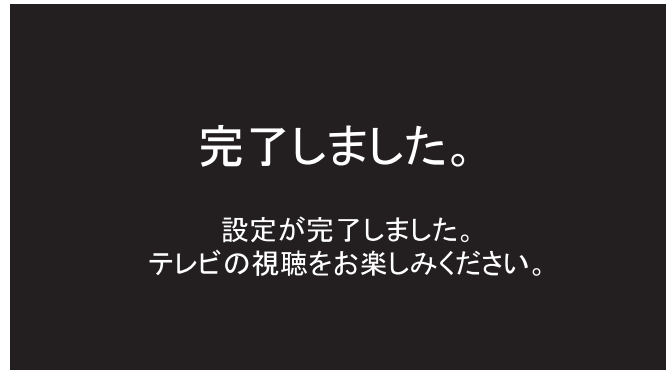


ネットワーク：ネットワーク接続方法を選択します。

Wi-Fi：無線 LAN で接続します。

イーサネット：LAN ケーブルで接続します。

スキップ：ネットワーク接続をスキップします。



一般設定が完了します。

お知らせ

- Wi-Fi やイーサネットでネットワークに接続すると、テレビ番組の双方向通信、Anyview Cast によるスマートホン等からの画像転送、テレビ本体のバージョンアップが可能になります。

● テレビを見る

チャンネルスキャン

テレビを見る場合、チャンネルリストが表示されます(チャンネルのスキャン完了した場合)。スキャンが完了していなかった場合、スキャンしてくださいのメッセージが表示されます、スキャンにする場合、スキャン画面が表示されます。

テレビを見る

初めてご使用になった場合、情報バー表示、録画予約、開始チャンネルリストなどのテレビを見る時操作画面が表示されます。



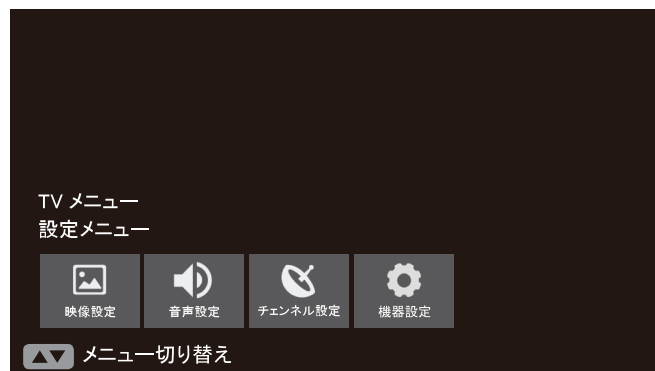
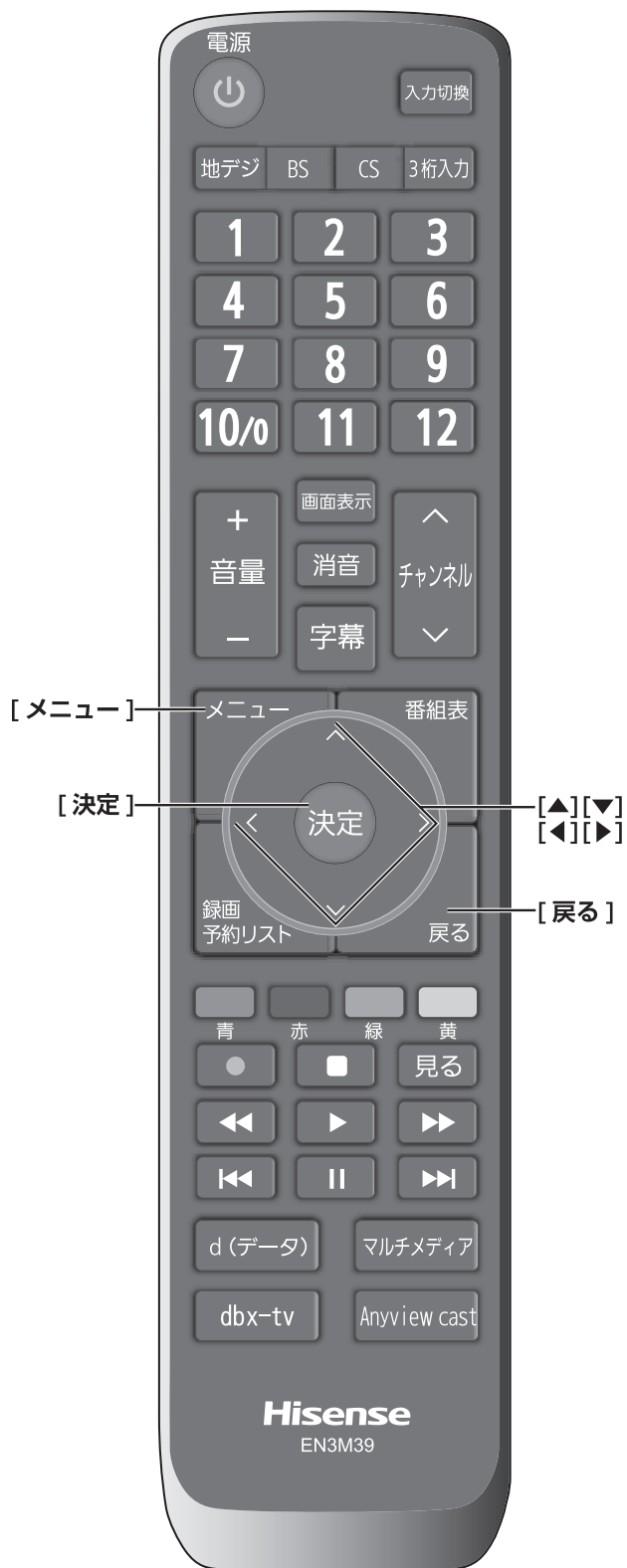
- ▲ 情報バー表示
- ▼ 録画予約
- [決定] 開始チャンネルリスト

お知らせ

- 画面に従い操作を行ったら、メッセージが消えます。

● 設定メニューについて

設定をする



基本的な操作

本機をご使用いただく上での基本的な設定は、設定メニューを使って設定できます。

- 1 リモコンの[メニュー]を押すと設定メニューが表示されます。
- 2 [▲]/[▼]でTVメニューまたは設定メニューを選択し、[◀]/[▶]で項目を決定します。
- 3 [決定]でサブメニューに入ります。
- 4 サブメニューの各項目で、以下の操作ができます：
 - [▲]/[▼]を押して各項目を選択します。
 - [決定]を押して決定します。次のメニューに入ります。
 - [◀]/[▶]で数値を調整します。
 - [▲]/[▼]で項目を調整します。
- 5 [戻る]を押すと、前の画面に戻ります。

設定メニューから設定をする

映像設定



設定項目	切換項目	設定内容
映像モード	スタンダード / ダイナミック / スポーツ / 映画 / ユーザー	画像モードでお好みの画質に設定します。
明るさ	0~100	画面の明るさを調整します。
コントラスト	0~100	画像のコントラストを調整します。
色の濃さ	0~100	画像の色の濃さを調整します。
色あい	-50~50	肌色がより自然に見えるように緑色から赤色までの色合いを調整します。
シャープネス	0~20	画像のシャープネスを調整します。
縦横比	自動 / ワイド / ノーマル (4:3) / パノラマ / 映画 / ズーム / ダイレクト	画像の表示サイズを調整します。
オーバースキャン	オン / オフ	オーバースキャン(画面の周辺部を表示しない)のオン / オフを切り替えます。
バックライト	ダイナミックバックライト	画像のバックライトの明るさを調整します。
	バックライト	画像のバックライトを調整します。
	ECO センサー	ECO センサーで部屋の環境に合わせて画像の明るさを自動的に調整します。消費電力を抑えて省電力になります。
	ECO 最小バックライト	ECO センサーをオンにすると、バックライトを最小の明るさに自動調整します。バックライトを手動で調整した場合は作動しません。
色温度	低 / 中 / 高	色温度を調整します。

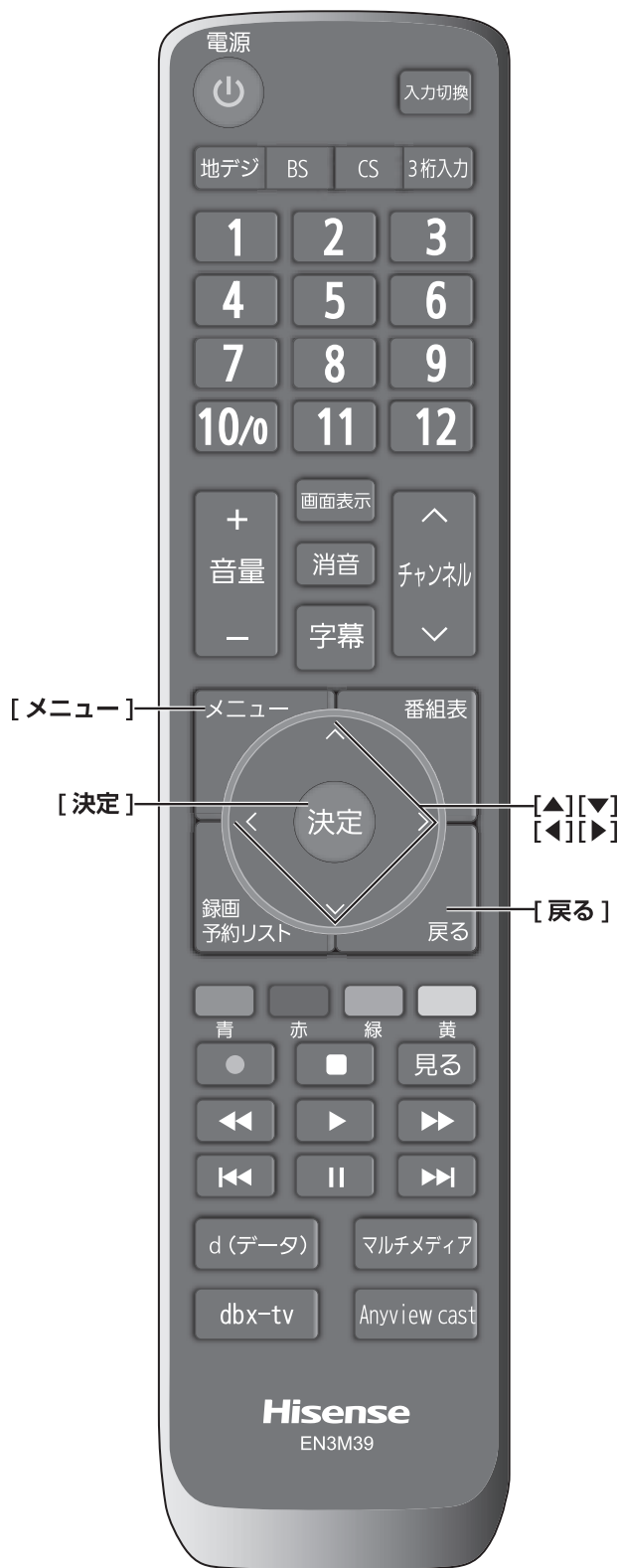
設定項目	切換項目	設定内容
ノイズリダクション	オフ / 低 / 中 / 高	ノイズを軽減します。
ダイナミックコントラスト	オン / オフ	画像のコントラストを自動調整します。
画面	D 端子入力の画像設定をします。	
ホワイトバランス	R- オフセット G- オフセット B- オフセット R- ゲイン G- ゲイン B- ゲイン	画像の赤、緑、青の明るさを調整し、画像の色を調整します。
	ホワイトバランスの初期化	お買い上げ時の設定に戻します。
リセット	OK/キャンセル	すべての映像設定をお買い上げ時の設定に戻します。

お知らせ

- 入力によって、映像モードの切換方式が違います。

設定メニューから設定をする

設定をする



音声設定



設定項目	切替項目	設定内容
音声モード	スタンダード / シアター / 音楽 / スピーチ / ナイトモード	映像内容に合わせて設定します。
音声切替	音声言語 二重音声	音声言語を選択します。 音声を選択します。
バランス	-50~50	左右の音声のバランスを調整します。
イコライザー	イコライザー (120HZ) イコライザー (500HZ) イコライザー (1.5KHZ) イコライザー (5KHZ) イコライザー (10KHZ)	音声入力に合わせた音声に調整します。
dbx-tv	Total Sonics® Total Volume® Total Surround®	お好みに合わせて音声効果を設定します。
スピーカー	スピーカーコントロール	スピーカーから音声が出力されるように設定します。
	リップシンク	映像に対する音ズレを調整します。
デジタル音声出力	モード	音響機器の入力モードに合った音声出力を選択します。例えば、5.1ch サラウンドがある場合、ビットストリーム (圧縮無し) に設定します。ドルビーデジタルに対応していないオーディオ機器に接続する場合はPCM に設定します。
	ディレイ	デジタル音声出力の時間を遅延させて、スピーカーからの出力と映像のズレが無いように調整します。
ARC	オン / オフ	接続されているスピーカーから音声を出力します。

● 設定メニューから設定をする

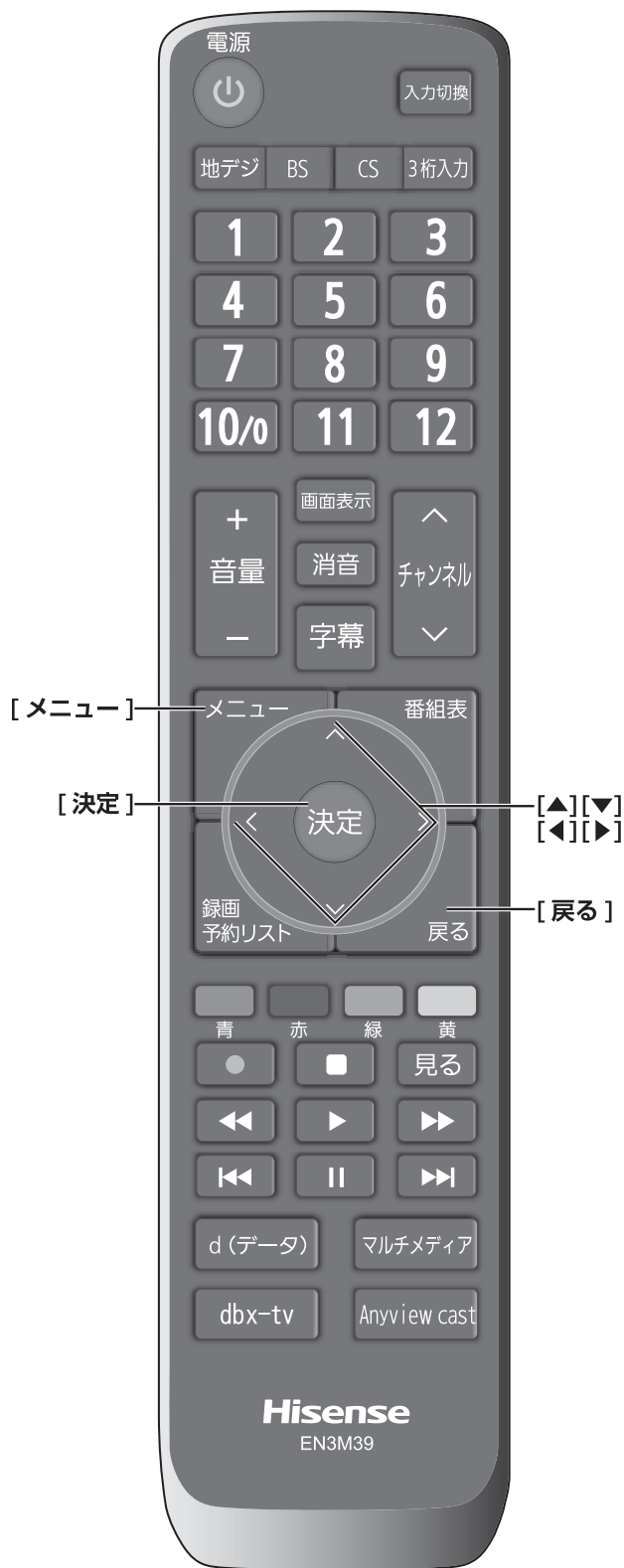
設定項目	切換項目	設定内容
ヘッドホン	ヘッドホン優先	オンに設定すると、ヘッドホンを差した時、本体の音声が出力されません。オフに設定すると、本体のスピーカーとヘッドホン両方から音声が出力されます。
	ヘッドホン音量	ヘッドホンの音量を調整します。
リセット	OK/キャンセル	音声設定をお買い上げ時の設定に戻します。

● dbx-tv[®]

設定項目	切換項目	設定内容
Total Sonics [®]	オン/オフ	音声出力を最適化します。
Total Volume [®]	オフ/ナイト/ノーマル	放送や入力信号により音量が変化するとき自動調整します。
Total Surround [®]	オン/オフ	ご覧になる内容によってサラウンドをオン/オフにします。

設定メニューから設定をする

設定をする



チャンネル設定



設定項目	切換項目	設定内容
チャンネルスキャン	初期スキャン	初めてスキャンする場合、郵便番号、地域、衛星電源などの設定が必要です。
	再スキャン	再スキャンする場合、上記の設定は必要ありません。
視聴制限	暗証番号変更	視聴制限の暗証番号を変更します。この場合、既存の暗証番号を入力してから、新しい暗証番号を設定してください。
	視聴可能年齢	視聴制限年齢を選択します。
	視聴制限の初期化	お買い上げ時の設定に戻します。
受信設定	地上波	地上波の受信設定をします。放送の電波が強すぎて映像が不安定になるときはアッテネーターをオンに設定し、電波を弱めてください。
	衛星放送	アンテナ電源:オンにすると衛星アンテナのコンバータへ電源を供給します。(ブースターなどからコンバータへ電源を供給しているときはオフにしてください)
チャンネル設定	地上波 / BS / CS1 / CS2	チャンネルの割り当てを編集します。
選局対象	全チャンネル / 設定チャンネル / テレビのみ	チャンネル順送り選局でチャンネル一覧の種類を設定します。放送中の全チャンネル、チャンネル設定で設定したチャンネル、放送中のテレビ番組のいずれか選ぶことができます。
チャンネルと時計表示	オン/オフ	チャンネルと時間を画面に表示するかを選択します。

● 設定メニューから設定をする

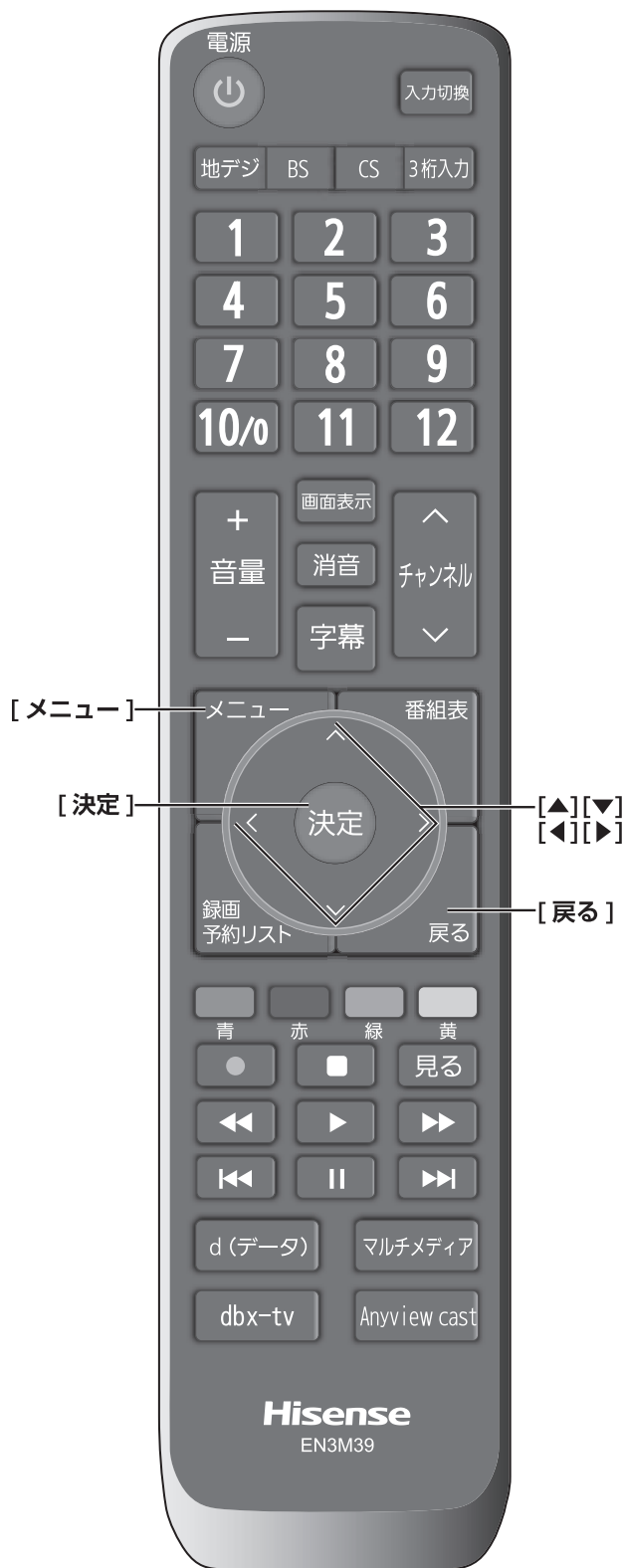
設定項目	切換項目	設定内容
放送メール		放送メールの情報を表示します。
CS からのお知らせ		CS ボードの情報を表示します。
B-CAS カード		B-CAS カードの情報を表示します。

お知らせ

- パスワードをお忘れになった場合、ハイセンスジャパンのサポートセンターにお問い合わせください。

● 設定メニューから設定をする

設定をする



機器設定



● ネットワーク

設定項目	切換項目	設定内容
Wi-Fi	利用可能なネットワーク	検索できたワイヤレス ネットワークの一覧を表示します。
	WPS経由の接続 / 新しいネットワークを追加	[WPS 経由] または [新しいネットワークを追加する] を選択して Wi-Fi に接続します。
イーサネット	インターネット接続	インターネット接続状態を表示します。
	詳細オプション	プロキシまたは IP アドレスを設定します。
Anyview Cast	--	スマートホンやパソコンの映像をテレビで表示します。 ・テレビ側： Anyview Cast アプリに入ります。 ・スマートホン側： テレビとパソコンや他の携帯機器と接続します。

お知らせ

- テレビと同じネットワーク内にあることを必ず確認してください。
- 機器によっては対応しないことがあります。

設定メニューから設定をする

● 録画設定

設定項目	設定内容
USB機器管理	録画内容を保存するハードディスクを設置します。録画用のハードディスクを初めて使用する場合、登録が必要です。登録したハードディスクのみ録画ができます。(詳細はUSBディスク登録をご参照ください)
録画ボタン設定	録画時間を設定します。番組終了を選択する場合、番組が終了するまで録画します。3時間を選択する場合、3時間を録画します。

● 表示の設定

設定項目	切換項目	設定内容
字幕	表示	字幕表示をオン・オフにします。
	言語	字幕の言語を選択します。
文字スーパー	表示	文字スーパー表示をオン・オフにします。
	言語	字幕の言語を選択します。
入力名前変更	DTV/D端子/ HDMI1/HDMI2/ HDMI3/ビデオ	入力信号の表示名を変更する。
メニュー表示時間	10秒 / 20秒 / 30秒 / 60秒 / オフ	メニューの表示時間を設定します。

● 高速起動

設定項目	切換項目	設定内容
高速起動	オン/オフ	高速起動機能をオン/オフにします。

● 本体の初期化

設定項目	設定内容
本体の初期化	お客様が設定した内容やチャンネル情報をすべて削除して、お買い上げ時の設定に戻します。

お知らせ

- お買い上げ時の設定に戻すと、録画した番組は再生できません。

● 本体情報

設定項目	切換項目
本体情報	本体名/自動ファームウェア・アップデート/ファームウェア・アップデート確認/モデル/バージョン/ライセンス情報

● 日付と時刻

設定項目	切換項目	設定内容
日付		現在の日付を表示します。
時刻		現在の時刻を表示します。
電源オフタイマー	繰り返し設定	オフタイマーの頻度を設定します。
	時間	オフタイマーを設定します。(繰り返し設定をオフにすると、この機能は無効となります。)
	曜日	毎週のオフタイマー時刻を設定します。(繰り返し設定を毎週にした場合、有効となります。)
無信号オフ	オン/オフ	入力信号終了15分間後電源が自動的にオフします。
無操作オフ	オン/オフ	4時間操作無しの場合、電源が自動的にオフします。

● 言語

設定項目	切換項目	設定内容
言語	English/ 日本語	メニューの表示言語を選択します。

● キーボード

設定項目	設定内容
現在のキーボード	キーボードを設定します。
設定	キーボードの表示方法を設定します。

設定メニューから設定をする

● CEC 機能

CEC 機能を選んで、HDMI 制御をオンに設定すると、以下のメニュー設定が表示されます。

設定項目	切換項目	設定内容
HDMI 制御	オン / オフ	テレビで HDMI 対応機器を操作できます。
デバイスの自動電源オフ	オン / オフ	オンにすると、テレビの電源を切ったら、CEC 機器も同時に電源を切ります。
テレビの自動電源オン	オン / オフ	オンにすると、CEC 機器の電源を入れるとテレビの電源もオンになります。
CEC装置のリスト	--	接続されている CEC 機器一覧を表示します。

お知らせ

- HDMI CEC 対応機器をオンにします。
- HDMI CEC リンクに対応していない HDMI 機器に接続する場合、HDMI -CEC の機能が使用できません。
- 接続した HDMI 機器により、HDMI-CEC リンクが使用できないことがあります。

● 位置情報

設定項目	設定内容
住所一覧	住所を設定します。
郵便番号	郵便番号を設定します。

バージョンアップについて

テレビの機能等を向上させるために、ソフトウェアのバージョンアップを提供します。バージョンアップ用ソフトウェアを自動受信できるように、本機がインターネットに接続されている必要があります。

お知らせ

- 事業者からのバージョンアップには対応していません。

自動更新

- 1 本機をあらかじめインターネットに接続する必要があります。LAN ケーブルか無線 LAN で接続することができます。詳しくは LAN 接続(双方向通信)をご参照ください。
- 2 リモコンの【メニュー】を押してメニューを表示、設定メニュー→機器設定→本体情報→自動ファームウェア・アップデートオンから、自動更新機能をオンにします。
- 3 自動更新をオンにすると、電源が入ったら、ソフトウェアの最新バージョンを自動的に検索します。最新バージョンが見つければ、自動ダウンロード・検証に入ります。
- 4 ダウンロードが完了したら、検証を行います。検証完了しますと、「バージョンアップ用ソフトウェアが準備完了です。バージョンアップしますか。」と表示されます。【決定】を押して、自動的に再起動しバージョンアップします。
- 5 本機が再起動すると、新しいソフトウェアをインストールします。その後、自動的に再起動しメインシステムに入ります。

マニュアル更新

本機に自動更新をオンにしていない場合、手動で更新することができます。

- 1 本機をあらかじめインターネットに接続する必要があります。LAN ケーブルか無線 LAN で接続することができます。詳しくは LAN 接続(双方向通信)をご参照ください。
- 2 リモコンの【メニュー】を押して、設定メニュー→機器設定→本体情報→ファームウェア・アップデート確認からマニュアル更新をすることができます。
- 3
 - ・バージョン確認
サーバーに最新のソフトウェアがある場合、「新しいバージョンがありますか、バージョンアップしますか。」と表示されます。
 - ・ソフトウェアのダウンロード
サーバーからソフトウェアがダウンロードしますが、インターネットに接続したままにしてください。
ソフトウェアのダウンロード中、「バックグラウンドで実行」を選択します。OK を押して、バージョンアップの画面を閉じます。ご使用に支障がありません。
 - ・ソフトウェアの検証
ソフトウェアがダウンロード完了後、検証が自動的に行われます。検証中でも、ダウンロードと同じようにバックグラウンドで行うこともできます。
検証完了後、「バージョンアップが準備完了です。バージョンアップしますか。」と表示されます。【決定】で確定し、本機が再起動しバージョンアップします。
 - ・再起動して更新する
本機が再起動してソフトウェアがインストールされます。完了後、本機が再起動しメインシステムに入ります。

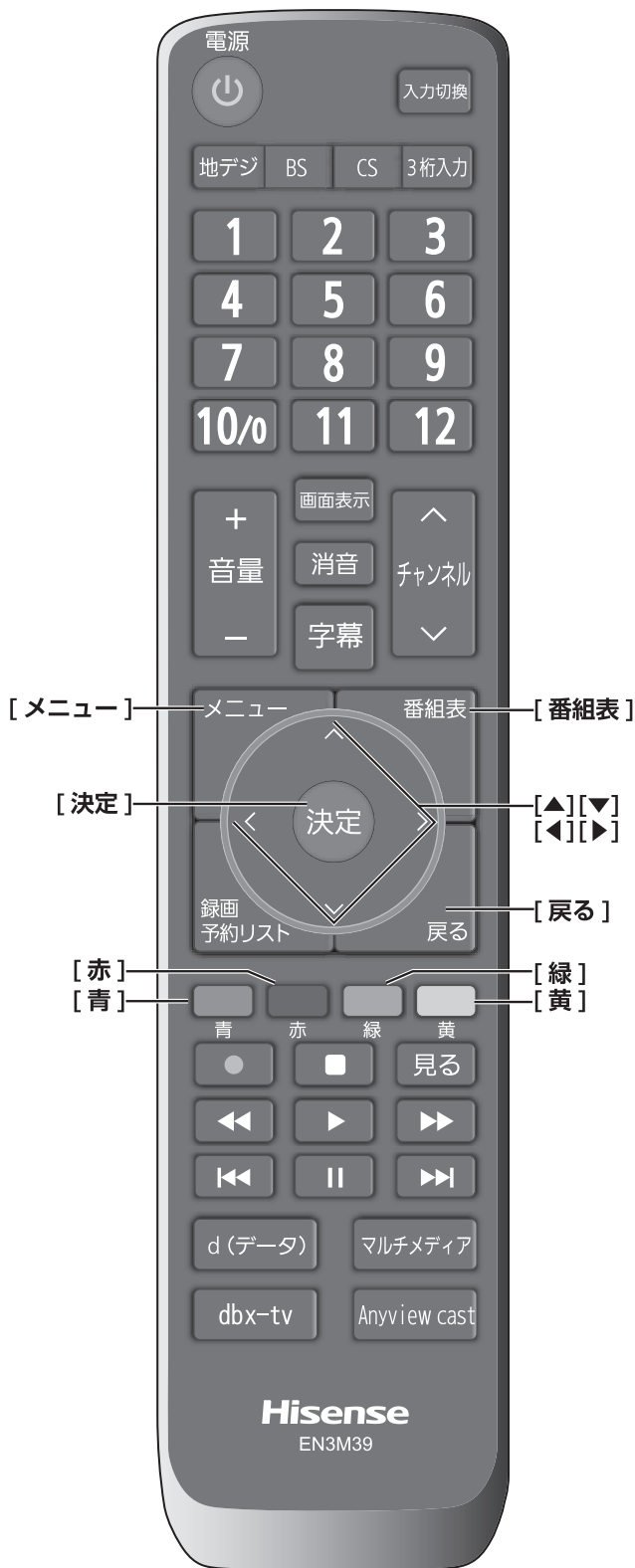
番組の録画、再生、予約をする

この章では、番組の視聴予約、録画予約、録画した番組の再生について説明します。録画予約や録画した番組の再生を行うには USB ハードディスク(別売)が必要です。

番組の視聴予約をする.....	52
録画、録画予約をする.....	54
録画した番組を見る、編集する.....	59

番組を視聴予約する

番組の録画、再生、予約をする



番組を視聴予約する

まだ放送が始まっていない番組を視聴予約することができます。テレビを見ているときに、開始時刻になると、メッセージが画面に表示されます。キャンセルを選択すると表示が消えます。現在見ている番組を続けて見られます。

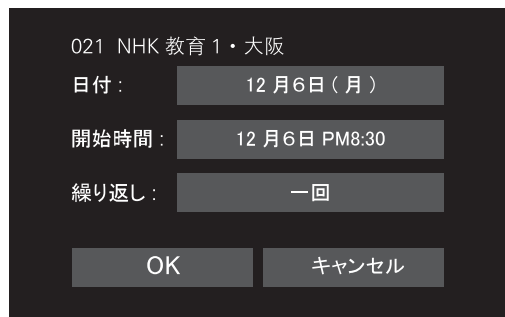
リモコンの【番組表】を押して、番組視聴を予約します。

- 1 リモコンの【番組表】を押して、電子番組表を表示します。
- 2 リモコンの【◀】/【▶】を押して選局し、【▲】/【▼】を押して放送時刻を選択します。
- 3 リモコンの【決定】を押すと、番組表を表示します。視聴予約を選択して、自動予約画面を表示します。



(自動予約画面)

- 4 OKを選択して選択した番組を予約します。キャンセルを選択して戻ります。
- 5 日時を指定して視聴予約したい場合、時間指定予約を選択し、日時を指定して視聴予約画面に移動します。



(時間を指定して視聴予約画面)

- 6 日時を指定して視聴予約画面で、日付、時刻と繰り返し頻度の予約設定ができます。設定完了後、OKを押して確認します。キャンセルを押して戻ります。
- 7 視聴予約した番組に青い「予」マークが付きます。

番組を視聴予約する

日時を指定して視聴する

- 1 リモコンの[番組表]を押して電子番組表を表示します。
- 2 リモコンの[◀]/[▶]を押してチャンネルを選択し、[▲]/[▼]を押して放送時刻を選択します。
- 3 リモコンの[決定]を押して番組内容が表示します。視聴予約を選択し、視聴予約画面が表示します。
- 4 時間指定予約を押して、日時を指定して視聴予約画面が表示します。
- 5 各項目を設定し、OKを押して確定します。キャンセルを押して戻ります。

日付: 視聴予約の日付を設定します。

開始時間: 視聴予約番組の時刻を設定します。

繰り返し: 視聴予約回数を 一回、毎日または 毎週に設定することができます。

お知らせ

- 予約した番組は視聴年齢制限番組の場合、暗証番号を入力する必要があります。

予約の確認、削除をする

方法1:

- 1 [メニュー]を押し、リモコンの[▲]/[▼]/[◀]/[▶]で視聴予約一覧を選択して、[決定]を押すと、予約が確認できます。
リモコンの[番組表]を押し、電子番組表を表示します。[青]を押し、番組表メニューに移動します。視聴予約一覧を選び、予約の確認できます。



- 2 メニュー画面でリモコンの[▲]/[▼]で番組を選択します。[▶]を押して「この予約を削除しますか。」とのメッセージが表示されます。OKを押して確定します。キャンセルを選択し、戻ります。全て削除を選択し、「この予約を削除しますか。」とのメッセージが表示されます。OKを押して確定します。キャンセルを選択し、戻ります。

方法2:

- 1 リモコンの[番組表]を押して、電子番組表を表示します。
- 2 リモコンの[▲]/[▼]/[◀]/[▶]を押して、予約した番組(予約した番組に青い“予”マークが付きます)を選択し、[決定]を押して決定します。
- 3 視聴予約削除を押して、「この予約を削除しますか。」というメッセージを表示しますが、OKを押して決定します。キャンセルを押して戻ります。

予約の変更をする

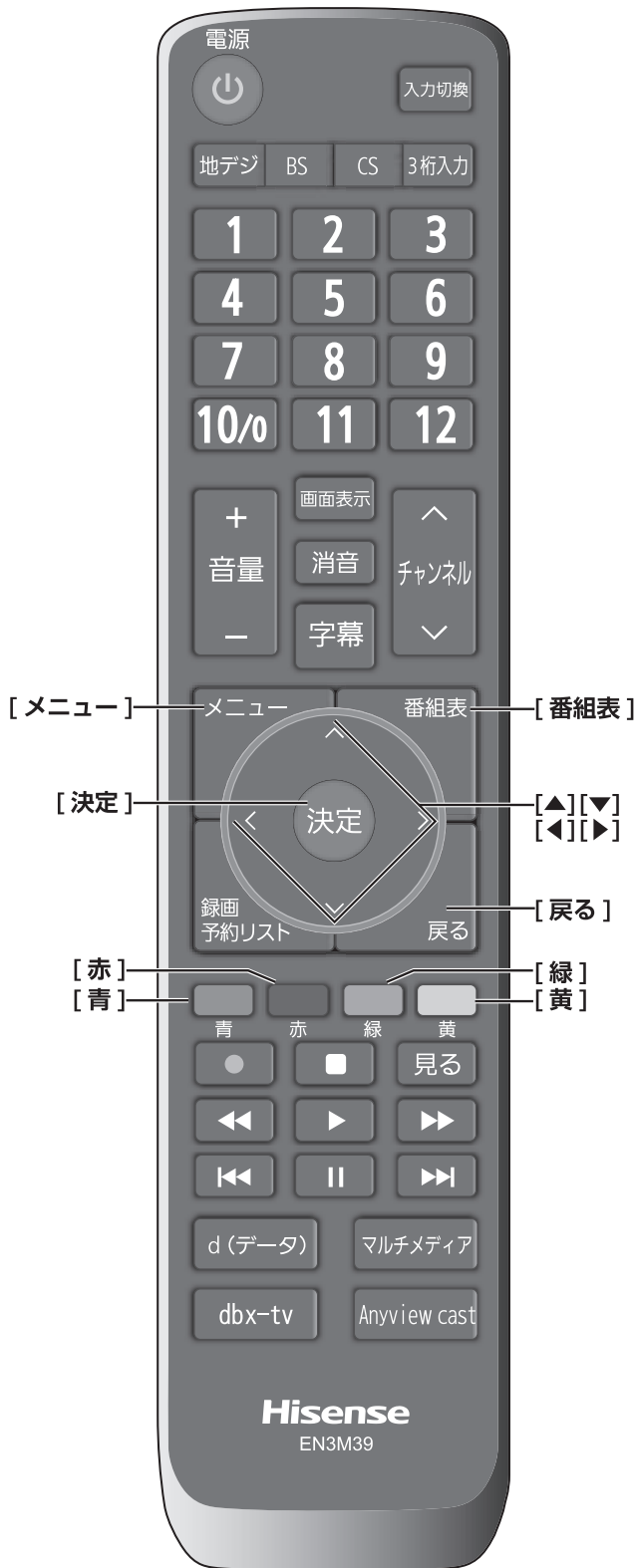
- 1 [メニュー]を押し、リモコンの[▲]/[▼]/[◀]/[▶]で視聴予約一覧を選択して、[決定]を押すと、予約が確認できます。
リモコンの[番組表]を押して、青を押して番組表メニューが表示されます。視聴予約一覧を選択し、予約状況の確認ができます。



- 2 メニュー画面で、リモコンの[▲]/[▼]を押してチャンネルを選択し、[決定]を押して入ります。
- 3 メニュー画面で予約項目変更を設定し、OKを押して確定します。キャンセルを押して戻ります。

番組の録画、録画予約をする

番組の録画、再生、予約をする



USB ハードディスクを登録する

- USB ハブを経由して、USB ハードディスクを使用することはできません。
- 本機で USB ハードディスクに録画した映像は、他の機器での再生はできません。(本機と同じ型番でも再生できません。)
- 他の機器で使用すると、再フォーマットが必要となり、録画した番組がすべて削除されます。
- 故障で本機を修理した場合などは、USB ハードディスクに録画した番組を本機で再生できなくなります。
- 本機が対応している USB ハードディスクの容量(公称値)は 160GB 以上ですが、最大で 4TB まで対応できます。
- 番組を録画保存する場合、USB 機器は 5MB/s 以上の転送速度が必要とされます。
- 本機は USB3.0 規格に対応しています。
- 本機は USB メモリーでの録画には対応しません。USB2.0、USB3.0 ハードディスクのみで録画できます。USB 延長コードを使用した場合、録画効果に影響がでることがあります。

本機に未登録の USB ハードディスクを接続する場合、予約や録画機能を使用すれば、登録画面が表示されます。

- 1 録画する前に、USB 機器を接続する必要があります。
- 2 録画用 USB 機器は初めて使用する場合、設定が必要です。リモコンの[メニュー]を押し、機器設定→録画設定→USB機器管理から USB機器管理画面を設定します。
- 3 [USB機器管理]画面で、[緑]を押して、選択された USB ハードディスクを登録します。
- 4 登録完了し、[登録]と表示されますと、録画ができます。



お知らせ

- 録画が始まった時、録画された番組は登録された機器に保存します。録画された番組は本機の録画一覧((PVR 専用)でしか再生できません。

番組の録画、録画予約をする

登録を確認するには

- 1 リモコンの【メニュー】を押して、メニューが表示されます。
- 2 機器設定→録画設定→USB機器管理から USB機器管理画面に移動し、登録状態で登録状況が確認できます。

USB ハードディスクを取り外す

本機に接続した USB ハードディスクの電源を切ったり、接続ケーブルを抜いたりする場合は、必ず先に以下の操作を行ってください。

- 1 リモコンの【メニュー】を押し、メニューが表示されます。
- 2 機器設定→録画設定→USB機器管理から【USB機器管理】画面が表示されます。
- 3 接続されている USB ハードディスクを選び、【黄】を押す。「USBディスクを取り出しました」と表示されたら、接続ケーブルを抜くか、電源を切っても安全です。

USB ハードディスクの登録を削除する

- 1 リモコンの【メニュー】を押し、メニューが表示されます。
- 2 機器設定→録画設定→USB機器管理から【USB機器管理】画面が表示されます。
- 3 接続されている USB ハードディスクを選択し、【緑】を押して登録削除画面を表示します。OK を押して決定します。キャンセルを押して戻ります。

お知らせ

- 登録を削除された USB ハードディスクでは録画を続けることはできませんが本機で録画した番組は再生できます。再度登録すると、USB ハードディスクがフォーマットされ、USB HDD 内のすべてのデータが消去されます。
- 再度登録する場合、【登録】を削除してから、再登録する必要があります。

USB ハードディスクの残量を確認する

- 1 リモコン【メニュー】を押し、メニューを表示します。
- 2 機器設定→録画設定→USB機器管理から【USB機器管理】画面が表示されます。
- 3 全容量 / 空容量画面で、接続されている USB ハードディスクの録画残量時間が確認できます。

USB ハードディスクの表示名を変更する

- 1 リモコンの【メニュー】を押して、メニューを表示します。
- 2 機器設定→録画設定→USB機器管理から【USB機器管理】画面が表示されます。
- 3 接続されている USB ハードディスクを選び、【赤】を押して、USB ハードディスクの表示名を変更することができます。

録画について

万一、何らかの不具合により、録画や再生ができなかった場合、内容(データ)の保証や損失、直接・間接の損害について、当社は一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

放送画質と録画時間		
	HDD 容量 1TB	HDD 容量 500G
地上デジタル放送 HD	約 120 時間	約 60 時間
BS デジタル放送 HD	約 86 時間	約 43 時間

デジタルデータの著作権保護について

- 本機では著作権保護により、コピー禁止の情報が付加されている放送番組や映像ソフトは、録画することができません。

録画時のご注意

- 電源を押してから、USB ハードディスクが起動するまで、USB ハードディスクに録画したり、入っている録画番組にアクセスすることはできません。
- 本機は、デジタル放送を 2 番組同時に録画することやラジオ放送、独立データ放送の録画はできません。
- 録画を一時停止することはできません。
- テレビ放送に連動したデータ放送は録画されますが、録画した後で再生した場合、データ放送の内容によっては操作できない場合があります。
- デジタル放送の受信状態が悪い(画面がきちんと表示されない、音声かとぎれる)場合、録画を行うと、番組の先頭部分や途中部分が切れたりすることがあります。
- 録画中に録画が禁止されている番組または映像になると、録画が停止します。
- 保存できる録画番組の数は、USB ハードディスク 1 台あたり最大 3,000 個です。
- 停電などで録画が中断した場合、再び電源が入っても録画の再開はされません。また録画された番組を正しく再生できない場合があります。
- 録画中はメニュー、番組表、録画番組の画面を表示するのに時間がかかる場合がありますが、故障ではありません。
- 録画途中で USB ハードディスクを取り外さないでください。無理に取り外すと、ハードディスクの損害や本機異常発生の原因となります。
- 放送中の番組を録画途中で、番組にイベントリレーがある場合、自動録画ができなくなります。予約録画中に、イベントリレーがある場合は自動的に録画します。

番組の録画、録画予約をする



番組の録画、再生、予約をする

放送中の番組を録画する

テレビ視聴時、[録画]/[▼]を押して録画します。

- 1 リモコンの[録画]を押して録画を開始します。または[▼]を押して録画状態バーが表示され、録画開始を押して録画を開始することもできます。



- 2 録画完了後、リモコンの[見る]を押して録画一覧に入ります。録画や番組に対し、選択、視聴、削除、編集などができます。

お知らせ

- 録画一覧で録画中と表示される番組は同時に見ることができます。
- 録画プロテクトと設定された映像が削除できません。録画プロテクトを解除した後、削除できるようになります。
- 残量が足りない時、「残量不足です。」と表示します。お客様が他の録画映像を削除する必要があります。

録画を途中でやめる

- 1 リモコンの[停止]/[▼]を押して、録画バーを表示し、停止を押して録画を中止します。

お知らせ

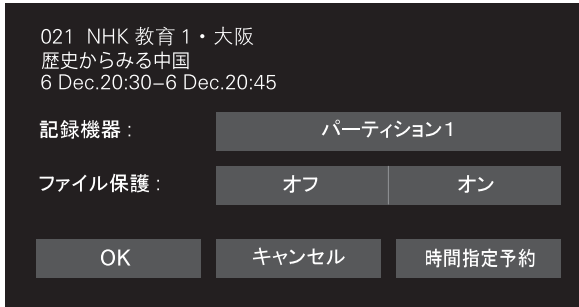
- 録画中、本機をスタンバイにしても、録画が続けますので、電源プラグを抜かないでください。

番組の録画、録画予約をする

録画予約する

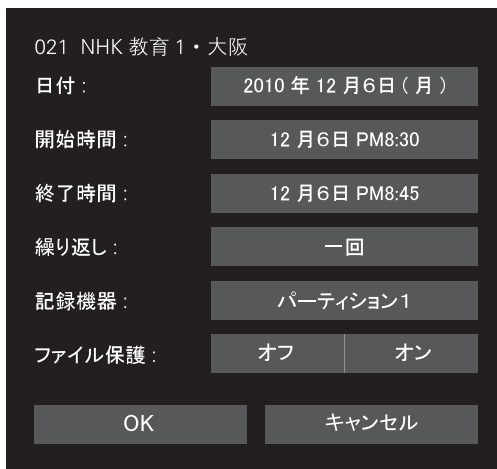
リモコンの【番組表】を押して、録画を予約します。

- 1 リモコンの【番組表】を押して、電子番組表を表示します。
- 2 リモコンの【◀】/【▶】を押して、チャンネルを選び【▲】/【▼】を押して、放送時刻を選択します。
- 3 リモコンの【決定】を押して、番組内容が表示されます。録画予約を選択し、自動予約画面に入ります。



(自動予約画面)

- 4 設定完了後、OKを押して、決定します。キャンセルを押して戻ります。
- 5 日時を指定して予約したい場合、時間指定予約を押して、日時を指定して予約画面に移動します。



(時間を指定して視聴予約画面)

- 6 時間を指定して録画予約画面で、【▲】/【▼】/【◀】/【▶】を押して予約録画時刻と繰り返し頻度を設定します。設定完了後、OKを押して決定します。キャンセルを押して戻ります。
- 7 予約した番組に赤い【予】マークが付きます。

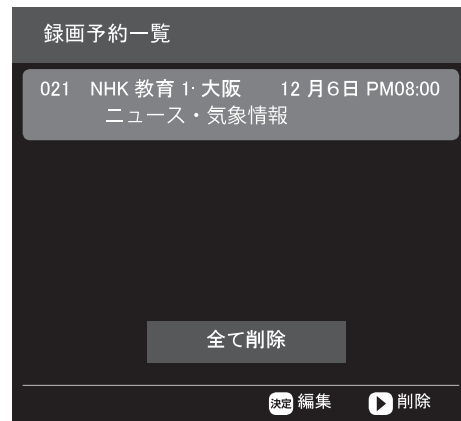
日時を指定して録画予約する

- 1 リモコンの【番組表】を押して、電子番組表を表示します。
- 2 リモコンの【◀】/【▶】を押して、チャンネルを選択します。【▲】/【▼】を押して放送時刻を選択します。
- 3 リモコンの【決定】を押して、番組内容を表示します。録画予約を押して、録画予約画面を表示します。
- 4 時間指定予約を選択して決定します。
- 5 各項目を設定し、確認を選択して、決定します。キャンセルを選択して、戻ります。
日付: 録画する日付を設定します。
開始時間: 録画したい番組の開始時刻を設定します。
終了時刻: 録画したい番組の終了時刻を設定します。
繰り返し: 一回予約する、毎日予約する、毎週予約するのいずれかを選択します。
記録機器: 録画機器の種類を設定します。
ファイル保護: オンにすると、番組にプロテクトが付きます。

予約の確認、削除をする

方法1:

- 1 【メニュー】を押して、リモコンの【▲】/【▼】/【◀】/【▶】で録画予約一覧を選択し、【決定】を押すと、予約が確認できます。
またはリモコンの【番組表】を押して【青】を押すと番組表メニューが表示されます。録画予約一覧を選択し、予約を確認することもできます。



- 2 録画予約一覧画面でリモコンの【▲】/【▼】を押して番組を選択します。【▶】を押すと「この予約を削除しますか。」とのメッセージが表示されます。確認を押して確定します。キャンセルを押して戻ります。全て削除を選択し、「この予約を削除しますか。」とのメッセージが表示されます。確認を押して確定します。キャンセルを押して戻ります。

番組の録画、録画予約をする

方法2:

- 1 リモコンの[番組表]を押して、電子番組表を表示します。
- 2 リモコンの[▲]/[▼]/[◀]/[▶]を押して、予約した番組(予約した番組に赤い「予」マークが付きます)を選択します。[決定]を押して確認します。
- 3 予約削除を押して、「この予約を削除しますか。」というメッセージが表示されます、確認を押して確定します、キャンセルを押して戻ります。

予約を変更する

- 1 リモコンの[メニュー]を押し、[▲]/[▼]/[◀]/[▶]でTVメニューから録画予約一覧を選択して、[決定]を押すと予約一覧が表示されます。予約が確認できます。
またはリモコンの[番組表]を押し、電子番組表を表示します。[青]を押して番組表メニューに移動し、録画予約一覧を選択しても、予約を確認できます。

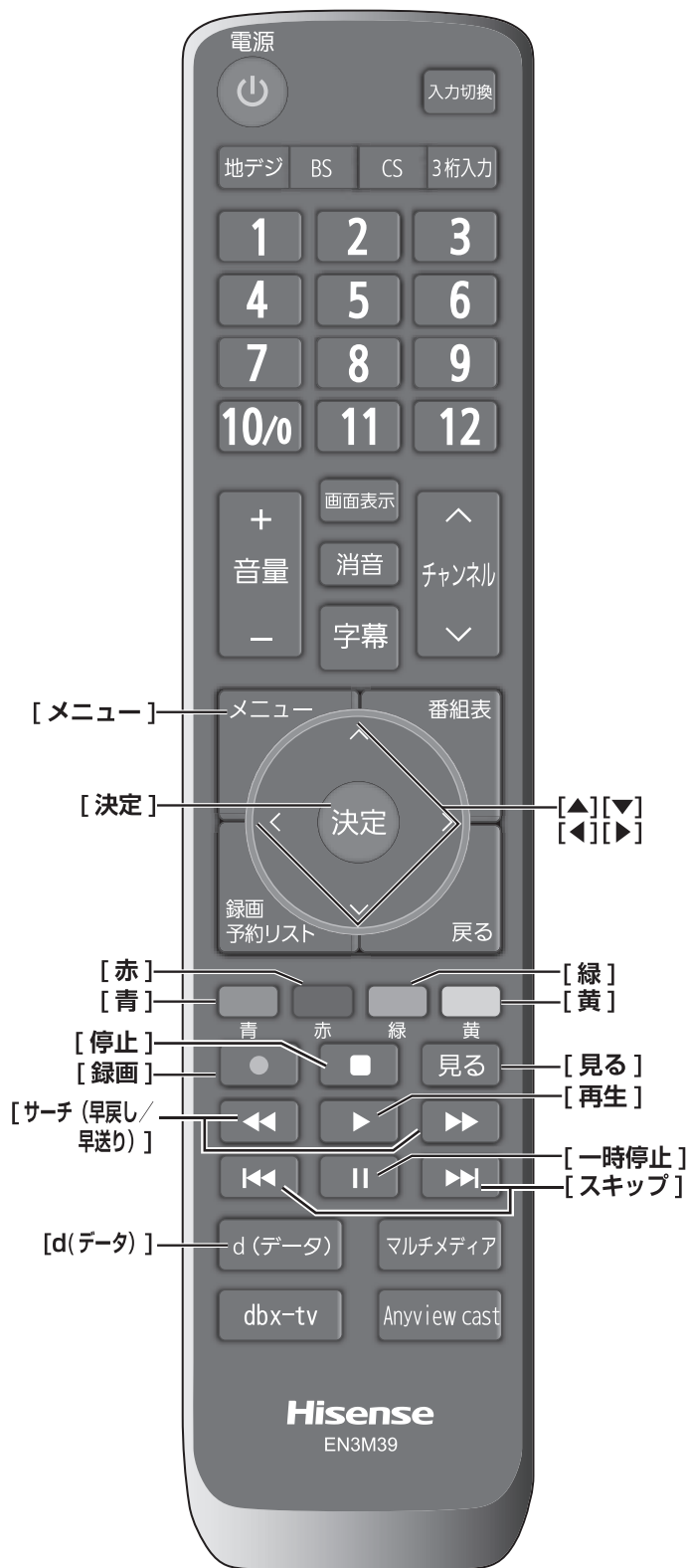


- 2 録画予約一覧で、リモコンの[▲]/[▼]で録画予約番組を選び、[決定]を押します。
- 3 予約設定を変更して、確認を押します。キャンセルを押して戻ります。

お知らせ

- 録画予約をした後に電源コンセントを抜いたり、停電があった場合、再度電源が復旧してもその後の録画予約の録画は行われません。録画予約がある場合は、スタンバイ状態のままにするか、電源が復旧した後に一度テレビの電源をオンにするとその後の録画予約が有効になります。

録画した番組を見る、編集する



【見る】から選び

1 リモコンの【見る】を押すと、再生することができます。



2 リモコンの【▲】/【▼】を押して見たい録画番組を選択します。

【決定】を押すと、再生が開始されます。

再生を停止する場合は、【戻る】/【停止】を押します。

【一時停止】を押すと、再生が一時的に停止し、その画面に止まります。

お知らせ

- 【d(データ)】を押すと、選択した番組の情報を表示します。
- 複数のUSBハードディスクが接続されている場合、【黄】を押して、USBハードディスクを選択することができます。
- 未視聴の録画番組に【NEW】マークが付きます。
- ハードディスクの容量が足りない場合、「容量が不足してます」とのメッセージが表示されます。手動で他の録画した番組を削除する必要があります。
- 前回、再生を途中で停止したUSBハードディスクの録画番組を再生する場合、続きから再生、最初から再生のいずれかを選択することができます。

番組を録画しながら再生する

録画中の番組を、録画しながら再生することができます（追いかけて再生）。

1 リモコンの【見る】を押す

2 リモコンの【▲】/【▼】/【◀】/【▶】を押して、見たい録画中の番組（赤丸が付いた録画実行中）を選択して、【決定】を押す。再生が開始されます。再生を停止する場合は、【停止】を押します。

お知らせ

- 追いかけて再生の場合、再生している映像に影響がでる場合があります。

録画した番組を見る、編集する

録画した番組を消去する

- 1 リモコンの[見る]を押して録画番組リストを表示します。
リモコンの[メニュー]を押して、メニューが表示されます。
[▲]/[▼]/[◀]/[▶]を押して、TVメニューから録画番組一覧を選択し、[決定]を押すと、録画番組リストが表示されます。
リモコンの[番組表]を押して、電子番組表を表示します。[青]を押して、電子番組表メニューを表示し、録画一覧を選択し、録画一覧を表示することができます。
- 2 リモコンの[▲]/[▼]を押して、削除したい録画番組を選択します。
- 3 [赤]を押し、「この録画ファイルを削除しますか?」というメッセージが表示されます。OKを選択して、確定します。キャンセルを押して、戻ります。

再生中に再生バーが表示されます。再生バーを操作することで再生速度を制御することもできます。



複数の番組を一括で消去する

- 1 リモコンの[見る]を押します。
- 2 [青]を押し複数の番組を選択することができます。再度[青]を押して全て選択(プロテクトをかけた番組を除く)して、[赤]を押して削除することもできます。

お知らせ

- プロテクトをかけた番組は削除できません。

いろいろな再生のしかた

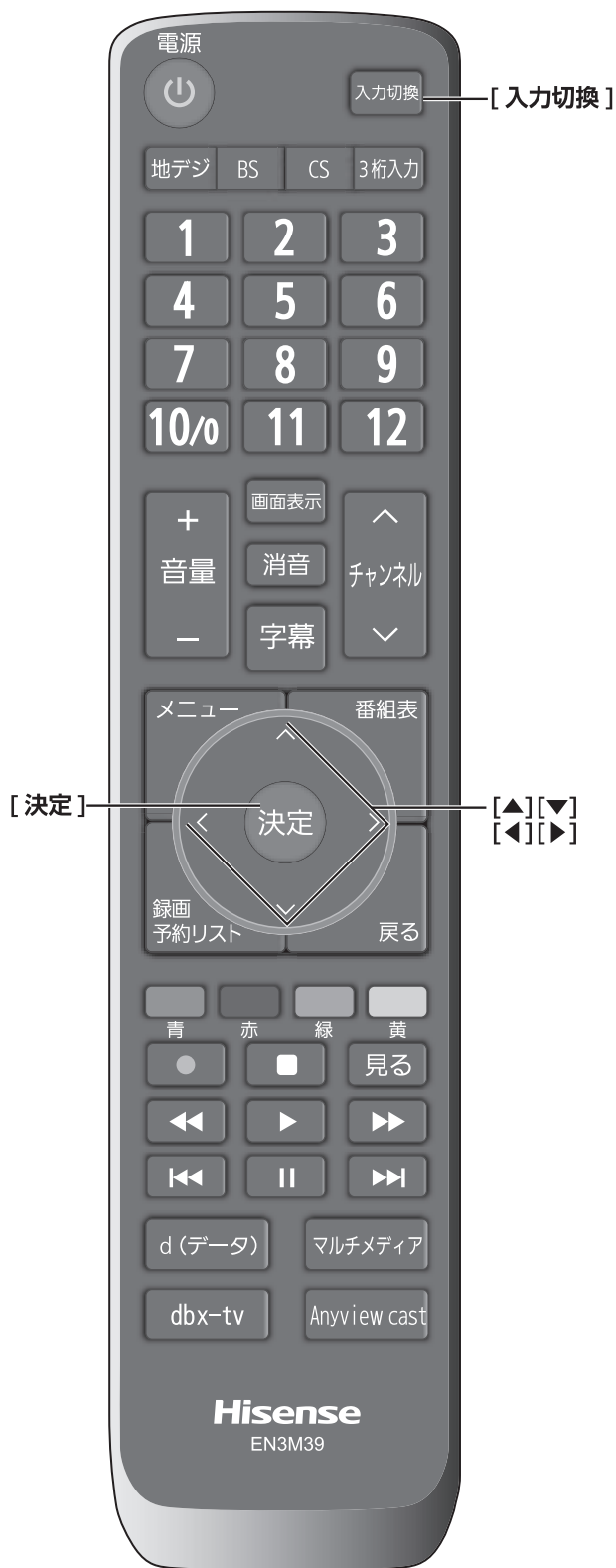
ある場面を止める	再生中に[一時停止]を押す。	もとに戻すには[再生]を押す。
再生を停止する	再生中に[停止]または[戻る]を押す	もとに戻すには、リモコン上の[決定]を押す。
早送り再生	再生中にリモコンの[早送り]を押す	押すたびに早送り速度が速くなります(×2、×4、×8、×16、×32)、もとに戻すには[再生]を押します。
早戻し再生	再生中にリモコンの[早戻し]を押す	押すたびに早戻し速度が速くなります(×2、×4、×8、×16、×32)もとに戻すには[再生]を押します。

接続した機器を使う

この章では、他の機器を接続した場合の操作方法について説明します。

接続した機器の映像を見る	62
写真、動画や音楽を再生する.....	63

● 接続した機器内の映像を再生する



1 入力を切り換える

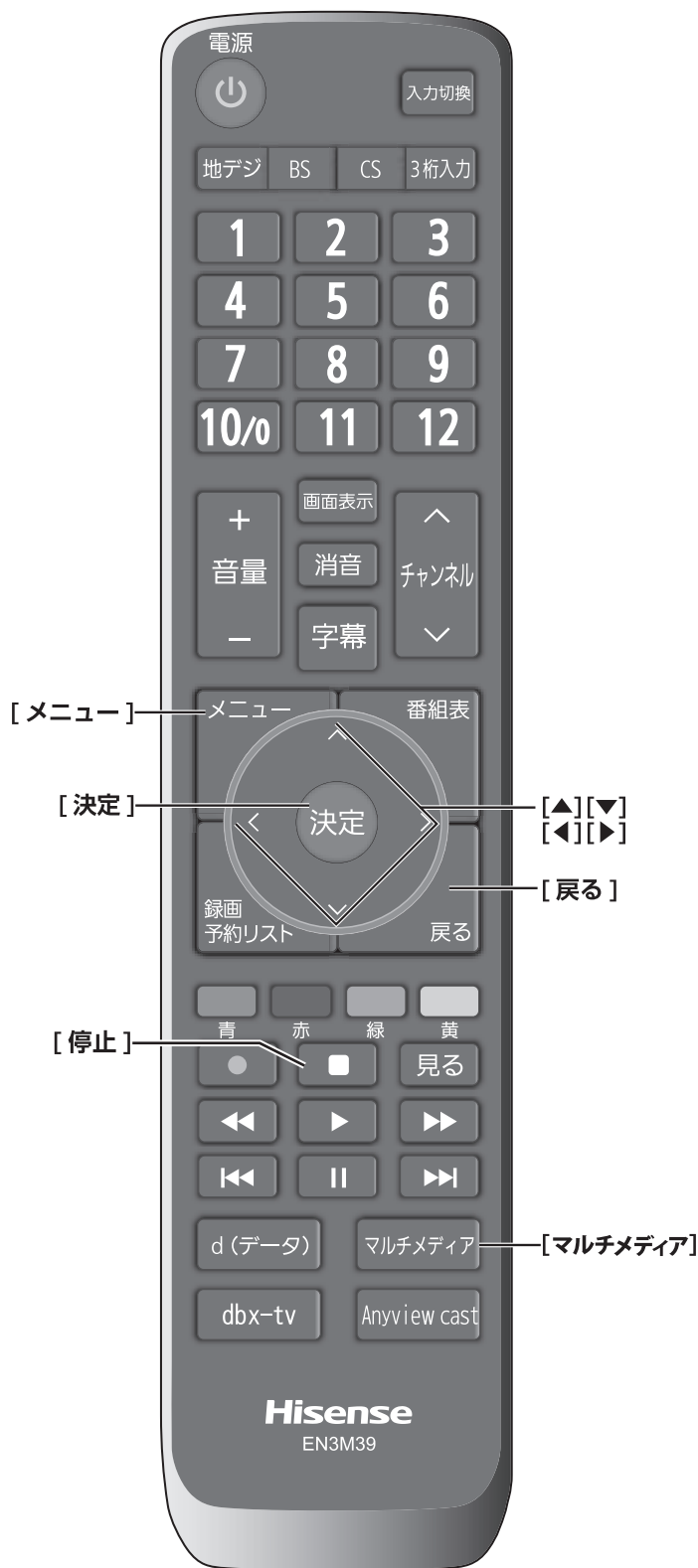
外部機器の接続を確認してください。

- 1 リモコンの[入力切換]を押す。
- 2 リモコンの[▲][▼]を押して、入力を選択し、[決定]を押します。

お知らせ

- 接続される機器により入力表示を変更することができます。

写真、動画や音楽を再生する



接続を確認してください

再生したい USB ハードディスクが本体の USB 端子に接続されていることを確認してください。

再生をする

- 1 リモコンの [マルチメディア] を押します。

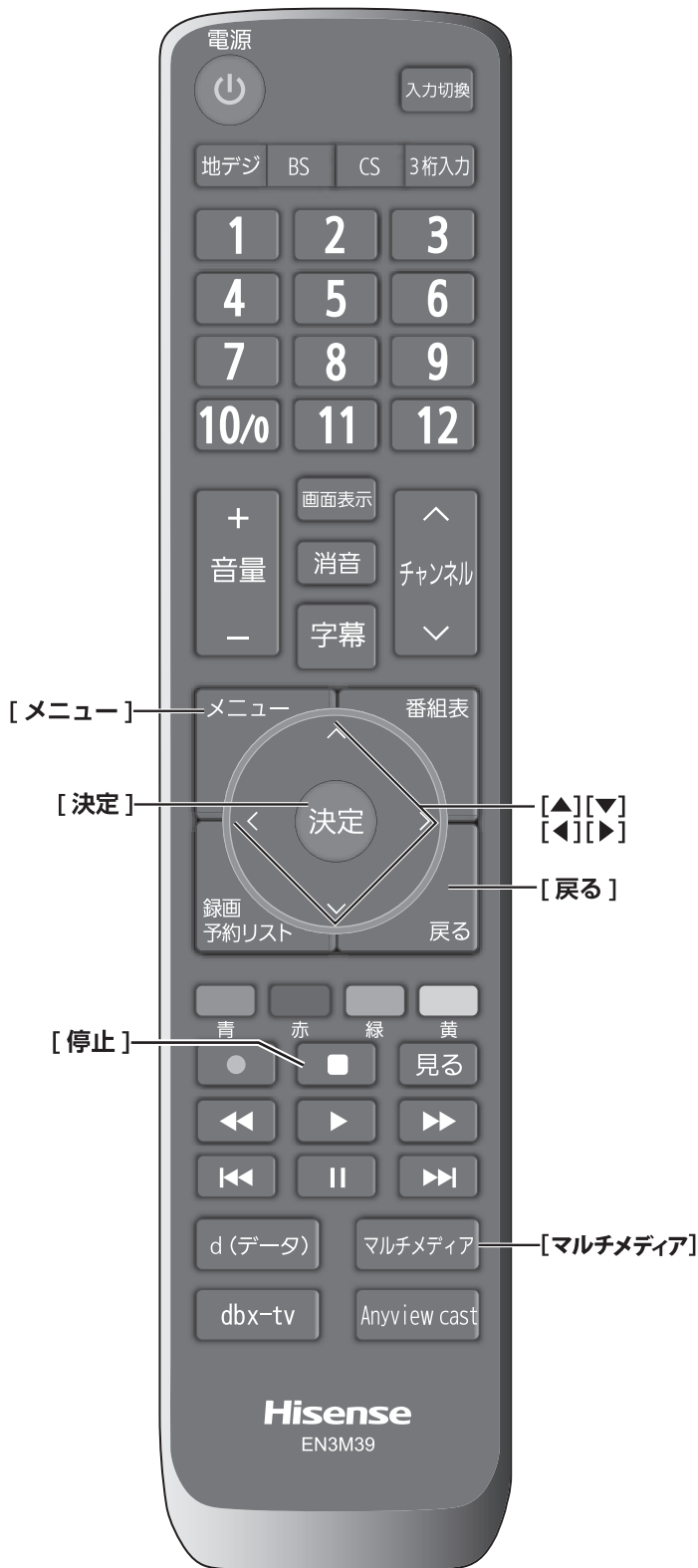


- 2 リモコンの [◀]/[▶] を押して、写真、動画、音楽または全てのいずれかを選択し、[決定] を押して、確定します。キャンセルを押して、戻ります。
- 3 リモコンの [▲]/[▼]/[◀]/[▶] を押して、再生したい機器を選択し、[決定] を押します。
- 4 リモコンの [▲]/[▼]/[◀]/[▶] を押して、再生したいフォルダまたは写真/動画/音楽を選択し、[決定] を押します。
- 5 リモコンの [戻る] を押して、再生から戻ります。

お知らせ

- 再生中にリモコンの [メニュー] を押して、オプションが表示されます。再生の詳細設定ができます。

写真、動画や音楽を再生する



接続した機器を使う

USB 機器内の写真を再生する

PC で保存した USB ハードディスク、USB メモリー内にある写真（画像）を見ることができます。表示可能な画像データは、JPEG/BMP/PNG 形式です。その以外の写真（プログレッシブ JPEG 形式、JPEG2000 形式）は再生できません。

- 1 リモコンの [マルチメディア] を押します。
- 2 リモコンの [◀]/[▶] を押して、写真または全てのいずれかを選択し、[決定] を押します。
- 3 リモコンの [▲]/[▼]/[◀]/[▶] を押して、接続されている機器を選択し、[決定] を押します。
- 4 リモコンの [▲]/[▼]/[◀]/[▶] を押して、再生したいフォルダまたは画像を選択し、[決定] を押します。
- 5 再生画面でリモコンの [▼] を押すとサムネイルを表示することができます。
[◀]/[▶] を押すと、前 / 次の画像を表示します。
サムネイル画面を消すときは、[▲]/[戻る] を押します。
- 6 リモコンの [停止] または [戻る] を押して、再生から戻ります。

スライドショーの設定をする

- 1 画像再生中、[決定] を押して、スライドショーを開始します。再度 [決定] を押すと、スライドショーから戻ります。
- 2 画像再生中にリモコンの [メニュー] を押して、詳細設定画面が表示されます。スライドショー設定を選択し、スライドショーの表示間隔を設定できます。

写真、動画や音楽を再生する

USB 機器内の動画を再生する

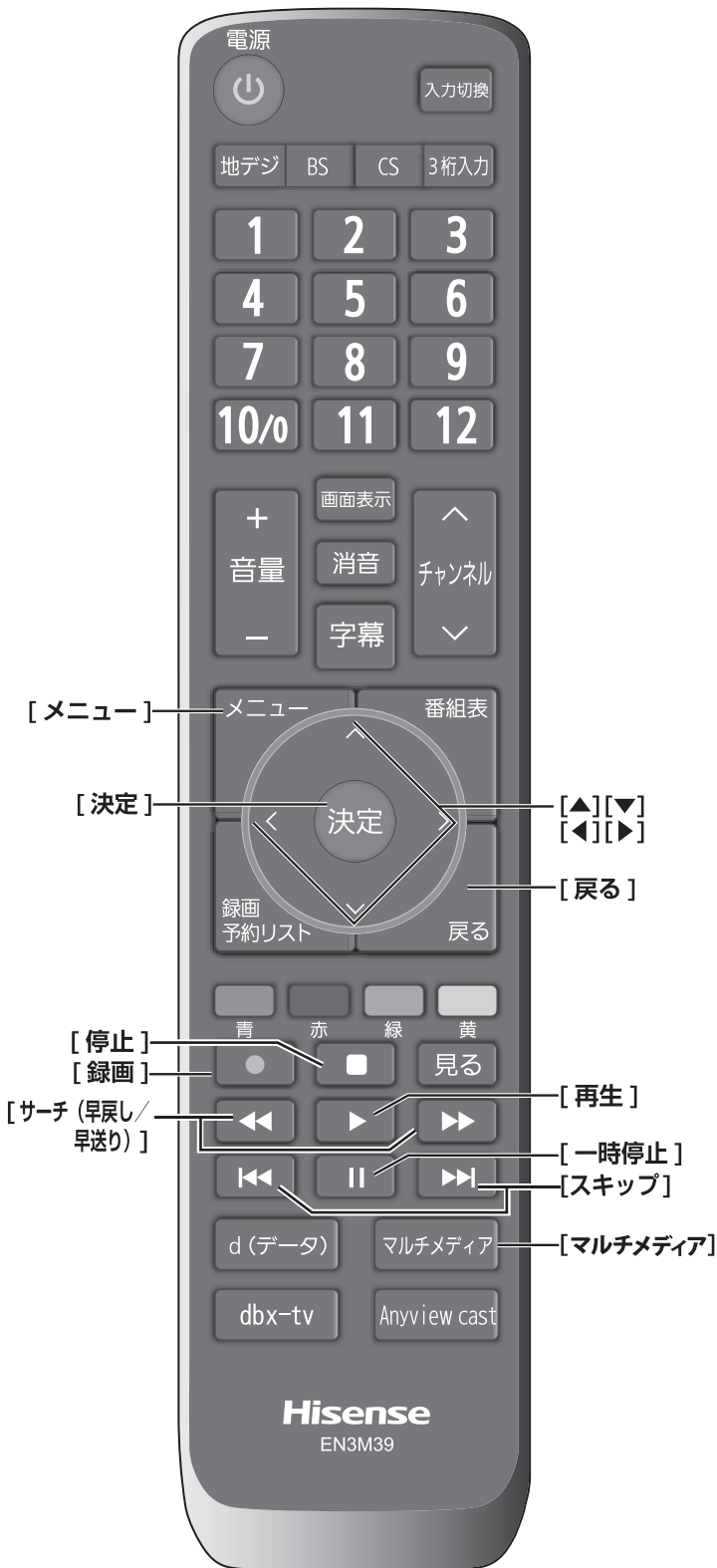
PC で保存した USB ハードディスク、USB メモリー内にある映像を見ることができます。

- 1 リモコンの [マルチメディア] を押します。
- 2 リモコンの [◀]/[▶] を押して、動画または全てのいずれかを選択し、[決定] を押します。
- 3 リモコンの [▲]/[▼]/[◀]/[▶] を押して、接続されている機器を選択し、[決定] を押します。
- 4 リモコンの [▲]/[▼]/[◀]/[▶] を押して、再生したいフォルダまたは映像を選択し、[決定] を押します。
- 5 再生画面に、リモコンの [▲]/[▼] を押すと、前 / 次の映像を表示します。
リモコンの [◀]/[早戻し] を押すと、早戻し再生します。リモコンの [▶]/[早送り] を押すと、早送り再生します。
リモコンの [一時停止] または [決定] を押すと、映像再生を一時停止します。[再生] または [決定] を押すと、再び映像再生します。
- 6 リモコンの [停止] または [戻る] を押すと、映像再生から戻ります。

USB 機器内の音楽を再生する

PC で保存した USB ハードディスク、USB メモリー内にある音楽を再生することができます。

- 1 リモコンの [マルチメディア] を押します。
- 2 リモコンの [◀]/[▶] を押して、音楽または全てのいずれかを選択し、[決定] を押します。
- 3 リモコンの [▲]/[▼]/[◀]/[▶] を押して、接続されている機器を選択し、[決定] を押します。
- 4 リモコンの [▲]/[▼]/[◀]/[▶] を押して、再生したいフォルダまたは音楽を選択し、[決定] を押します。
- 5 再生画面に、リモコンの [◀]/[▶] を押すと、前 / 次の音楽を再生します。
リモコンの [一時停止] または [決定] を押すと、音楽再生を一時停止します。
[再生] または [決定] を押すと、再び音楽再生に戻ります。
- 6 リモコンの [停止] または [戻る] を押すと、音楽再生から戻ります。



接続した機器を使う

その他の情報

この章では、故障かなと思った場合の対処方法や用語の説明など、必要に応じてご参照いただく内容を記載しています。

故障かな？と思ったら	68
用語の解説.....	72
主な仕様	74
無線の周波数について.....	79
保障とアフターサービス.....	80

故障かな？と思ったら

お問い合わせの前に

まず、以下の点をご確認ください。

- ・アンテナ線や電源コード、その他の接続
- ・入力切換の設定

以下の状態は故障ではありません。

画面の中に、点灯したままの点(輝点)、または点灯しない点(減点)がある

画面上に赤や青、緑の点(輝点)が消えなかったり、黒い点(減点)が表れたりしますが、故障ではありません。液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があることがあります。

時々ピシピンというきしみ音が出る

周囲との温度差によってキャビネットがわずかに伸縮するために起こる音です。故障ではありません。性能などにおよぼす悪影響

もありません。

デジタル放送のチャンネルを変えたり、番組が切り換わったりするときにノイズが出る

デジタルハイビジョン信号と標準テレビ信号など、映像の解像度に変化するときに、同期信号など白い線が見えることがあります。

豪雨や豪雪のときに、映像が乱れたり、まったく映らなくなったりする

衛星放送のアンテナは、比較的天候の影響を受けやすいため、豪雨や豪雪の際は受信感度が落ちることがあります。受信する地域が晴れていても、放映している地域の天候が悪いと、映りが悪くなることがあります。

深夜一時的に映像が映らなくなる

春分の日や秋分の日前後20日程度は、人工衛星が地球の陰に入るため、深夜一時的に映像が見られなくなることがあります。

原因と対策

● 全般

問題	原因	対策
映像も音も出ない。	電源プラグがコンセントから抜けている。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	入力選択が適切でない。	見たい映像入力を選択してください。
電源が突然切れた/いつの間にか切れていた。	スリープタイマーが設定されている。	スリープタイマーをオフにしてください。
	無信号電源オフが働いた。	再度電源を入れてください。
リモコンが動作しない。	電池が適切に入っていない。	指定された電池を、指定された向き(＋、－)で、適切に入れてください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。
	向きが適切でない。	リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
	近くに電子レンジがある。	近くに電子レンジがあると、操作を受け付けない場合があります。できるだけ本機と電子レンジは離して設置してください。

故障かな？と思ったら

● 映像(デジタル放送)

問題	原因	対策
映像も音も出ない。	強風などでアンテナの向きが変わっている。	アンテナの向きを適切に調整してください。
	入力選択が適切でない。	見たい映像入力を選択してください。
	アンテナ電源が「切」になっている。	アンテナ電源を「入」に設定してください。
	B-CAS カードが適切に挿入されていない。	適切に挿入してください。
地上デジタルの受信設定ができない/放送を受信できない。	アンテナが適切に接続されていない。	地上デジタルアンテナ入力にアンテナをしっかりと接続してください。
	アンテナが地上デジタルに対応していない。	地上デジタルに対応したアンテナを使用してください。
	チャンネル設定をしていない。	チャンネル設定をしてください。
地上デジタルが映らない/画像が乱れる。	アンテナ線の接続部が緩んでいる。	しっかりと接続してください。
	アンテナの位置/方向/角度が適切でない。	受信レベルが 50 以上になるようにアンテナの位置/方向/角度を適切に調整してください。
	本機の近くで携帯電話や電子レンジを使用している。	本機の近くでの携帯電話や電子レンジの使用をおやめください。
	チャンネル設定が適切でない。	チャンネル設定をし直してください。
	ブースターのレベルを上げすぎている。	ブースターのレベルを下げてください。
BS デジタル/110度CS デジタルが映らない/画像が乱れる。(衛星アンテナを直接つないでいる場合)	衛星アンテナがデジタル放送受信に対応していない。	デジタル放送に対応しているアンテナをご利用ください。
	衛星アンテナの前に障害物がある。	障害物を取り除くか、アンテナの取り付け位置を変更してください。
	衛星アンテナに雪が付着している。	雪を取り除いてください。
	衛星アンテナのコネクターの防水が不十分。	防水型のコネクターをご利用ください。
	アンテナケーブルの芯線が適切にコネクターに差し込まれていない。	適切に差し込んでください。
	衛星アンテナの電源が入っていない。	衛星アンテナの電源は「オン」にしてください。
	衛星アンテナの位置/方向/角度が適切でない。	適切に調整してください。
BS デジタル/110度CS デジタルが映らない/画像が乱れる。(マンションなどの共同受信システムの場合)	アンテナケーブルの芯線が適切にコネクターに差し込まれていない。	適切に差し込んでください。
	分波が適切でない。	BS・CS/U/V 分波器で、VHF/UHF と BS デジタル/110度CS デジタルを分波してください。
BS デジタル/110度CS デジタルが映らない/画像が乱れる。(複数の衛星機器を分配器でつないでいる場合)	衛星アンテナ用電源を供給する機器のスイッチが「オン」になっていない。	「オン」にしてください。
BS デジタル/110度CS デジタルが映らない/画像が乱れる。(その他)	本機の近くで携帯電話や電子レンジを使用している。	本機の近くでの携帯電話や電子レンジを使用しないでください。
	指定されたケーブルを使用していない。	指定されたケーブルを使用してください。
	有料チャンネルの受信申し込みが完了していない。	所定の手続きによって契約を完了させてください。
BS デジタルは映るのに、110度CS デジタルが映らない。	アンテナや分配器、ブースターなどが110度CS デジタルに対応していない。	110度CS デジタルに対応したものをお使ってください。
	衛星アンテナの受信レベルが低い。	衛星アンテナを適切に設定してください。
	受信契約が完了していない。	所定の手続きによって契約を完了させてください。

● 故障かな？と思ったら

● 接続した機器について

問題	原因	対策
接続した機器の映像が出ない。	コードの接続部が緩んでいる。	しっかりと接続してください。
	入力選択が適切でない。	見たい映像入力を選択してください。
	接続した機器の出力設定が適切でない。	接続した機器の取扱説明書をご覧になり設定し直してください。
ビデオの再生 / 録画時に縞状のノイズが出る。	ビデオデッキが本機の近くにあるため、電磁波の干渉が起きている。	ビデオデッキを本機からなるべく離して設置してください。

● 音声(全般)

問題	原因	対策
映像は出るが、音が出ない。	音量が下がりがきっているか、「消音」になっている。	音量を上げてください。
片方からしか音が聞こえない / 左右の音量に差がある。	バランス設定が適切でない。	設定メニューでバランスを調整してください

● 音声(デジタル放送)

問題	原因	対策
音声が出ない / 音がおかしい。	主音声 / 副音声の設定が適切でない。	主音声 / 副音声の設定をし直してください。

● 音声(接続した機器)

問題	原因	対策
画像は出るが、音が出ない。	接続した機器の音声出力設定が適切でない。	接続した機器の取扱説明書をご覧になり、設定し直してください。
	音声ケーブルが正しく接続されていない。	音声ケーブルを正しく接続してください。

● 番組表

問題	原因	対策
番組表や他チャンネルリストが表示されないチャンネルがある。	一定時間視聴するか、スタンバイ状態でしばらくしないと番組表を取得されません。(スタンバイ状態で深夜自動取得する)	しばらくお待ちいただくか、スタンバイ状態にしてください。
	お住まいの地域が変わった。あるいは前回のチャンネルスキャン後に放送周波数が変更された。	お住まいの都道府県地域を適切に設定し、チャンネルスキャンをし直してください。
チャンネルスキャンで表示される番組が少ない。	電源を切っている間は、放送局が送信する番組情報を取得できないため。	しばらくお待ちください。
ジャンル検索した番組のジャンルが、番組説明で表示されるジャンルと異なっている。	番組説明ではひとつのジャンルのみが表示されますが、1つの番組が複数のジャンルを持っており、それぞれのジャンルで検索できるためです。	
地上デジタルの放送局のロゴが表示されない。	一定時間視聴しないと、表示されません。	しばらくそのままお待ちください。

故障かな？と思ったら

● USB ハードディスクへの録画や編集について

問題	原因	対策
録画できない。	USB ハードディスクを USB 端子にきちんと接続していない。	USB ハードディスクの接続を確認してください
	接続した USB ハードディスクを登録し、録画用に設定していない。	USB ハードディスクを録画用に設定する必要があります。
	録画禁止の番組を録画しようとしている。	番組内容でご確認ください。
	USB ハードディスクの残量が少ない。	不要になった番組を消去してください。
	ラジオ放送は録画できない。	番組内容でご確認ください。
録画予約が実行されない。	録画予約した後、録画用に設定した USB ハードディスクを外している。	予約した録画が実行完了する前に、録画用 USB ハードディスクを外さないでください。
	録画予約した後、本機の電源プラグを外している。	本体の電源プラグを外した場合、録画予約が実行されません。録画予約中はリモコンで電源を [切] にしてスタンバイ状態にしてください。
録画番組を消去できない。	番組にプロテクト設定をした。	プロテクト設定を変更してください。
録画番組の一部または、すべてが消えた。	録画や再生中に停電になったり、電源プラグが抜けるなどで電源が切れると、番組が消えたり、USB ハードディスクが使えなくなる場合があります。	
データ放送の録画ができない。	本機では録画できません。	
再生していると途中で映像が乱れたり、ノイズが出たりする。	天候などにより電波の悪い状態で録画した番組を再生した場合に発生することがあります。	
	アスペクト比(映像の横縦比)や解像度の異なる場面のつなぎ目では、一瞬画像が乱れたり、黒い画面になる場合があります。	
	番組と番組のつなぎ目部分など、正しい画面が出るまで静止画になったりモザイク状のノイズが出る場合があります。	
	シーンの切り換わりで、映像や音声がかれたりする場合があります。	

● その他

問題	原因	対策
[チャンネル ^]/[チャンネル v]で選局できない。	お買い上げ時は、デジタル放送の放送サービス(テレビ、ラジオ、独立データ)内で順送りに選局します。	ご覧になっている放送(地上デジタル、BS デジタル、110度CS デジタル)と放送サービス(テレビ、ラジオ、独立データ)をご確認ください。
	チャンネル登録されてない。	チャンネル登録をしてください。
	複数のチャンネルで同時に同じ番組を放送しているときに、代表チャンネル以外を選局しようとしている。	代表チャンネル以外は選択できませんので、代表チャンネルで選局してください。
ペーパービューなどの有料放送が購入できない。	LAN 回線に適切につながっていない。	ペーパービューの購入には LAN 回線への接続が必要ですので、適切に接続してください。
	LAN 回線の種類などが適切でない。	回線業者やプロバイダーにお問い合わせください。
	購入可能時間以外に購入しようとした。	番組によっては購入可能時間が設定されていますので、購入可能時間内に購入してください。
	購入可能件数を超えている。	購入可能件数を超えると購入できませんので、購入できるようになるまでお待ちください。
設定が正しく反映されない。	本機に設定が反映(記録)される前に電源プラグを抜いた。	デジタル放送の信号には、多くの情報が含まれています。そのため、メニューの項目を設定した直後(約 2 分以内)に電源プラグを抜くと、設定した内容が反映されないことがあります。このときは、もう一度設定をし直してください。
メニューが表示されない。	入力によっては表示されないメニューもあります。	入力を切り換えてください。
リモコンの数字ボタンのチャンネル割り当てがおかしい。	チャンネル設定の都道府県地域設定が適切でない。	お住まいの都道府県地域を適切に設定し、チャンネルスキップをし直してください。



用語の解説

下記は一般的な用語解説です。本機の仕様とは異なっている場合があります。

110度CSデジタル放送

BS デジタル放送の放送衛星(BS)と同じ東経 110 度に打ち上げられた通信衛星(CS)を利用した新しいデジタル放送です。多数の専門チャンネルの中から見たいチャンネルのみを購入して視聴する仕組みになっています。一部、無料放送もあります。

5.1ch

左右のフロントスピーカー、センタースピーカー、左右のサラウンドスピーカーとサブウーファーから、それぞれ独立した音声を出力できるサラウンド方式です。臨場感と迫力のある音声を楽しむことができます。

AAC (Advanced Audio Coding)

デジタル放送で標準に定められたデジタル音声圧縮方式です。高い圧縮率で高い音質を実現します。

B-CAS カード

デジタル放送を見るために必要な IC カードです。ユーザー認識のための番号や、チャンネルの契約・購入内容などの情報が記録されます。

BS デジタル放送

2000 年 12 月から本格サービスが開始された衛星放送です。高画質で多チャンネルの放送を楽しむことができます。高音質のデジタル音声放送(BS ラジオ)、ニュース・スポーツ・番組案内などの情報提供、オンラインショッピングやクイズ番組などへの参加が可能なデータ放送など、多彩なサービスを行います。

CATV(ケーブルテレビ)

同軸ケーブルや光ケーブルなどのケーブルを用いて行われる有線放送のことです。ケーブルテレビ局と契約することにより視聴できます。地域密着型の情報発信などが特徴でしたが、最近では多チャンネル放送や自主放送を行う都市型のケーブルテレビ局も増えてきています。

D 端子

アナログ映像の伝送に適した、日本独自のコネクタの通称です。輝度信号(Y)と色差信号(Cb/Cr, Pb/Pr)で構成されるコンポジット信号は従来 3 本のケーブルで接続していましたが、これを一本にまとめたものが D 端子です。また、これらの信号の他に走査線数・走査方式・アスペクト比を切り換えるための識別信号の伝送も可能です。

EPG (電子番組表)

デジタル放送で放送局から送られてくる番組データを利用してつくる電子番組表のことです。

HDMI (High Definition Multimedia Interface)

PC とディスプレイの接続標準規格である DVI に、マルチチャンネル音声伝送機能や著作権保護機能、色差伝送機能を加えるなど AV 家電向けにアレンジしたインターフェースです。1 本で非圧縮の映像・音声信号と制御信号を伝送できるので、AV 機器間の連携が容易にできます。

MPEG (Moving Picture Experts Group)

デジタル動画圧縮技術の 1 つです。動画中の動く部分だけを保存するなどしてデータを圧縮します。デジタルテレビでは通常 MPEG-2 が採用されていますが、これは 動画データを 40 分の 1 程度に圧縮することができます。

NTSC (National Television Standards Committee)

地上波アナログカラーテレビ放送標準の一つで、日本や北米、中南米で採用されています。水平方向の走査線数が 525 本で毎秒 30 フレーム(1 秒間に 30 回画面を書き換える)のインターレース方式で、水平走査周波数は 15.75kHz、垂直走査周波数は 60Hz です。

PCM (Pulse Code Modulation)

音声などのアナログ信号をデジタル信号に変換する方式の 1 つです。音楽 CD (CD-DA) はこの方式を採用しています。

PPV (Pay Per View)

番組単位で購入する有料番組のことです。

イベントリレー(放送時間変更)

番組の途中で割り込みがあったり、その他の理由で番組が放送予定時間内に終わらなかった場合に、他のチャンネルで引き続き放送を行うことです。

インターレース(飛び越し走査)

NTSC 方式のテレビやビデオの画像表示では、525 本の走査線があります。このうち、まず奇数段目の走査線 262.5 本を 1/60 秒で描き(この画面を 1 フィールドといいます)、次に偶数段目を同様に描き、これを合わせることによって 525 本の完全な画像(フレーム)を作っていく方式です。「525i」「1125i」の「i」は、このインターレース(interlaced)を指しています。

コンポジット接続

通常の映像端子を使って映像信号を伝送する、最も普及している方式です。映像端子は通常 1 つのみで、音声端子と同じ形状で、色は黄色です。赤と白の音声出力と一緒に 3 本で接続するのが一般的です。



用語の解説

緊急警報放送

地上デジタル / BS デジタルのマルチ放送を利用し、地震などの災害時に放送される緊急ニュースなどを流します。

降雨対応放送

激しい雨による映像・音声の遮断を防ぐために、通常の放送と平行して降雨に強い方式で同じ番組を放送するものです。(放送局によっては対応していません)

字幕放送

セリフなどの音声を、文字にして画面に表示することができる放送です。

走査線

テレビでは、映像を細い糸のように分解し、横方向に走らすことによって画面を作っています。この糸を走査線といいます。走査線の数が多いほど画質がよくなります。

地上デジタル放送

2003年12月から一部地域で放送が開始された、地上波によるデジタル放送です。UHFの周波数帯域を利用して放送されます。ゴーストの無い高画質な映像と多チャンネルの放送を楽しむことができます。デジタルハイビジョン放送やデータ放送、双方向サービスなどを楽しむことができます。

デジタルハイビジョン放送

アナログ放送の走査線が525本であるのに対し、1125本や750本のプログレッシブの高画質な映像です。大画面の映像に適しています。

プログレッシブ(順次走査)

飛び越し走査(「インターレース」の項目を参照)をしないで、全ての走査線を順番に描く方法です。インターレースに比べて画像のチラツキが少なく、文字や静止画を表示することに適しています。「525p」「750p」の「p」はプログレッシブ(progressive)を指します。

マルチチャンネル放送

地上デジタルやBSデジタルの標準テレビ信号(SD)で、1つの放送局で複数の番組を放送することです。

マルチビュー放送

前述のマルチチャンネルの技術を使って、同じ番組を別の視点から見た映像を見るなど、複数の映像を切り換えて見ることができます。

有効走査線数

走査線の中で、映像信号が載っている走査線の数を行います。アナログでは525本の走査線のうち有効走査線数は480本、デジタルハイビジョンでは1125本のうち1080本となっています。有効走査線ではない走査線には、画面の縦横比を規定した識別制御信号などが載っています。

臨時放送

前述のマルチチャンネルの技術を使って、同一放送局の他チャンネルで臨時の放送を行うことです。

物理チャンネル

地上デジタル放送は、UHFの電波を使って行われています。この電波は放送局ごとに割り当てられており(13～62ch)、このチャンネルを物理チャンネルと呼んでいます。



主な仕様

この製品は日本国内専用です。外国では電源電圧、放送方式が異なるため使用できません。

This TV is designed only for use in Japan and cannot be used in any other countries.

型名		HJ43N3000	HJ50N3000	HJ55N3000
サイズ		43V 型	50V 型	55V 型
本体 色 / 素材		前面:ヘアラインブラック/ 背面:マットブラック	前面:ヘアラインブラック/ 背面:マットブラック	前面:ヘアラインブラック/ 背面:マットブラック
電源		AC100V・50/60Hz 内蔵		
消費電力*1		115W	150W	155W
待機電力(リモコンでの電源 OFF 時)		0.5W	0.5W	0.5W
年間消費電力*2		95kWh	115kWh	127kWh
省エネ基準達成率目標年度 2012 年度)		178%	187%	196%
液晶機能	画面サイズ(横×縦)	941 mm×530 mm	1096 mm×616 mm	1209×680 mm
	バックライト	直下型 LED		
	画素数	3840 × 2160		
	パネルコントラスト	4000:1		
	視野角(上下 / 左右、 CR 値>10)	178° / 178°		
	応答速度	8ms		
チューナー	チューナー*3	地上デジタル×2 / BS・110 度 CS デジタル×2		
	受信可能チャンネル	地上デジタル UHF、CATV(パススルー方式の CATV*4)、000-999 BS・110 度 CS デジタル放送の各チャンネル		
ビデオ機能	D5 入力	480i / 480p / 720p / 1080i / 1080p		
	HDMI 入力(1080P)	480i / 480p / 720p / 1080i / 1080p		
	HDMI 入力(4K)	3840 × 2160/24Hz, 3840 × 2160/25Hz, 3840 × 2160/30Hz, 3840 × 2160/50Hz, 3840 × 2160/60Hz		
スピーカー	構成	内蔵ステレオ 1 ウェイ		
	脱着	不可能		
音声機能	出力	7W × 2	10W × 2	10W × 2
	音声多重	あり		
	サラウンド	あり		
入出力端子	アンテナ端子	地上デジタル / BS・110 度 CS デジタルアンテナ入力端子各 1		
	映像入力	コンポジットビデオ入力端子(RCAピン) × 1		
		D5 入力端子 × 1		
		HDMI 入力端子 × 3 (ARC、MHL、CEC機能対応)		
	音声入力	ステレオ入力端子(ステレオ RCA ピン) × 1		
		音声入力端子(ステレオ RCA ピン) × 1(D5 用)		
		HDMI 入力端子 × 3(映像入力と一体)		
音声出力	光デジタル音声出力端子 × 1			
	ステレオヘッドホン出力端子(ステレオミニジャック) × 1			
外付け USB ハードディスク接続	USB2.0 端子 × 1、USB3.0 端子 × 2*5			



主な仕様

デジタル放送関連	EPG(電子番組表、当日を含めて8日分)/データ放送/字幕放送			
	双方向(データ放送)サービス・イーサネット(RJ-45端子)×1			
	B-CAS ミニカードスロット×1			
録画/再生機能関連(外付けUSBハードディスク接続時)	録画機能(クイックタイマー録画(裏録画)/番組表からの録画/マニュアル録画(時間指定録画))			
	再生機能(再生/早送り再生/早戻し再生/追いかけて再生)			
	編集機能(タイトル設定)、写真、ビデオ、音楽再生機能			
赤外線リモコン	専用リモコン EN3M39			
チルト&スワイベル機能	チルトなしスワイベルなし			
壁掛け対応	あり[VESA: 200×200]			
付属品	取扱説明書、クイックスタートガイド、保証書、AC(電源)ケーブル、リモコン、転倒防止用ひも 単4乾電池×2、台座、ミニB-CASカード(レッド)			
使用環境 保存環境	温度	使用環境:5°C~35°C 保存環境:-20°C~60°C		
	湿度(結露なきこと)	使用環境:20%~65%RH 保存環境:10%~80%RH		
	高さ	使用環境:0~1,980m 保存環境:0~2,980m		
本体寸法(幅×高さ×奥行)	スタンド含む	970 mm × 618 mm × 215 mm	1129 mm × 719 mm × 256 mm	1244 mm × 786 mm × 278 mm
	スタンド含まない	970 mm × 568 mm × 88 mm	1129 mm × 654 mm × 84 mm	1244 mm × 721 mm × 85 mm
本体重量	スタンド含む	9.9 kg	13.6 kg	16.5 kg
	スタンド含まない	9.8 kg	13.3 kg	16 kg

*1 定格消費電力電気用品安全法に基づき算出しています。

*2 年間消費電力量は省エネ法に基づいて、工場出荷時の画質設定を標準設定として測定しています。

*3 地上/BS/110度CSデジタル番組を視聴中、放送の裏番組を同時に録画することができます。

*4 同一周波数パススルー方式(UHF)、周波数変換パススルー方式(VHF)の両方に対応。

*5 USBメモリーを接続して写真、映像や画像を再生することができます。

仕様の一部を予告無く変更することがありますのでご了承ください。

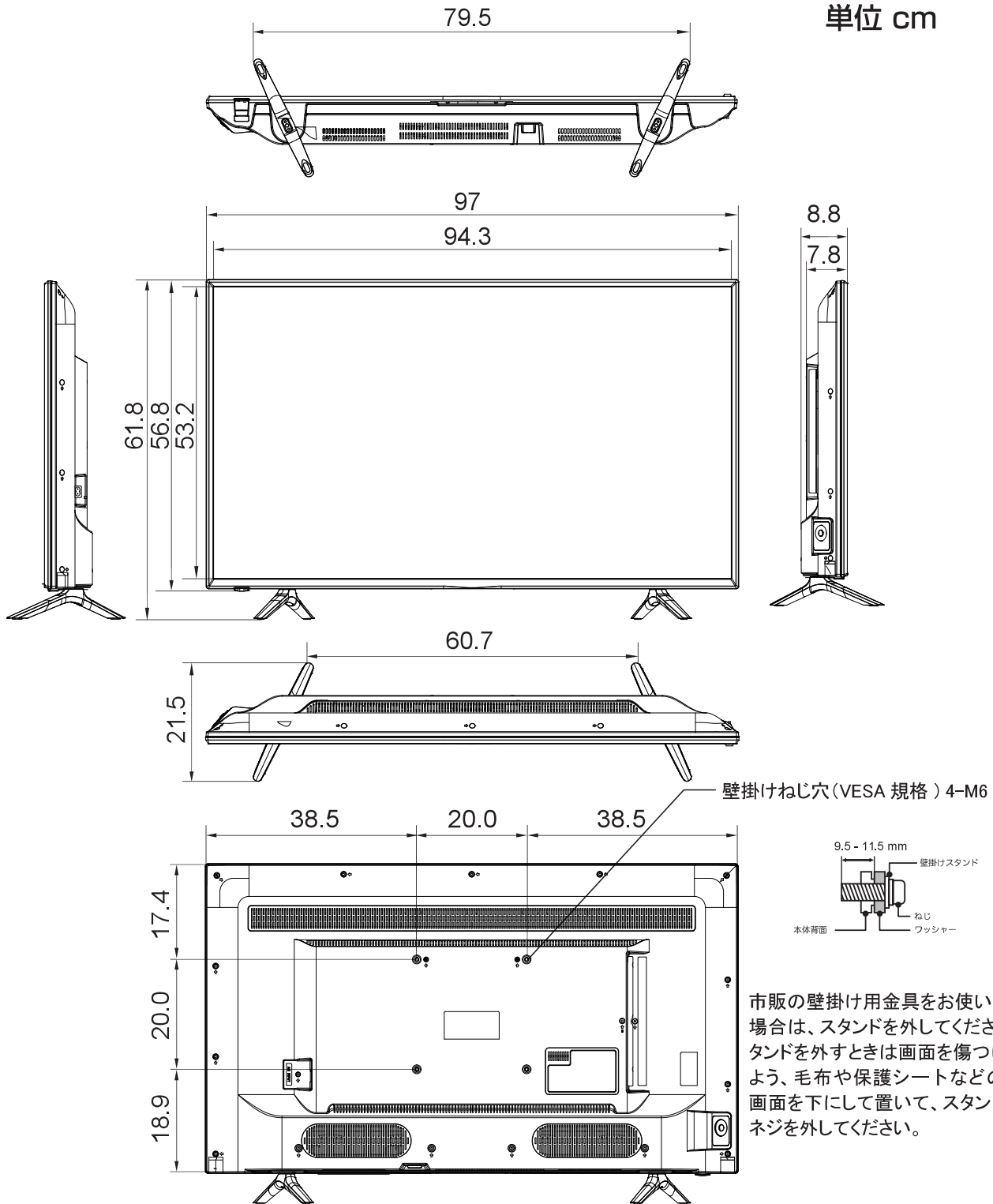
HDMI、HDMIロゴおよびHigh Definition Multimedia InterfaceはHDMI Licensing LLC.の登録商標または商標です。その他記載の会社名および製品名は各社の登録商標または商標です。

当取扱説明書の著作権はハイセンスジャパン株式会社に帰属いたします。ハイセンスジャパン株式会社の承諾なく当取扱説明書の内容の全部または一部を複製、改修したり使用したりすることは著作権法上禁止されています。

● 主な仕様

[HJ43N3000]

単位 cm

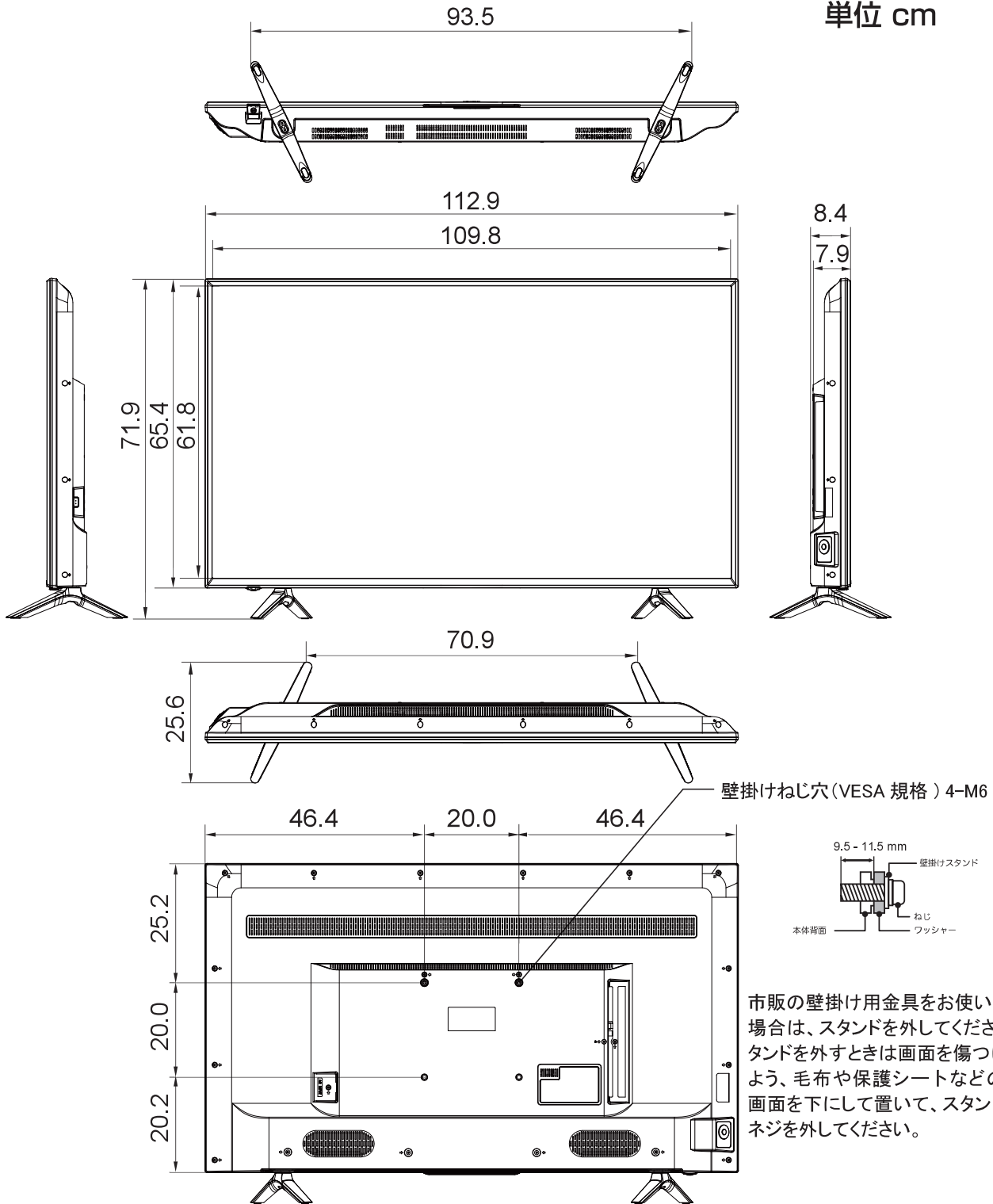


当取扱説明書の著作権はハイセンスジャパン株式会社に帰属いたします。ハイセンスジャパン株式会社の承諾なく当取扱説明書の内容の全部または一部を複製、改修したり使用したりすることは著作権法上禁止されています。

● 主な仕様

[HJ50N3000]

単位 cm

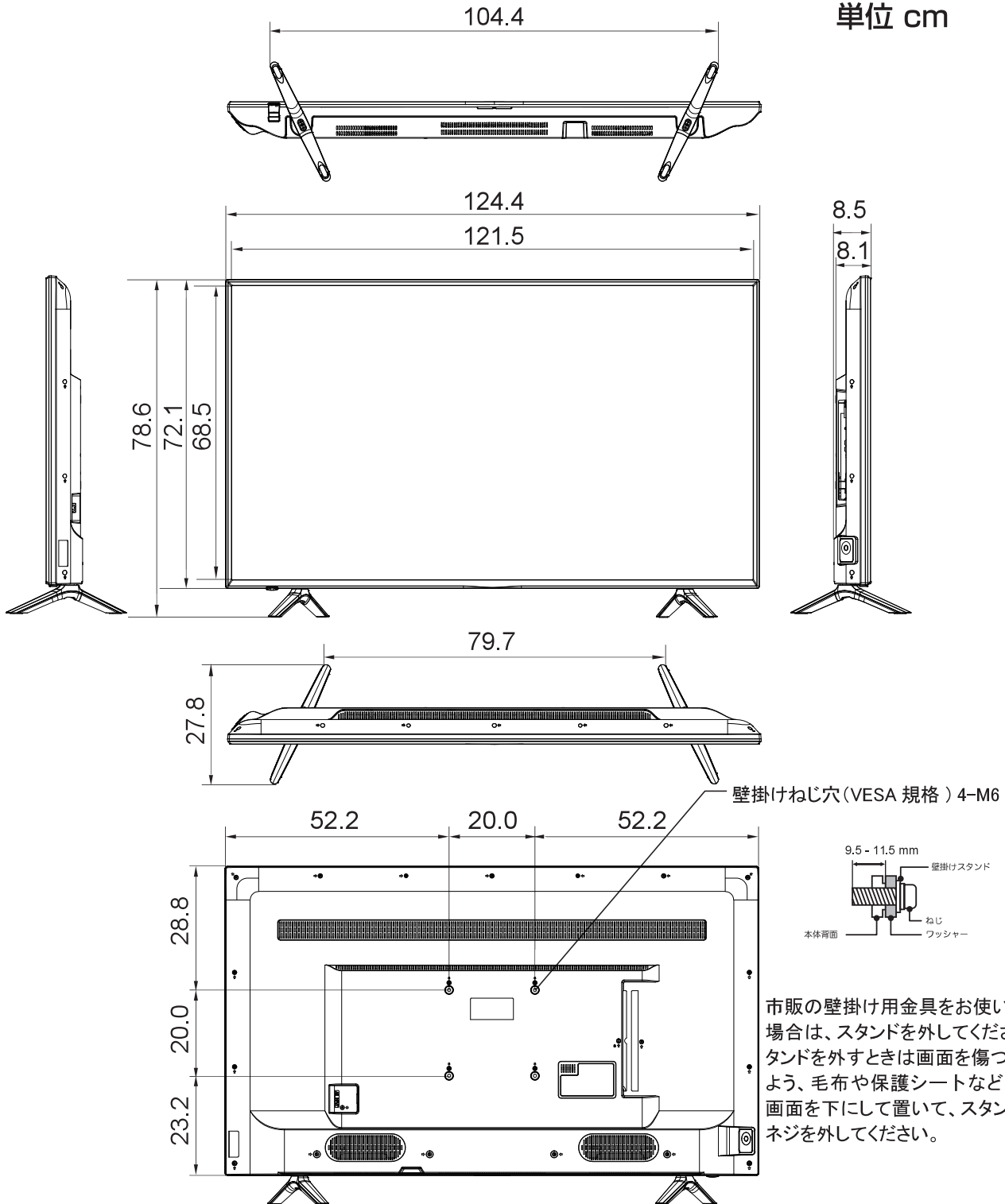


当取扱説明書の著作権はハイセンスジャパン株式会社に帰属いたします。ハイセンスジャパン株式会社の承諾なく当取扱説明書の内容の全部または一部を複製、改修したり使用したりすることは著作権法上禁止されています。

● 主な仕様

[HJ55N3000]

単位 cm



当取扱説明書の著作権はハイセンスジャパン株式会社に帰属いたします。ハイセンスジャパン株式会社の承諾なく当取扱説明書の内容の全部または一部を複製、改修したり使用したりすることは著作権法上禁止されています。

● 無線の周波数について

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、弊社サポートセンターにお問い合わせいただき、混信回避のための処理など（たとえばパーティションの設置など）についてご相談ください。
3. その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して、有害な電波障害が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

2.4 DS/OF 4

この表示のある無線機器は 2.4GHz 帯を使用しています。変調方式として DS-SS 方式および OFDM 方式を採用し、与干渉距離は 40m です。

2.4 FH1/XX 4

この表示のある無線機器は 2.4GHz 帯を使用しています。FH1 は変調方式として FH-SS 方式を採用し、与干渉距離は 10m です。

XX4 はその他の方式を採用し、与干渉距離は 40m です。

電波法に基づく認証について

本機内蔵の無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信の無線設備として認証を受けています。証明表示は無線設備上に表示されています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。使用上の注意に反した機器の利用に起因して電波法に抵触する問題が発生した場合、弊社ではこれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。

- 本機内蔵の無線装置を分解 / 改造すること
- 本機内蔵の無線装置に貼られている証明ラベルを剥がすこと

無線 LAN の周波数の見かた



① 使用周波数	2.4GHz / 5.0GHz
② 変調方式	DS-SS 方式 / OFDM 方式
③ 電波と干渉距離	40m 以下
④ 周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ構内無線機器と特定小電力機器の帯域を回避可能であることを意味する。

準拠規格：IEEE802.11 a/b/g/n/ac

使用周波数範囲 / チャンネル（中心周波数）

2.412-2.472GHz / 1-13ch, 14ch
 5.180-5.240GHz / W52 : 36, 40, 44, 48ch
 5.260-5.320GHz / W53 : 52, 56, 60, 64ch
 5.500-5.700GHz / W56 :
 100, 104, 108, 112, 116, 120, 124, 128, 132, 136, 140ch

セキュリティ：

WAP2-PSK(TKIP/AES)
 WPA-PSK(TKIP/AES)
 WEP(64bit / 128bit)

※ 本機の無線装置を屋外で使用することは禁止されています。

保証とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではご利用いただけません。

This TV is designed only for use in Japan and cannot be used in any other countries.

保証書について

本機には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、販売店よりお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をよくお読みいただき、大切に保存してください。保証期間はお買い上げの日から3年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな?と思ったら」をご参照いただき、故障かどうか確認してください。

それでも具合が悪いときは

弊社サポートセンターへお問い合わせください。

● 電話によるお問い合わせ

受付時間:月曜～金曜 9:30～18:00(祝祭日、年末年始、夏季休業期間を除く)

フリーダイヤル :0120-987-924

● FAXによるお問い合わせ

FAX番号:03-4218-4712(有料)

※お客様のご連絡先、型番、購入年月日、お買い上げ店、故障状況を詳しく記載してください。

● メールによるお問い合わせ

電子メールでのお問い合わせは <http://www.hisense.co.jp> のお問い合わせのページで受け付けています。お客様のご連絡先、型番、ご購入年月日、お買い上げ店、故障状況を詳しく記載してください。

※サポート受付に関しては変更させていただく場合がございます。

弊社ホームページでサポート時間などをご確認の上、ご利用されるようお願いいたします。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

本機の不具合・修理など、何らかの原因で、本機のメモリーに保存されたデータが破損・消滅した場合など、いかなる場合においても記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。また、いかなる場合においても、当社にて記録内容の修復は致しません。あらかじめご了承ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

補修用性能部品の保有期間8年

この商品の補修用性能部品は、製造元が製造打ち切り後、8年保有しています。

注)補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。

● 保証とアフターサービス

●ご相談になるときは以下のことをお知らせください。

型名：

製造番号：

使用状況や故障の状態(できるだけ詳しく)：

購入年月日：
年 月 日

お買い上げ店：

Hisense

ハイセンスジャパン株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3丁目10番地

<http://www.hisense.co.jp>

本書に記載されている内容は、予告なく変更されることがあります。あらかじめご了承ください。
本書の内容は無断で転載、コピーすることは禁止されております。

© Hisense Japan Corporation